

鹿児島高専 だより

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN),
KAGOSHIMA COLLEGE

第79号

令和7年3月



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校

目 次

● 校長室から	1
● 世界へ翔け！高専生！	2
● 鹿児島高専 SupportingStudentDreams	10
● 学生の活躍～部活動編～	18
● 頑張ってます！課外活動！	29
● 学生表彰	30
● 学生会だより	34
● 寮生会だより	36
● 部活動紹介	37
● 旅立ちに寄せて～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～	45
● 卒業生及び修了生の就職・進学先一覧	52
● 卒業生の現在	55
● 教務だより	60
● 総務企画だより	61
● 学生だより	62
● 志学寮だより	63
● 専攻科だより	64
● 国際交流だより	65
● 地域共同テクノセンターだより	66
● 退職の挨拶	67
● 新任教員の紹介	69
● 後援会だより	72
● 令和6年度 主な学校行事	74



校長室から



地域とともに

校長 上田 悦子

私が鹿児島に来て、もうすぐ2年が過ぎようとしています。鹿児島での日々の生活にもずいぶん慣れましたが、枕崎、南大隅、肝付町方面そして島嶼部など、私が行ったことのない地域がたくさんあり、まだまだワクワクな毎日を過ごしています。さて、私が鹿児島高専に来て強く感じたのは、学生、教職員以外にも本校を大切に思ってくれる方が地域にたくさんおられるということです。後援会や同窓会、そして鹿児島高専テクノクラブ、隼人錦江スポーツクラブなど本校と縁の深い組織がその代表であると思っています。

後援会は、学生の皆さんの保護者全員で組織された会であり、本校教育の充実そして課外活動へのご支援とご協力をいただいています。例えばTOEIC受験料、学生表彰副賞、国際交流促進、また課外活動各種大会出場への旅費補助などにより、皆さんの学生生活の充実を支援してくださっています。同窓会は、本校OB/OGにより構成され会員相互の親睦を図りながら、本校教育活動への支援も続けてくださっています。また、高専同窓会組織としては珍しく一般社団法人化され活発な活動が継続されています。OB/OGの社会での活躍が本校の評価を高め、それが在校生への期待につながっていることを、学生の皆さんは今一度再認識していただきたいと思っています。OB/OGの方々からの母校に対する思いと期待に応えられるよう、私も学校運営に励んで参ります。鹿児島高専テクノクラブは、南九州地域の有志企業と本校が連携し、平成10年に設立された産学官交流組織です（特別会員として霧島市、始良市など鹿児島県下の自治体も参加されてい

ます）。本校の地域共同テクノセンターが窓口となって地域企業の技術向上や本校との産官学連携活動を推進しています。本校教育の中では、地域企業特別講義や地方創生特別講義、また地域企業見学や地域企業研究会などにより、学生の皆さんが地域企業への理解を深め、地域創生推進に資するための事業をいただいています。隼人錦江スポーツクラブは、本校と隼人町（現：霧島市）との連携により、平成15年に設立された総合型地域スポーツクラブです。地域住民が健康で豊かな生活を送る（Well-beingの実現ですね！）ために、スポーツや文化・芸術にかかる活動を推進しています。本校学生が地域の小中学生にスポーツ指導をする機会など、本校が地域に貢献する一つのチャンネルともなっています。

近年のデジタル技術の急速な発展に伴って、科学技術の変化だけでなく、学校教育のあり方や人間関係の構築方法も大きく変化してきています。学内中心での閉じた教育だけでは、社会の変化に取り残されてしまうという危機感を持たざるを得ません。そこで、本稿で紹介した組織との連携を深め地域とつながる機会を増やすことや、それ以外にもたくさん募集案内が届く各種国際交流や国内外のプロジェクト・コンテストにチャレンジすることを応援しています。学生の皆さんには、このような機会を通して、自己肯定感や自己達成感を高める力を身につけてもらいたいと思っています。moodleやメールにたくさん届く「〇〇参加者募集」という案内を、「またか、自分には関係ない……」とスルーしがちな人も多いかもしれません。でも、そこにはチャンスの芽がたくさん含まれています、全部とは言いませんが時々本文まで読んでみてください。最近、交通費や宿泊費も主催者側で持ってくださいるものもあります。とはいえ、何かを新しく始めるのは億劫に思うかもしれませんね。例えばPBL授業や実験等で初めて経験したことの続きなら、チャレンジするハードルが低くなるのではないのでしょうか。「高専だから技術系でないとダメ？」ということもありません、音楽やe-Sports、俳句や短歌など、自分が面白そうというところから、また、地域の小さなプロジェクトからのスタートも良さそうです。

最後に、地域にサポートをいただきながら、本校学生及び教職員の活動を豊かにすることで、地域や社会のWell-being向上につながるものと信じ、これからも本校教育活動を進めていきます。



世界へ翔け！高専生！

NAIST STELLA プログラム

『NAIST STELLA プログラム2024 :「共創」が育む主体性の未来』は高校生・高専本科生を対象に、多彩な講義・演習・サイトビジット、教員と大学院生の複数メンターによるきめ細やかな指導・助言を通じて、科学技術と探究・研究を学ぶ、奈良先端科学技術大が提供する教育プログラムです。

(<https://www.naist.jp/news/2024/09/010872.html>)

NAIST-STELLA で得た学び

電子制御工学科2年 小嶺 倫太郎

私はNAIST STELLA プロジェクトに参加して、様々な発見をしました。8月に奈良先端大に赴き、ワークショップや施設見学などの活動を行いました。普段は入れない国際日本文化研究センターや関西光量子科学研究所に赴き、そこで行われている日本の最先端の研究を見学しました。初めて体験することばかりでもっと勉強しようと思い、自分の世界が広がりました。また、様々な地域から集まった仲間たちと一緒に活動することによって、出身地、年齢を超えた友情もできました。

9月以降は毎週大学の先生、チューターの大学院生の方とミーティングを行い、自分の研究内容を固めていきました。私は執筆をしている12月現在、小学生を対象にした3D画像を用いる社会科の補助教材を作成しようと考えています。建造物を3D画像化し、立体的に見ることができるようにします。小学生により学習に興味を持ってもらうのが目的です。来年は実際に研究に移るフェーズなので、一生懸命頑張ります。



国際日本文化研究センターの図書館

私の挑戦

情報工学科2年 留盛 凛香

今年、私は「NAIST STELLA」というプロジェクトに参加することになりました。このプログラムを知ったきっかけは、昨年参加していた先輩の紹介です。その先輩はこのプロジェクトを通じて得た経験をとても楽しそうに語っており、特に大学の先生方と直接やり取りをしながら自分の研究に取り組める点が魅力的だと教えてくれました。その話を聞くうちに、私もぜひ参加してみたいと思い、応募を決めました。

私が応募した理由は、ただ新しい経験を積みたいだけではありません。実は、以前課外活動でスタートアップのイベントに参加し、チームでアイデアを出し合う機会を得たことがあります。しかし、その際に直接的に開発には携わることができず、自分の技術面での能力のなさを痛感しました。この経験を通じて、私は「自分は何もできないのではないかと自信を失くすと同時に、「アイデアを形にできる力を身につけたい」という強い思いが芽生えました。そして、そのアイデアは必ず人の役に立つものでありたいと考えるようになりました。

そんな思いの中で、私は「人間の幸福度を上げる」ことに着目しました。そのためには、人々が自分自身をより深く理解できることが必要だと思い、自己分析の助けとなるような研究をしたいと考えました。そのアイデアが、今回取り組むテーマである「音声認識を使って人の声色から感情を読み取る」という研究につながっています。

このテーマを通じて、ICTを活用して人々の心に寄り添い合うシステムを構築し、幸福度を高めるという私の夢を形にしたいと思っています。

このプログラムで得た知識や経験は今後の将来において貴重なものになると思っています。この機会を活かしてどのように成長できるのか楽しみです。

とりあえず一歩やってみる

情報工学科4年 中元 悠仁

こんにちは。4年情報工学科の中元悠仁です。

私は鹿児島高専の学生であると同時に、映像クリエイター&ドローンパイロットとして、個人事業主で活動しています。高専1年生の冬に鹿児島銀行さん主催の映像コンテストで最優秀賞をいただいたことをきっかけに、映像の世界に魅了され制作をするようになりました。2年ほど前に、受賞のことを知った広報担当の先生からPR映像制作の依頼を受け、鹿児島高専の映像を制作しました。この映像は、本校HP等からご覧いただけます。

また17歳の時「鹿児島県ビジネスプランコンテスト」に出場し、鹿児島銀行さんの賞をいただきました。これがきっかけで、私の世界は広がりました。

昨年の9月にはクラウドファンディングを実施し、目標金額を超えるご支援をいただきました。現在は、自分の案件や県内外の制作においてカメラやドローンの仕事をしています。

こうやって活動ができているのは間違いなく「周りの人たちに恵まれているから」です。振り返ると「神様の仕業としか思えない強運な出会い」がたくさんあります。

ですがこの運は、ぼけーっと生活していて降ってくるものではありません。

私自身「コンテストに応募してみる」とか「クラファンをやってみる」といった一歩を踏み出してみたことによって、素敵な人たちに会うことができました。

特に10代のうちに「とりあえず一歩やってみる」ことで人生の幅が大きく広がると感じています。

さて、この「とりあえず一歩やってみる」ということは難しいことではありません。一歩を踏み出すには、大きなお金がいるわけでも莫大な時間を費やす必要もありません。少しの時間と少しの勇気があれば、大きな一歩を踏み出すことができます。

もしあなたが「英語を話せるようになりたい!」と思っているのであれば、英語で独り言を言ったり、スマホの言語を英語にしてみることをおすすめします。もし会ってみたい人や懂れている人がいるのであれば、ちょっと勇気を出してDMをしてみてください。

これは私がよくやっていることですが、案外お返事がきます。そして会ってくれます。この時「10代で~」



というフレーズをつけると、意外にも相手の興味を引くことができます。この「10代レッテル」は今しか使えない強力な武器なので、ぜひ活用してみてください。

実際、県のビジコンでは「17歳の高校生が~」というキーワードでファイナリストに残ることができました。でもそこから幅が広がったので、この作戦は大成功です。笑（当時はそんな作戦なんて考えていませんでしたが、今振り返ると17歳というワードは強かったなど感じます。笑）この10代レッテル、僕は残り10ヶ月しか使えないですが、ギリギリまで使って20代の次のステージに繋げていこうと考えています。

少し話が逸れてしまいましたが、最後に「とりあえず一歩やってみる」ということをもっとわかりやすくお伝えします。

「大金持ちになりたい」と考えるとき、「宝くじが当たったらな」と考える人はそれなりにいると思います。

宝くじを当てたいと思ったら、くじを買いますよね。

このくじを買うという行為をすることによって、あなたは当選するチャンスを手に入れるわけです。

くじを買うことと「とりあえず一歩やってみる」ということは理論的には同じ意味で、「とりあえずやってみる」ことで初めて将来の夢を叶えるチャンスを手に入れることができます。逆に何もしなければ、チャンスが降ってくることすらありません。

この「とりあえず一歩やってみる」ことは、宝くじを買うより簡単で、お金もかかりません。加えて、自分に返ってくるものは宝くじよりも遥かに大きいものでかつ豊かなものです。そして何より、一歩を踏み出してみたということ自体があなたの財産になります。

豊かな人生を送るために、一緒に「とりあえず一歩」を踏み出してみましよう。



「ビジネス創出基礎研修」

電子制御工学科 鎌田 清孝

本校電子制御工学科の3年生の石原瑛大さん、佐々川将幸さん、1年生の水田流菜さん、山川凛々子さんが、NEC ネットエスアイ株式会社主催の「ビジネス創出基礎研修」に参加しました。この研修は、NEC ネットエスアイ株式会社との連携を通じて、アントレプレナーシップのスキルやマインドセットを育成し、高専機構が推進するスタートアップ教育に大きく貢献しています。

8月26日、27日には東京日本橋オフィスを見学し、キックオフミーティングと研修に参加しました。9月3日にはメンター（指導者・助言者）を務めていただいた本校卒業生であるNEC ネットエスアイ社員2名（電気工学科26期生 重丸隆一さん、情報工学科35期生 森葉奈乃さん）が本校を訪れ、「カーボンニュートラル」をテーマに、課題を抱える顧客の発見や課題の深掘り、そしてアイデアの具体化を一緒に検討しました。9月12日には福岡天神ビジネスセンターで開催された成果発表会に大分高専とともに参加し、奈良高専と企業は別会場からそれぞれのアイデアを発表しました。発表を通して、様々な視点や発表資料の作成方法、効果的なプレゼンテーション技術について学ぶことができました。

今回の研修を通じて、学生たちはものづくりにおけるアントレプレナーシップを深く学び、非常に有意義な経験を得ることができました。この経験を今後の学校生活にもぜひ活かしてもらいたいと思います。



グループ演習 検討結果発表（9月3日）



成果発表会後の記念写真（9月12日）

ビジネス創出基礎研修日程表

日時	場 所	内 容
7月11日	鹿児島高専	Zoom 事前説明
8月26日	日本橋（東京）	オフィス見学
8月27日	川崎（神奈川）	ビジネス創出基礎研修
9月3日	鹿児島高専	グループ演習 検討結果の発表
9月10日	鹿児島高専	発表資料の作成
9月12日	天神（福岡）	成果発表会

電子制御工学科3年 佐々川 将幸

この度、NEC ネットエスアイ株式会社主催の「ビジネス創出基礎研修」に参加させていただきました。

今回の研修では、新規事業を立ち上げる際に必要な知識を学び、今日の重要な課題である「カーボンニュートラルへの取り組み」をテーマとし、私たちに身近で実際に協力出来る、公共交通機関を絡めた施策を考え、意見を出し合いました。

難しい課題に意見が出ない事も多々ありましたが、顧客が抱えている課題を再確認し整理することで、顧客に寄り添った意見を出す事が出来たと思います。

今回学んだことは今後の学校生活や人生において非常に役に立つものであり、大変貴重な経験となりました。今回ご準備いただいたNEC ネットエスアイ株式会社様、上田校長先生、鎌田先生、メンターの重丸様、森様、共に活動した3人にこの場をお借りし、感謝申し上げます。ありがとうございました。

YouTube 1500万回再生！

建設工学専攻1年 吉川 玲

「鹿児島高専生が作った消波ブロック模型の動画」をご存知ですか？ YouTube、TikTok、Instagramなどに南日本新聞が投稿しているショート動画がバズっていて、2024年12月初旬の時点ですでに1500万回再生を達成しています。まだ見たことのない方はぜひ一度ご覧ください。

まずこの模型を造るきっかけは、専攻科1年の講義「環境創造工学プロジェクト」です。機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、および建設工学専攻の学生が融合したチームを作り、互いの専門知識を素地にPBL（Project Based Learning）手法を用いて課題解決のための提案を行うという講義です。私は機械・電子システム工学専攻・盛南洋さんと電気情報システム専攻・五反田拓人さんとチームを組み、都市環境デザイン工学科・安井賢太郎先生のご指導の下、防災教育に活用できるツールを提供することを目標に、模型作製に取り掛かりました。

模型は、小中学生を対象に海岸にある身近な構造物にどのような役割があるのかを知ってほしいと考え、消波ブロック有り無しの模型の2つ用意し、消波ブロックが持つ波の分散効果を体感できるような機構になっています。造波装置は体験者自身で波を起こすことができるように取っ手を付けました（写真1）。

2024年7月に鹿児島県長島町で行われた小中学生向けのイベント「わくわくどきどき科学教室 in 長島」に完成した模型を出展したところ、参加者の小中学生や保護者の方に楽しみながら海岸堤防・消波ブロックの効果を理解してもらうことができました（写真2）。そして同イベントに取材として訪れていた南日本新聞の記者さんに興味を持っていただき、新聞記事やYouTube、Instagramで紹介いただけるとのことでしたので、私達はそれを見ることを楽しみにイベントを終えました。しばらくして模型の動画が上がったところ、驚くべき勢いで再生回数が伸びて、公開5日目に500万回再生となっていました。この動画内のコメントとしては「すごー！ちゃんと効果あったんだ。めっちゃわかりやすい！」や「なんとなく意味はあるんだろうなという感じではあったけど、ミニチュアとはいえ実演してもらえると効果が一目瞭然ですね」などがあり、多くの方に模型を見ていただく機会になりました。

また、動画が国土交通省の目にも止まり、2024年8月に開催された「こども霞が関見学デー」にて教育ツールとして展示・実演されることになりました。その後も模型は大忙しとなり、鹿児島県内の防災イベントの国土交通省ブースに出展したり、中学生が夏休み期間に模型を利用した自由研究をするために本校に通ったりするなど、防災教育に活用できる模型にしたという私たちの目標を達成することができました。

動画の再生回数やYahoo ニュースデビューにも驚きましたが、模型に使用する材料の選定や造波装置、防潮堤の作製に頭を捻らせ、改良を重ねてきたので、このように評価されたことで私達の頑張りが報われてとても嬉しいです。共に頑張った盛さん・五反田さん、ご指導いただいた安井先生、ご協力いただいた技術室や学生の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。貴重な経験をありがとうございました！

目指せ2000万回再生！！



写真1 模型（左：消波ブロック有り、右：無し）



写真2 出展の様子（長島町）



スウェーデンでの挑戦 ～国際交流がもたらした成長～

都市環境デザイン工学科3年 吉元 愛稀

「海外へ行きたい！」その思いが私を留学という挑戦に導きました。

「海外へ行きたい！」この単純でどこにでもありそうな気持ちが私を留学という挑戦に出会わせてくれました。そして、2023年9月にスウェーデンの研修に参加しました。文化の違いに戸惑う場面もありましたが、現地の友人や先生、先輩たちの支えのおかげで乗り越えることができました。この経験を通じて、自分の視野が広がり、価値観にも変化が生まれました。帰国後、スウェーデンという日本から遠く離れた場所でもう一度学びたいと強く思うようになりました。

そんな時に出会ったのが、文部科学省主導の「トビタテ！留学Japan」です。書類審査・プレゼンテーション審査のため、両手いっぱいを持った書類や原稿を先生方に何度も何度も添削・指導をしていただきました。毎回厳しい指摘を受けながら修正を重ねました。選考期間中に発表された倍率の高さに心が折れそうになることもありました。ですが、先生方や先輩たちの応援を励みに努力を続け、2024年4月、トビタテ高校9期生として採用されることができました。

私が掲げた留学テーマは、「一目見てキュン！日本人の心をくすぐるグローバルなデザインを学びたい！」です。探究課題としては、「Well-being を実現する北欧デザインとは何か」。高専生ならではの視点で学ぶことを目標にしました。

スウェーデンでの留学生活

2024年8月、大学枠で採用された先輩とともにスウェーデンへ渡航しました。鹿児島高専と学術協定を結んでいるNTI高校に1か月通学し、多様な背景を持つ生徒たちと交流することができました。クラスメイトには移民や難民の生徒も多く、国際的で多角的な視点を持ちながらデザインを学べたことは大きな収穫です。授業では、学びたい生徒の出入りが自由だったり、性別に関係なく積極的に意



見を交換したりと、日本とは異なるスタイルに驚きました。先生の話の途中でも質問が飛び交う自由な雰囲気は新鮮でした。

言語の壁も大きな課題でしたが、授業では難解なスウェーデン語を、クラスメイトたちが英語や日本語で何度も何度も助けてくれました。放課後や休日には探究活動に協力してもらい、様々な場所に案内してもらうなど、現地の人々の助けが大きな力になりました。

また、海外で個人行動をする中で「日本の当たり前は海外の当たり前ではない」ということを痛感しました。例えば、水を買ったつもりが炭酸水だったり、電車の乗り間違いで泣きそうになったりと、小さなトラブルに直面しました。そのたびに、日本の良さを再認識し、感謝の気持ちが芽生えました。

留学を終えて

昨年の海外研修をベースに、今回はより深い学びと探究を得ることができました。スウェーデンでは、日本では触れることができなかった文化や価値観に多く出会い、自分自身をさらに成長させることができたと感じています。ホストファミリーはまるで家族のように可愛がってくれて、生活や学びの面で多くのアドバイスをくれました。また、クラスメイトや現地の友人たちにも支えられ、充実した留学生活を送ることができました。

18歳という今の時期に、このような貴重な経験ができたことを心から誇りに思います。トビタテ生として留学できた誇りを忘れず、スウェーデンでの学びを生かしながら、さらに勉学に励みたいと思います。



マレーシア研修

電子制御工学科5年 高司 康平

2024年の2月末から3月の中旬にかけて、1年生から5年生までの23名で1週間の海外研修としてマレーシアを訪れました。

鹿児島ではまだ肌寒い季節でしたが、韓国を経由してマレーシアに到着すると、その気候の違いに驚かされました。夜の入国にもかかわらず、高い湿度を肌で感じたのを覚えています。空港を出た時から現地の学生達と行動を共にしました。

翌日から本格的に研修がスタートしました。平日日中の活動はほとんどを MJIT という学校で過ごし、現地の学生との交流や工場見学、英語でのプレゼンテーションなどが行われました。これらの活動を通じて英語を話し、聞く機会が多く得られ、実際のコミュニケーションの中で英語力を磨くことができました。

平日の夕方から夜にかけては、パディと一緒にマレーシアの街を観光しました。高層ビルやタワーが立

ち並ぶショッピングモールでの買い物、ナイトマーケットの散策、礼拝堂の訪問など、多彩な体験を通じて様々なことを学びました。特にイスラム教の礼拝堂を訪れた際には、マレーシアのイスラム教の歴史を学ぶとともに、宗教に対する理解や考え方が広がる貴重な経験となりました。

また、毎日新しい発見があったのがマレーシアでの食事です。マレーシアにはマレー料理、中華料理、インド料理といった多民族国家ならではの食文化が広がっており、辛いご飯料理や甘い飲み物、そしてボリュームたっぷりて手頃な価格の食事が印象的でした。

このように、研修の全てが学びと発見に溢れており、マレーシアで過ごした1週間は一生忘れられない貴重な体験となりました。



台湾研修

都市環境デザイン工学科5年 永田 侑希

4年生の春休みに、台湾研修に参加しました。台湾研修は国立台北科技大学の学生がパディとして一緒に活動してくれました。台湾で体験したことを、ランキング形式でお伝えします！ぜひ海外に行ってみてください^^

魅力ランキング

1位 夜市

3ヶ所の夜市に行きましたが、どの夜市もご飯・雑貨・洋服が売られていました。食事系はもちろん、ステッカーやスマホホルダーなどあり魅力満点でした

2位 食べ物

台湾と言えば小籠包や魯肉飯、豆花ですよね。他にも鴨肉や鶏排、湯圓などあります。色々食べましたが、個人的に魯肉飯、魚丸湯（スープ）はスパイスが利いていて美味しかったです！

3位 中国語を話せなくてもどうにかなる

夜市や九份では日本語を話せる店員さんが多く、日本かな？と感じる場面が多かったです。初めての海外旅行にお勧めです！！



驚きランキング

1位 バイクが多い

車よりもバイクが多かったです。またカーシェアのようにバイクシェアがあるそうです。

2位 コンビニが臭い

日本のコンビニにおでんがあるように、台湾のコンビニには臭豆腐があり、店内は臭豆腐の匂いが充満していました。臭豆腐を食べましたが、厚揚げ豆腐に似ていておいしかったです。

3位 タピオカドリンクが甘くない

台湾の人にタピオカを買ってもらいましたが、ほうじ茶にタピオカが入っていました！温かいお茶にタピオカの組み合わせは初めてで新鮮でした！タピオカドリンクは甘くないのに、ペットボトルのお茶は、無糖と書いてあるの以外は、砂糖が入っていて甘くて飲みきれませんでした（笑）



私の成長への第一歩

都市環境デザイン工学科3年 永田 小夕姫

私は今年の8月に、株式会社渡辺組で5日間にわたるKTCインターンに初めて参加しました。主に建設・土木の現場での施工管理を見学させていただき、以前から施工管理の仕事に興味があった私にとって、今回のKTCインターンはたくさんのことを学べるとても良い機会だったと感じています。

経験した内容としては、初日から霧島市の現場に同行し、その後も指宿市での港湾事業、曾於市での建設事業、出水市での最新技術を用いた現場見学など、県内各地に向向いて幅広い事業を見学できました。はじめは現場の空気感に圧倒されましたが、次第に慣れてくると社員の方々や他のインターン生との交流を通して新しい発見や気づきがありました。どの現場でも、授業だけでは知ることができなかったリアルな現場の雰囲気を体験でき、またこれまで学習したことがどう活かされているのかも学ぶことができました。今までただ勉強してきたことが、実際に街を支える事業でも活用されているところを目の当たりにできて、学校での勉強が身近に感じられるようになりました。

また、業務内容や施工方法など技術に関することを多く教わった現場見学でしたが、特に印象に残っていることは社員の方々の「働きがい」に関するお話です。「土木・建設業はあまり注目されやすい業界ではないけれど、自分たちの成果が地図に載り、更にまちの人々を陰から支えることができる」というものでした。

まだ私はこれから土木・建設の道に行くのかははっきりしていないのですが、こういった実際に働いている社会人の声を聴いただけでもこのインターンに参加する意義があったように思います。

このように今回のKTCインターンでは、社会に出るうえで必要になってくる専門知識や社会人としてのスキルはもちろん、現場の方たちの土木・建設事業の仕事に対する熱意とやりがいを知ることができました。この学びは将来私が進路を決定するときにきっと活きると思います。

今後、また他の企業が主催するインターンシップがあれば積極的に参加し、自分自身の成長と将来のキャリア形成に役立てていきたいです。

KTC インターンを通して

機械工学科3年 北原 悠太郎

夏期休業中に、私はKTCインターンに参加しました。本インターンシップはKTCに加盟している企業において有償で実施される制度です。以前から時計に興味を持っていたことから、この制度を利用して日置市に工場を置くシチズン時計マニュファクチャリング様のインターンに5日間参加させていただきました。

インターンでは主に、NC（数値制御）プログラムの作成とNC旋盤を使用した部品製作を行いました。私は機械工学科に所属しており旋盤を用いた実習を経験していたため、NC旋盤の使用経験もありました。しかし、現場で使用されているNC旋盤は私たちが学んできたものとは大きく異なっており、座標点の設定方法やバイト幅を考慮した工具補正の設定において自分がこれまで身に付けてきた技術との違いを痛感しました。特に、刃物台へのバイトの取り付け作業では作業員の方がルーペを使用し、バイトの刃先に反射して見える被削材の位置を慎重に確認しながらバイトの取り付けを行っている様子を目の当たりにし、強い衝撃を受けました。また、現場では使用される単位が機械工学で一般的に使用されているmmではなくμm単位で製品が製作されていることにも驚きました。これにより、製造業、特に時計産業における寸法精度の高さと重要性を再認識しました。

今回のインターンを通して、私は数多くの貴重な学びを得ることができました。その中で最も大きな学びは、高専で学んできた知識が工業現場にどのように活用されているかを知ることができた点です。これまで漠然と学んできた内容が、どのように生産現場で生かされているかを理解することで、今後の学習においてその意識を持ちながら取り組むことの重要性を感じました。



県外企業短期インターン

低学年生にキャリアを考えてもらうきっかけとして令和6年度夏休みからの新企画です。2泊3日程度の県外企業の見学です。なんと交通費宿泊費を全て企業に負担していただきました。夏休みだけでのべ28名の低学年生が参加しました。(キャリア支援室)

初めてのインターンを通して

電気電子工学科1年 大原 優依

私は9月上旬に京都府にある京都電機株式会社の県外企業短期インターンに参加しました。初めての県外、初めてのインターンということでかなり緊張しましたが、実際に行ってみるととても楽しく、良い経験をする事ができました。内容は、会社の説明と社内の見学、設計開発エンジニアとして働いている方との交流や、電気回路の課題演習などを行いました。

一番印象深いのは、課題演習の時間です。開発部の方々が電源回路の機能について話した後、課題である回路を見てどの箇所が何の働きをしているのか考え、発表するものでした。この演習は私にはなかなか難しいもので、同じインターンに来ていた先輩方のおかげでなんとか解くことができました。ですが、難しい反面、楽しいとも思えるものでした。

また、会社見学以外にも、ホテルに泊まる前や飛行機に乗る前の余った時間を使って、京都や大阪の街並みを見ることができ、鹿児島では見る事のない大きなビル、常に人で溢れかえった歩道、初めて見る景色や経験が多くありました。

インターンを振り返ってみると日常では体験できないことをさせてもらったなと強く感じます。自分が働くのはまだ先の事だと思っていましたし、働くとするれば5年間高専で学んだことを一体どのように使っていくのかあまり想像もできていませんでした。

ですが、今回のインターンを通して自分が将来やりたいこと、できるようになりたいこと、そして働く時のビジョンが以前より鮮明になった気がします。今勉強している専門分野も掴めない雲を必死に掴もうとしているような状態ですが、開発部の方々のように自分達で回路を組み立てるかっこいいエンジニアになるためにも食らいついて行きたいところです。



体験することの楽しさ

都市環境デザイン工学科1年 吉村 奏翔

私は、まだ自分が将来何をしたいのか決まっていなかったため、様々な業界を見ようと考え県外企業短期インターンに申し込みました。参加したのは、岡山県にある大本組と、大阪府にある村本建設の2社です。

内容は、高専卒業生との交流や、実際の業務体験など学外でしか得られないものが多くありました。特に、完成後ではなく途中の建設現場の中を見学できたのは感動でした。会社説明だけでなく土木建築業界全体についても学べました。また、普段実習で行っている測量ひとつとっても、企業では最新機器によるデジタル活用している事にも驚きました。土木建築の世界でもドローンや画像処理などの多岐にわたる分野の技術が必要とされていることも知りました。

参加する前は、土木建築業界に「厳しい職場環境」や「怖い人が多い」というイメージを持っていましたが、実際に現場を見て、その印象は大きく変わりました。現場の雰囲気はフランクで、女性も多く、安全対策や休日取得がしっかりと整備されていることがわかり、働きやすい環境が整っていることに驚きました。

会社の見学や、空き時間での観光を通じて県外(特に都市部)と鹿児島の違いを感じ、地域の文化や環境に触れられたのも貴重な体験でした。

インターンでは、自分で交通手段や旅行の準備、スケジュール管理を行うのですが、この経験を経て、計画を立てて実行する自信を持つことができました。

今回のように交通費宿泊費を全額企業負担で参加できるのは本当にありがたいです。高専1年生の自分でも楽しめて、成長を感じることができました。この経験から、身の回りでチャンスがあったら積極的に行動したい(すれば自分のためになる・楽しい)と思えるようになった事も自分にとってよかったです。



鹿児島高専 Supporting Student Dreams

鹿児島高専 Supporting Student Dreams とは

鹿児島高専では、学生のもつ潜在的な能力・向上心を引き出し、それらの涵養と実現に向けた支援を全学的に行うために、鹿児島高専 Supporting Student Dreams (SSD) を実施しています。学生たちの「こんなことをやってみたい」「こんなコンテストに出てみたい」といった夢や目標をサポートするための取り組みです。

具体的には、(1)学生が自主的かつ主体的に取り組むもの、(2)本校教職員のサポートのもと取り組めるもの、(3)高専の学生が取り組む活動として相応しいもの、という3つの条件を満たした活動に対して、必要な経費を補助しています。今年度は、下記10件の活動が採択されています。

- ・サイバーセキュリティボランティア
- ・Robogals Kagoshima
- ・コンクリートコンテストへのチャレンジ
- ・鹿児島県主催「住まいと建築展」出展プロジェクト
- ・デザコン 空間デザイン部門・プレデザコン部門応募プロジェクト
- ・高校生向け建築設計競技応募プロジェクト
- ・百人一首競技かるた大会への参加
- ・学生による科学コミュニケーション
- ・地域活動プロジェクト-鹿児島高専×伊佐市-
- ・IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト

以下では、鹿児島高専 SSD で支援を受けた活動について、参加学生やサポート教員から報告をしてもらいます。

SSD 百人一首 (競技かるた)

情報工学科3年 金里 華香

SSD 百人一首は、競技かるたの大会に出場することを目的として、3年前から活動を行っています。現在は3年生6人で活動をしています。

本年度の活動ではないものも含まれますが、昨年度の高専だよりを書いて以降の活動を紹介します。

3月24日 第43回全国競技かるた鹿児島大会 (於 西原商会アリーナ) 参加者1名、1回戦敗退。

5月4日 第42回鹿児島県かるた選手権大会 (於 西原商会アリーナ) 参加者1名、3回戦敗退。

8月17日 第43回全国競技かるた鹿児島大会 (於 西原商会アリーナ) 参加者1名、1回戦敗退。

今年は、なかなか勝ち上がることができない大会が多かったです。特に、対戦相手が強豪であったこともあります。どの試合も非常に接戦で、最後の最

後で競り負ける試合が多かったです。

今後は、そういう競った試合を、どのように勝ちにつなげていくのかが大事なポイントになっていくだろうと思います。

今後の予定としては、1月に行われる大会への出場と、現在、初段を持っている学生は2段への昇格と、段位を持っていない学生は初段を取ることを目標として、がんばっていきたいです。



サイバーセキュリティ ボランティア

電子制御工学科 福添 孝明

前号でも依頼を頂き、その際には活動経緯について寄稿させて頂いております。今回は、部活を含めて幅広く活動している2名の学生に記事を書いてもらいました。

電子制御工学科2年 吉田 彩花

私は、鹿児島県警の委嘱を受けサイバーセキュリティボランティアの一員として活動しています。今年度は6校の小中学校を訪問させて頂き、約800名の小中学生に講演を行いました。

この活動は、自分たちでサイバーセキュリティに関する小中学生に伝えたいテーマを考え、授業で学んだことを生かしながら小中学生に興味を持ってもらえるような資料を作り、実際に小中学校に出向いて講演を行う活動です。普段何気なく受けている授業は、実際に行うことがこんなにも難しいことなのだというのを身をもって実感しています。また、訪問する学校それぞれにカラーがあり、同じテーマで講演を行っても反応や返答などが違い、訪問していてとても面白いなと思います。

今年は、新たにソフトバンクとの連携としてペッパーくんとの合同授業を行いました。ペッパーくんを導入することで、小中学生の興味を引けることはもちろん、実際に私たち学生が学校に訪問することが出来ない場合でも県内各地の学校に出前授業をすることが出来ます。ペッパーくん自体の操作も簡単なため、初めて触る先生方でも講演を行えることも利点だと思います。

今年度は、JR 東日本やKADOKAWA、CASIOなどの大手企業がサイバー攻撃にあったという多くのニュースを目にしました。このような被害が大手企業で多く起きているということは、魔の手は私たちのすぐそばにも迫っているということです。このような被害を少しでも減らすには、少しでも多くのサイバーセキュリティの知識を持つことが大切だと思います。そのためにも、これからも多くの小中学生に講演を行っていきたいです。



宮之城中学校で Softbank Pepper と協調して講演

電子制御工学科5年 柴 あおい

私は3年次からサイバーセキュリティボランティアに参加し、近隣の小中学校をはじめ、3年次には沖永良部島、4年次には地元の屋久島、5年次には与論島など、離島を含むさまざまな場所で講演を行う経験をさせて頂きました。これらの活動を通じて、サイバーセキュリティに関する知識を深めることができました。

その中でも最も印象に残っているのは、4年次に地元の屋久島で行った講演です。特に、妹がちょうど小学校6年生だったこともあり、家族や地元の人々を前にして講師の立場で教えることができたのは、とても特別な経験でした。また、恩師が担当するクラスで講演ができたことも、私にとって非常に感慨深いものでした。屋久島という地元ならではの状況もあり、インターネットの利用状況に関して本土との違いを実感し、講演内容を地域に合わせて調整することができました。離島では、インターネット環境が本土とは異なるため、具体的なリスクや注意点を身近な例を挙げて伝えることができ、より分かりやすく教えることができました。



母校の安房小学校で講演した記念撮影



「大好き」から始まる物語

電子制御工学科4年 大田 早記

“Robogals Kagoshima”

今、この名前にどのようなイメージを持たれましたか？

皆さん、こんにちは。大田早記です。私が持ったイメージはずばり「なんか好き」。

高専の入学説明会の紹介動画で初めて知り、後日先輩方から詳細を聞いて入ることを決めました。Robogalsは工学の楽しさを伝え、さらには理系女子を増やすために、小中学生を対象にしたワークショップを行う、国際的なボランティア団体です。本部がオーストラリアのメルボルンにあり、Robogals Kagoshimaは2017年に日本で3番目の支部として発足しました。

いざ活動を始めてみると、知らないことにたくさん触れられて楽しい日々を過ごすことができました。

しかし、初めてのワークショップで感じた悔しさを私は今でも忘れません。この思いは、そこからの私の様々な活動に多くの刺激を与えていくことになるのです。

初の活動は南日本小学生プログラミング大会でのデモンストレーションでした。もう1人の1年生と組んで行うことになったため、彼女と寮で練習を重ね迎えた当日でしたが、今までにないほど緊張して納得のいく話し方ができませんでした。それが悔しすぎて、帰りの車でたくさん振り返りをしました。

「どうしたら先輩たちのように上手に楽しそうに話せるのだろう。今はまだ自己分析もできてないし、曖昧なままだけど、やりたいこと全部チャレンジして、それらを続けていけば、きっと何か見えてくるものがあるはずだ」

疲れて微睡みながら、そう強く心に決めた瞬間でした。それから3年が経ち、4年生になった私はプレジデントになりました。プレジデントとして必要な心掛けを勉強したり、本部と英語でやり取りをしたりして、より充実した日々になりました。ワークショップでも人前で話すことにより慣れてきて、全体を見て動くことを意識できるようになりました。参加者やその保護者のフィードバックを活かしながら、より良いパフォーマンスを目指して、メンバー間の役割分担を重要視しています。また、当日の機材トラブルや子どもたち同士のハプニングは日常茶飯事で、その場で

内容を変更したり状況を変えたりして進行してきました。このような対応は、メンバー間の信頼とコミュニケーションがあったからこそできたことです。難しいときは先生方もサポートしてくださいました。Robogalsメンバーには大きな感謝を伝えたいです。

そして、Robogalsの活動は私に大いなる夢をくれました。それは、英語を使って幅広い年代や国籍の人々とお互いの個性を認め合いながら、関わり続けたいということです。

もともと理系ではなかった私が、ひよんなことから鹿児島高専に入学し、様々な活動や人との出会いを通して、このような夢を抱きました。すべての始まりはRobogals Kagoshimaに入るきっかけとなった「好き」という気持ちです。複数の活動との兼ね合いは大変ですが、全部あの日自分で決めて育ててきた「大好き」なので、全力で楽しんでいます。しかし、どれも私一人では始められなかったことです。仲間や他高専の学生と触れ合って、自分の世界を広げました。そして誰より、今も一番そばで私を信じ、愛して支え続けてくれている母の存在が私にとって最大級に尊い「大好き」です。自分と周りの「楽しい」や「大好き」が一番大事にしたい気持ちです。好きを自信に変え、周囲への感謝と謙虚な姿勢を忘れず、努力し続けることで、きっと自分らしく活躍できるのでしょう。

Robogalsでは自分の、そして子どもたちの「好き」の気持ちにたくさん出会える場所です。ぜひ、一緒に「好き」を追いかけてみませんか。



かつてえコンクリートを競う

都市環境デザイン工学科5年 永田 琥太郎

タイトルの通り私は、コンクリートコンテストというコンクリートの「硬さ」を競う大会で優勝しました。優勝の秘訣を包み隠さずお伝えしたいと思います。

コンクリートとは、砂と石、水にセメントを混ぜてつくられたものです。ズバリ硬いコンクリートをつくるにはどうすればいいのか？答えは単純明快でセメントをありったけ入れればいいのです。セメントとは言わばお菓子作りでいうところのゼラチンです。入れれば入れるほど硬さは増しますよね。でもそれでは競技として成り立たないですし、なにより技術者として芸がありません。もちろんセメントの使用量には上限があります。ではどうすればいいのか？

知恵を絞ってみましょう。コンクリートに含まれる水の割合を減らしてみると？相対的にセメントの量を増やすことができますよね。他にも、型枠にコンクリートを詰めるとき持てる力のすべてを込めてみてはどうでしょう。隙間を無くすことでぎっしりと詰まっ

たコンクリートができそうではないでしょうか。では、砂と石の量を変えてみては？混ぜ方は工夫できないのか？いっそのこと冷凍庫に入れてガチガチに凍らせたらどうなるのか？どうやらやりようはいろいろありそうです。

ではでは、私たちのチームが優勝したそのとおきの方法とは...もちろん教えませんよ。「どうやったら他のチームより少しでも硬いコンクリートをつくることができるのか」これを考えることがこの大会の醍醐味なのだから。少しでも興味を持った方がいらっしゃれば、ぜひとも来年は本大会にご参加ください。コンクリートのことで眠れぬ夜をともに過ごしましょう。



ニアピン賞

都市環境デザイン工学科2年 慶越 ゆめ

私たちのチームは鹿児島コンクリートコンテスト2024のニアピン部門というコンクリートの指定された強度にいかに近づけることができるかを競う大会で準優勝しました。今年度の指定強度は20N/mm²でした。

私たちのチームは1本目でまさかの20N/mm²ぴったりの記録を出すことができました。2本目は19.5N/mm²だったので、平均した19.75N/mm²がコンテストの結果となりました。

優勝したチームは1本目で23.6N/mm²、2本目で16.3N/mm²でしたので、平均した19.95N/mm²がコンテストの結果となり、私たちのチームとは僅差でした。今回は2本の平均値で競うルールでしたので優勝は逃しましたが、2本とも20N/mm²に近いコンクリートを作ることができたので満足しています。

これは計算されたコンクリートの配合や、コンクリートを締め固める方法など様々な工夫で得られた結果だと思います。

正直な話、私たちはコンクリートコンテストに初出

場でわからないことが多く、材料研究室の先生や先輩方にかなり手伝ってもらいました。そのため、この準優勝という素晴らしい結果は研究室全体の賞だと思います。手伝ってくだ



さった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。コンクリートについて詳しくなくても、優しい周りの方のおかげで思い出に残るコンテストになりました。

コンクリートコンテストは他にも強度を競い合う部門もあるので、コンクリートに少しでも興味があって作ってみたい学生がいたら、来年度はぜひ参加して欲しいです。

今年度は都市環境デザイン工学科の学生以外にも、機械工学科、電子制御工学科、電気電子工学科の2年生が数名参加していましたので、他学科の学生にも興味を持って欲しいです。



デザコン2024in 阿南

都市環境デザイン工学科5年 稲葉 陽大

「デザコン」とは、空間デザイン部門、構造デザイン部門などに分かれ、競い合うロボコンの建築土木版のような大会です。私が所属している研究室ではこのデザコンの空間デザイン部門に毎年参加しています。

空間デザイン部門は予選と本選があり、この予選を勝ち抜かなければ本選の会場に行くこともできません。鹿児島高専では、ここ2年本選出場できておらず、今年こそは本選に出場するぞ！と意気込んでいました。

結果、提出した2チーム中、2チームとも本選に進出することができました。

今回は、「防災」が課題の重要な要素になっており、空間デザインと防災をどう結び付け、よりよい提案にしていけばいいのかとても迷い、苦勞しました。鹿児島県大隅地方の内之浦という宇宙空間観測所のある場所を敷地に設定し、宇宙と防災をテーマに他にない提案ができたと自負しています。

本選では、2日間にわたるプレゼンテーション、

ディスカッションを通して、とても貴重な体験をしました。

結果としては入賞することはできませんでしたが、この経験を来年からの大学、将来に役立てたいと思います。

今年は、このデザコンとは別に「富坂建設賃貸住宅学生コンペティション」に参加し、九州内の大学や大学院生らの作品の中、優秀賞をいただくことができました。これらの経験を糧に今後も様々なコンペや課題に挑戦し、スキルを上げていきたいです。



木造建築インターハイと SSD

都市環境デザイン工学科3年 西 裕莉愛

今年の春、私は「第三回 POLUS 木造建築インターハイ（設計部門）」において佳作という賞をいただきました。全国規模のコンペで様々な作品が集まる中、とても嬉しく思います。

テーマは、「ボタニカルガーデンハウス」。自分の思うボタニカルガーデンハウスを設計し、割り箸や竹串など指定された材料から模型を作成します。

完成した作品は、「庭を食べる」です。年齢や性別、職業を問わず、誰でも住人になれるシェアハウスです。この家の最大の特徴は、敷地に生えている植物がすべて食べることができるということ。中央にそびえたつヤマボウシや、西洋ニワトコなど、植物ごとに旬があり、その季節になると食卓にあらわれます。

実際に食べることでできる植物を調べ、育ちやすい環境や時期に分けていきました。そうすることで、日が当たりやすい中庭や、じめじめとした北側などそれぞれの環境を活かした植物の配置をすることができました。模型では、1/20という大きなスケールに初挑戦

しました。住宅模型自体作るのが初めてだったので、なかなか思うように進まず心が折れそうになったこともありました。しかし、出来上がった模型や作品見ると、達成感で溢れていました。

今年は、この建築インターハイのほかにも、SSDで取り組んだ県の建築設計競技大会や建築甲子園にも参加させていただきました。自分のアイデアを作品にしていく楽しさや、完成した後の達成感をたくさん経験することができました。コンペを通して、私は建築がとても好きになりました。これからも様々なことに挑戦し、自分を成長させていきたいです。



学生による科学技術 コミュニケーション

一般教育科 池田 昭大

科学技術コミュニケーションという言葉をご存じでしょうか？これは、「科学技術に関する話題について、科学者や技術者と、それ以外の人々が意見や情報を交換すること」を指します。科学技術コミュニケーションでは、科学と社会をつなぐ重要な役割を果たすことが期待されており、その形式は多岐にわたります。例えば、科学教室や出前授業、サイエンスカフェなどは、比較的耳にする機会が多い活動の一例です。

本稿では、科学コミュニケーションの一環として、鹿児島高専の学生が実施した科学工作教室について紹介します。この活動は、学生による地域貢献やコンテスト参加を支援する鹿児島高専 SSD (Supporting Students Dreams) のサポートを受けて実施しました。

本活動には、3年生の学生7名が参加し鹿児島市立科学館にて「科学工作教室」を実施しました。学生が講師となり、主に小学生以下の子供たちに、様々な工作を教えました。

鹿児島高専 科学工作教室

「たのしいこうさくをしよう！！」

2024年8月24日(土) 10:00-15:00

鹿児島市立科学館3階 科学実験教室

工作テーマとして準備したものは、「キラキラ万華鏡」、「太陽で光るキーホルダー」、「ストローロケット」、「しゅわしゅわあわロケット(環境創造物理研究部担当)」です。これまでも科学工作教室を実施してきましたが、今回は新しく「太陽で光るキーホルダー」をテーマに取り入れました。これは紫外線に当たると発色するビーズを使った工作です。子供たちに、紫外線というものの存在を感じてもらえるよう開発したテーマです。子供たちはオリジナルのキーホルダーを作成し、太陽の光に当てたり、紫外線ライトに当てたりと、楽しんでいました。工作教室にはたくさんの子供たちの参加があり、大盛況でした。

学生主体の科学工作教室は、これまでに6回実施してきました。参加した子供たちの保護者には、アンケートへの回答を依頼しており、その自由記述をテキスト分析しました(工学教育誌、2024にて報告)。そ

の結果、参加者の感情的な満足感、学生に対する好意的な評価、科学への興味喚起に有効であることなどが、参加者の意見として要約できました。今後もこの活動を続け、子供たちに理科の楽しさや魅力を伝えていきたいと思っています。



太陽で光るキーホルダー
紫外線に当たると半透明のビーズが発色します。
(元々色の付いたビーズと組み合わせています。)



太陽で光るキーホルダーの工作



キラキラ万華鏡の工作



地域活動プロジェクト —鹿児島高専×伊佐市—

一般教育科 熊 華磊

今年度は鹿児島高専 SSD 活動の一環として、令和3、4年度に続き伊佐市とコラボする地域活動（1年3名、2年1名、3年1名）を行っています。この活動のユニークなところは、実際に行くまでには学生たちも、私も1年かけてどのような活動をするのか全くわからないところです。というより、実際に現地に赴き、地元の方々と話し合いながら、伊佐市として「協力してほしいこと」と、高専生として「自分たちでやれること」をすり合わせて、初めて1年間の活動テーマが決まるわけです。これによって、学生たちの自主性がより発揮でき、かつ活動の実行性がより高くなると考えます。

今年8月、学生を連れて伊佐市を訪れました。伊佐市の観光案内ボランティア「伊佐の風」の方のご協力で曾木の滝を見学し、伊佐市の歴史や自然環境についてたくさん学ぶことができました。その後、伊佐市役所の方との打ち合わせの中で、伊佐市は現在空き家・空き店舗の再利用に取り組んでいることを知りました。学生たちは早速食いつき、何らかの形で協力したいと申し出て、今年度のキーワードが「空き家」となりました。

9月、伊佐市の不動産会社のご協力で、実際に空き家を複数軒回りました。リフォーム後のいわゆ



写真1：空き家見学

る古民家に憧れがある学生たちですが、リフォーム前の空き家を目の前に唾然としました。空き家に秘められているポテンシャルを感じつつ、これをどう引き出せるか、言葉を失いました。

そこで、築100年以上もある古民家を再生し、伊佐市に移住した方たちの家に訪れ、インタビューを行いました。「移住の決め手は何か」、「リフォームの時の苦労は？楽しさは？」、「実際に住んでいてどう？」などと、学生たちの質問が連発し、夕方までに高専に帰

る必要がなければ、夜までかかるのではないかと思うほど、話が尽きませんでした。そして、今年度



写真2：移住者インタビュー

の活動内容は、伊佐市の空き家に関連する様々なことをできるだけ体験し、web記事にして、移住者向けの伊佐市の公式サイトに載せることと決めました。

11月、伊佐市のある移住者は空き家の古民家を改修するワークショップを開催すると情報をキャッチし、早速参加申し込みをしました。当日、到着した直後に短いレクチャーを受けたら、すぐ作業（フローリング作りが



写真3：古民家改修ワークショップ

中心)に入りました。今まで現場経験がほとんどない学生たちだったため、最初は初々しい様子でし

たが、自分たちの手作業が、誰かの棲家の一部になることを想像すると、みんな表情が真剣そのものでした。そして、1時間も経てば、みんなが職人張りの姿に変わります。途中で近隣住民が訪ねてきて、「羨ましい！うちにも高専生来てほしい！」と声かけられました。お昼は主催者手作りのご馳走をいただき、教室では決して経験できない豊かな一日を過ごすことができました。

このように、なるべく現地に赴き、身をもって経験することを積み重ねることによって、最終的にはきっと魅力的なweb記事を仕上げることができると期待しております。また、地域の人々との触れ合いが、学生たちの自己肯定や、日々の努力の意味づけになり、学びの原動力にもなると信じます。

すごいぜ！ マイコンプログラミング講座

電気電子工学科 今村 成明

我々のSSDは、「IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト」として、小学生・中学生・高校生・一般向けに開催するモノづくり公開講座を学生主体でテーマ開発を行って、実施することを目的に活動しています。

令和4年度から本格的に活動を開始し、令和4年度のメンバーは4名でしたが、現在のメンバーは、電気電子工学科2年生が6名、電気電子工学科3年生が5名、電気電子工学科4年生が4名（うち編入生1名）、電気電子工学科5年生が1名、合計で16名となり、活気があふれています。メンバーは、他の部活動も兼部しているため、週1日だけ全員で集まり、公開講座のテーマについて一緒に考えたり、マイコンやプログラミング、IoT技術を学んだり、公開講座の準備を行ったりしています。

令和6年度の公開講座は、「すごいぜ！マイコンプログラミング講座」と題して、9月14日土曜日と12月14日土曜日に実施しました。

9月は、小・中学生10名を対象に「スマートクロック+を作ろう」というテーマで実施しました。メンバーで考えたオリジナルの「スマートクロック+（プラス）」は、7セグメントLEDと加速度センサ、温湿度センサ、リアルタイムクロックを使い、ボタンと本体の傾きで、次の機能を選択できる多機能デバイスで、かなり凝った仕様になっています。

- ①時計表示
- ②温湿度表示
- ③タイマー
- ④サイコロゲーム（チンチロ）
- ⑤スロット
- ⑥フラッシュ暗算

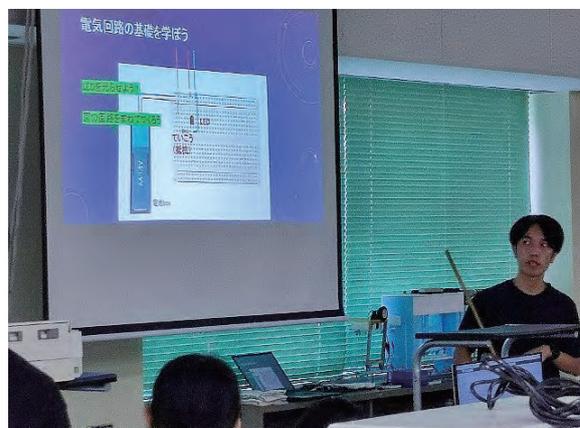
公開講座の前半は、抵抗とLED、ブレッドボードを使って、LED点灯回路を作成した後、マイコンプログラミングにてLED点滅させたりしました。後半は、「スマートクロック+」のプログラムを実装し、完成させていきました。

12月は、中学生・一般の方6名を対象に「クリスマスイルミネーションツリーを作ろう」というテーマで実施しました。メンバーで考えたクリスマスツリー風

の回路基板にフルカラーLEDと白・赤・青・緑・黄のLEDを付け、様々なパターンで光り、光センサによる光量制御も行います。また、クリスマスにちなんだ曲が流れます。様々なイルミネーションパターンで光り、曲が流れるだけ・・・と簡単そうに思われるかもしれませんが、チャタリング対策や並列動作プログラミングを行っており、意外に高度なプログラミングを行っています。講座を受講した参加者は、自分で考えたイルミネーションパターンをプログラミングで実装し、大変、満足しており、充実した講座となりました。

今年度、2回の公開講座を実施しましたが、公開講座テーマ案の検討から、回路基板の設計、電子部品・マイコンを使った製作物の試作、講座の流れの検討、説明資料作成などを自分達で行っており、メンバーには大変、貴重な経験になったと思います。

最近、リスキングという言葉も聞かれるようになりましたので、小学生・中学生・高校生向けだけでなく、一般の方にも多数、参加いただけるような公開講座を実施できるようになればと考えております。





学生の活躍～部活動編～

バドミントン部 全国高専大会 完全優勝(団体・シングルス・ダブルス)

チーム力の向上と勝負強さ

2024主将 機械工学科5年 相葉 洵之介

「be oneself」このスローガンのもと、私達、鹿児島高専バドミントン部は男子団体において創部初の二連覇、個人戦ダブルス、シングルス共に優勝、準優勝という結果を残し、「全種目完全制覇」を果たしました。

全国大会予選である九州高専大会では男子団体戦決勝で北九州高専に敗れました。しかし、それによって選手達はより高い意識と連覇とリベンジに向けて、強い気持ちを持ち日々の練習に励みました。部活では、自分たちでノックを行うなどの主体性の向上、部活以外では朝練をする者や練習後に筋トレをする者が格段に増えました。それによって、フィジカルの強化や技術力の向上を図ることができました。また、部活に携わる時間が増えたことにより、チームに、より強い絆が生まれました。

私は、このチームは、とても仲が良く、全員が楽しくバドミントンをやっているチームだと思います。ですが、去年の先輩方が引退してからは、その仲の良さが裏目に出て、練習に緊張感がありませんでした。その為、5年生全員で、「練習に対する意識を変

えて部員の士気が上がるような立ち振る舞いをしよう」という目標を立て、毎日の部活に望んでいました。例えば5年生が率先して声出しを行い、ランメニュー、ゲーム練習の時には4年以下に絶対に負けない。などの当たり前の事への意識を高めました。その結果、部員がそれに負けじとついてくるようになり、勝負事では勝ちにこだわるようになりました。

九州高専大会での負けがあったからこそ、私達はフィジカルの強化や勝負への勝ちにこだわる勝負強さによって、チーム力と個人力が共に向上し、完全優勝という結果に繋がりました。

最後になりましたが、私達、鹿児島高専バドミントン部を応援して下さった皆様の多大なるご支援のお陰で最高の結果を残すことが出来ました。本当にありがとうございました。引き続き私たちは更なる活躍を目指して精進して参りますので、今後とも応援のほど、宜しくお願い致します。

挑戦者

2024副主将 機械工学科5年 北迫 生海

私達は「be oneself」というスローガンのもと九州高専大会3連覇、全国高専大会2連覇という目標に向け活動してきました。このスローガンには「自分らしく」とともに昨年度の「To be...」のbeに続けていることからこれまでの先輩方の伝統や意志を引継いで



いくという意味があります。全員がお互いを認め合い、全国高専大会連覇という目標に向けて自分らしく、鹿児島らしく、これまでの悔しさを喜びを思い出しながら戦えたらという思いを込めました。

九州高専大会では団体戦は準優勝でしたが、男子ダブルス、男子シングルスでは全国出場枠2枠をすべて鹿児島が勝ち取ることができました。九州高専大会は激闘の連続でしたが、逆転勝利もたくさんあり鹿児島らしい粘りのバドミントンをすることができました。

全国高専大会では周囲から警戒される中、団体戦2連覇、男子ダブルス、シングルス優勝、準優勝という完全制覇を達成することができました。全国大会に臨むにあたり私たちは王者としてではなく、2連覇に挑戦しようとして挑戦者としての挑むことができていたと思います。決勝戦では九州大会で負けた北九州高専に借りを返すことができました。チームの全員が自分のやるべきことを全うして隙のない戦いをした結果だったと思います。

私たち鹿児島高専バドミントン部はこれまでにない結果を残すことができました。この結果を残すことができたのはコートで戦った選手、試合に出られない選手の応援やサポート、遠い北海道に駆け付け声援をくれた保護者、これまでアドバイスをくださった指導者の方々などのたくさんの力が集結し残すことができた結果だと思っています。

これからも鹿児島高専バドミントン部の挑戦は続きます。これまでの全国高専大会最長である連覇記録11連覇に向けて今後とも熱い声援をよろしく願います！

挑戦者

2025主将 都市環境デザイン工学科4年
瀬筒 瑛之進

私たち鹿児島高専バドミントン部は、第59回全国高等専門学校バドミントン競技兼第48回全国日本高等専門学校バドミントン選手権大会で、男子団体戦優勝、男子ダブルス、男子シングルスにおいて優勝と準優勝という成績を残し、完全制覇を達成しました。この結果は、日々応援してくださる地域の方々や保護者、顧問、副顧問の先生方などすべての人達のサポートや支えを受けて果たすことができた結果だと思っています。ありがとうございます。

団体戦においては去年、今年と優勝を果たし、創部初の連覇を達成しました。その主力となるメンバーには今の5年生が欠かせない存在でした。プレーだけでなく精神面や生活面でも尊敬できる先輩達でした。

5年生が抜け、新チームが始まり、不安が募る反面新たな気持ちで楽しくバドミントンをやっていたと考えております。

チームスローガンでは「夢」というスローガンを立てました。その意味は、夢のような部活、夢に向かって頑張る部活にしていきたいと考えています。

ディズニーランドの創設者である、ウォルト・ディズニーの言葉で「夢見ることができれば、それは実現できる。」という言葉があります。私たち鹿児島高専バドミントン部は、全員で夢に向かって努力し、夢の国ならぬ夢の部活を実現させたいと思います。

そのためには、メンバー全員で日々高い意識をもち練習に励み、来年は、先輩たちが繋いでくれた連覇を止めることなく3連覇し、個人戦も完全制覇を果たします。今後とも応援のほど、宜しくお願い致します。





陸上部 全国高専大会上位入賞

来年こそ全国優勝！

都市環境デザイン工学科4年 板山 幸汰

私は小学校2年生から陸上をはじめ、高専入学後、全国高専大会『優勝』という目標を掲げ、日々練習に励んできました。これまで1年の時は実力不足、2年の時は靭帯の怪我、3年の時は新型コロナウイルス感染ということで、九州高専大会を突破することができませんでした。

今年も去年と同様に、九州高専大会1週間前に新型コロナウイルスに感染し、出場すら危ぶまれる事態でしたが、出場種目(5000m)が大会2日目ということでもなんとかスタートラインに立つことができました。スタート前、全国高専大会を決めるレース(3位以内)は到底できないだろうと思っていました。不安で迎えたレースは、天候も悪く本来の走りができず、先頭との距離がどんどん離れる展開でした。しかし、「2000m」付近で諦めかけていた時、『おまえなら絶対大丈夫、全国行くぞ。』という仲間の声が聞こえてきました。その応援が苦しさを忘れさせ、そこからもう一歩前に踏み出すことができました。結果3位に入り、全国高専大会への出場権を得ることができました。

その後、私は自分の目標、信じてくれた仲間のために次は走る、そして今度は絶対優勝すると誓いました。

全国高専大会では、これまで強度の高い練習を減らし、1本1本のメニューに集中する練習を行った結果、怪我なく最高のコンディションで大会を迎えることができました。レースはスローペースでスタートしました。私はラストのスピード勝負に自信があったので、後半勝負に備え先頭集団の後ろについて走りました。「4000m」地点でペースが一気に上がり、スピード勝負で一瞬勝てると思いましたが、残り100mの勝負で競り負け「2位」という結果に終わりました。今回、勝負に負けたことは悔しいですが、それよりも「万全の状態で走れた」ことがうれしく思っています。

来年はさらにレベルを上げ、圧倒的な力で勝てるよう練習に励んでいきたいと思います。



高専大会

情報工学科3年 酒匂 莉乃

今年の高専大会は北海道釧路市で開催されました。鹿児島ではまだ暑さの続く9月でしたが、釧路では気温24℃程度で風も弱い良いコンディションの中でレースに挑むことができました。レース前は自分自身の調子やレース展開について不安もありましたが、実際に走った3kmはいつもより短く感じるほど楽しい時間になりました。結果的には反省する部分もありましたが楽しく走りきれたので良かったです。

また、大会を通して高専大会の良さを改めて感じることができました。特に、全国の高専生と仲良くなれる点は陸上競技ならではのことだと思います。二日間の大会で、同じ種目の選手とはコールからダウンまで一緒に過ごすため、話しをする機会が多くあります。それぞれの高専の雰囲気や学科、行事について知るこ

とはとても面白く、様々な違いに驚く場面もたくさんありました。これは全国の高専生が集まる大会だからこそできた経験だと思います。

同じ種目で頑張る選手から刺激をもらい自分の走ることへのモチベーションも強くなったとても充実した大会になりました。サポートして下さった保護者や顧問の先生方に感謝し、来年の夏も全国高専大会に出場するために、今後も継続的に練習に取り組んでいきます。



全国高専大会を終えて ～男子200m バタフライ 2位入賞～

水泳部 電気電子工学科2年 坂下 七隆

私は小学一年生の頃に水泳を始めて今年で11年目になりました。今では鹿児島高専水泳部の一員として日々勉強と練習に励んでいます。ここまで長い期間一つのことを続けたことは自分でも誇りに思っています。また、いつも支えてくれる保護者の方々、顧問の先生方、コーチ、そして共に練習に励む水泳部のみんなにはとても感謝しています。

今年の九州高専大会ではたくさんの応援とサポートがあったにも関わらず、自分の全力を出すことも望んだ結果を残すこともできずに終わってしまい、悔しい思いと不甲斐ない気持ちでいっぱいでした。そのため、全国高専大会では良い結果を残すため夏休みも合宿に参加し練習に励みました。その結果、全国高専大会では自分の全力を出し切ることができました。

今回のことを通して、自分がやってみたくと思うことに全力で挑戦できるのは、支えてくださる保護者の方々、顧問の先生方、そして共に戦う部員みんながいてこそなんだと改めて感じました。これからは何事にも全力で取り組む姿勢と自分が素晴らしい環境にいることに常に気づき、周りの人たちへの感謝の気持ちを持つことを忘れずにこれからも生活していこうと思います。

最後にいつも応援してくれる家族、様々な面でサポートして下さる顧問の先生方、部活のために頑張るキャプテン、いろいろな経験をさせてくれる水泳部、ありがとうございました。



不完全燃焼

ハンドボール部長 電子制御工学科5年
石神 凜太郎

私たち鹿児島高専ハンドボール部は、九州沖縄地区高専大会優勝、および全国高専大会入賞に向けて日々練習に励んでいます。今年度は、九州大会で優勝、そして全国大会3位入賞という結果を残すことができました。

私が入部する前の令和元年から昨年度まで、九州大会優勝、昨年度は全国大会でも初の3位という結果を残しています。私は、今年度も同じような結果を残すことができるか不安でした。

苦しい試合もありましたが、昨年度から活躍していた3、4、5年生、この1年で成長してきた2年生、新しく入った1年生。そして先生方のサポートもあり、チーム一丸となって、九州大会5年連続優勝、全国大会出場を果たすことができました。

昨年度の先輩から託された全国大会優勝を果たすために、練習に取り組みました。予選リーグの組み合わせが決まった時には、対戦相手の情報がほとんどなかったため、試合当日に対戦相手の試合を見て、戦術確認を行いました。その結果、1勝1分けとなり、決勝トーナメントに進むことができました。

決勝トーナメントの準決勝は、昨年度の準決勝で負けた相手との対戦でした。昨年度の反省を生かし、相手のエースを前半からマークしようということになりました。

前半は狙った通り、相手エースに仕事をさせないようにしていたため、ディフェンスとキーパーとの連携で失点を抑えることができ、オフェンスでは点を取れていたため、互いに点の取り合いになりました。前半終了間際に連続得点を許し、4点差で折り返しました。

後半で何とか追いつきたいと思いましたが、相手に徐々に対応され、相手のペースで試合が進んでいきました。じわじわ開いていく点差を見て力の差を感じ

ました。全国大会終了後、今までの試合の動画を見ていて、このプレーはこうすれば良かった、もっと練習をしていればもっといいプレーが

出来たかも、と反省が出てきました。勝負事に「たられれば」を持ち込むのはいけないと思っていますが、終わってから気づくことが多すぎて後悔ばかり出てきました。後輩たちは、私のように後悔しないように日頃の練習を頑張ってください。

昨年度の先輩方から全国大会優勝を託されていましたが、残念ながら果たすことができませんでした。なので、私達5年生も全国大会優勝を後輩たちに託します。

先生方、1年生の頃からご指導いただきありがとうございました。また、日常生活でもお世話になりました。

4年生が一番関わっていた時間が長かったですね。私たち5年生が引退しても4年生なら大丈夫だと信じています。後輩たちを引っ張ってあげてください。

3年生は4年生と同じくらいハンドボールへの理解があると思っています。4年生だけでは大変だと思うので、後ろから支えてあげてください。

2年生は昨年の全国大会が終わって、しばらく見ないうちに色々と成長していて驚きました。高体連の大会もあって大変だと思うけど、頑張ってください。

1年生とは短い期間だったので、あまり関われませんでした。先輩たちはみんな優しいので、わからないことがあったら、たくさん頼ってください。

最後に5年生、5年間ハンドボールをしてくれてありがとう。このメンバーで全国3位になれたことはハンドボール人生の中で一番の思い出です。

部長らしい事はあまり出来なかったけど、このチームの部長になれて良かったです。





九州沖縄地区高専大会優勝

サッカー部 電子制御工学科5年
高司 康平

全国優勝29回を誇る鹿児島高専のプライドにかけて何としても優勝杯を奪回したいと意気込み、今年の高専大会に臨みました。そして、3年ぶりに九州高専大会で優勝を果たしました。

大会は7/12(金)、7/13(土)、7/14(日)の3日間で行われ、試合時間は80分でトーナメント方式であり、7/12(金)は前日練習を行い、調整をしました。

7/13(土)は熊本高専八代キャンパスと試合を行い、8-0で勝ちました。7/14(日)は準決勝で北九州高専に2-0、決勝で大分高専に7-1で勝利し、優勝を掴み取りました。

今年は「超越」をスローガンに掲げ、チームとして今までの結果を超える、個人として今までの自分を超越することをチームの方針としました。チーム内での競争があり、それぞれの個性を發揮できる良い雰囲気で大大会に臨むことが出来ました。

また、選手だけでなく、いつもグラウンドや選手の見えない所で支えてくださったマネージャーや先生方、保護者、父母会、OB・OGの方々が一つになっているからこそ掴み取れた優勝だと思います。

チームの最も大きな目標であった全国優勝には届かず、後輩たちに託す形となってしまいました。

個人的に高専での部活を振り返ると、鹿児島高専のサッカー部だからこそ学べるが多く、5年間やり続けたことで選手としても人としても成長させて貰いました。この経験を活かして、次のステージでも自分に出来ることを精一杯やっと思っています。



九州沖縄地区高専大会2連覇

バレーボール部 機械工学科5年
井上 雅斗

私は、中学校の頃からバレーボール部に所属していた部活動最後の大会でした。私が初めて出場した九州高専大会では準優勝という結果で終わってしまったため、非常に悔しい思いをしました。そこから日々練習に取り組み、私が四年生の時の九州高専大会で優勝を勝ち取ることができました。そして全国大会への出場権を獲得し、いろんな県の代表と戦い全国の厳しさを知りました。結果は予選敗退に終わり、来年こそは絶対優勝するという気持ちで部活動生みんなで一致団結し一年間練習に励みました。そして夏の全国大会への出場権を懸けた九州大会が始まりました。九州高専大会も簡単な試合はなく厳しい戦いの中予選を勝ち上がり、全員の力で優勝を果たすことができました。けれど、私たちにとって九州高専大会ではなく全国高専大会優勝が目標だったため残り一ヶ月の練習期間で最後の調整をし全国大会に挑みました。私が予選ブロックのくじを引き、初戦は優勝常連校の島根県の松江高専

でした。予選は3チーム中1位しか決勝トーナメントにあがれないので私は正直松江高専に勝てるのかと少し弱気になってしまいましたが、チームメイトから「練習頑張ったから絶対勝てる」「絶対倒そうね」と強気な言葉をかけてくれて、キャプテンが弱気で居られないと思い今までの練習を信じて試合に挑みました。けれど松江高専には負けてしまい予選は1勝1敗という結果で、最後の高専大会は予選敗退に終わりました。しかしチーム全員で一致団結し来年に繋がる試合ができたので悔いは無いです。

全国大会優勝の目標は後輩達に託そうと思います。



九州沖縄地区高専大会を通して

テニス部部长 都市環境デザイン工学科5年
山崎 英司

今年度の九州沖縄地区高専大会テニス競技大会は、学生生活最後の大会でした。大会は、団体戦と個人戦があり、個人戦は入賞とはなりませんでした。団体戦では優勝という結果を残すことができました。昨年度も全国高専大会に出場しましたが、昨年度は団体戦で準優勝をしての全国大会出場だったため、とても嬉しかったです。全国大会では敗けてしまいましたが、そこで学ぶことも多くあり、とても良い経験をすることができました。

テニスは中学生の頃から始め、8年間も続けていることを考えると、ここまで続けることができたのは周りのサポートがあったからだと思っています。日常の全てをサポートしてくれた両親、学校の敷地内にテニスコートがあるという環境、大会の引率などをしてい



ただいた先生方、年上としての立ち振る舞いを教えてくださった先輩方、こんな自分にもついてきてくれた後輩たち等、たくさんの人に支えられてきたことを考えると、言葉で表しきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

来年は、就職をして社会人になりますが、テニスを通して学んだことを仕事や今後の人生に活かしていきたいです。

また、テニスも続けていきたいです。

部活動を通して

女子バスケットボール部 電気電子工学科5年
古賀 莉佳子

こんにちは。女子バスケットボール部です。私たちは、部員10名、指導者4名で週4回練習を行い、楽しむことを大切にしながら日々活動しています。

今年は前年の成績を上回る「九州沖縄地区高専大会での優勝」を目指して練習に取り組んできました。

目標達成のために、フィジカルの強化に加え、走り込みや個人トレーニングを重ね、コート上での動きやルールを明確にし、それを試合で発揮できるレベルまで仕上げました。予選リーグでは熊本高専八代キャンパスと都城高専に勝利し、決勝トーナメントへ進出しました。準決勝では一昨年・昨年と二年連続で敗れた北九州高専と対戦しました。チーム全員で相手を分析し、戦略を練った上で試合に臨み、66-40で勝利を収めました。二年分の雪辱を果たせたことはとても嬉しかったです。そして、私たちは創部以来初めてとなる決勝の舞台に立ちました。決勝戦の相手は、昨年の優勝校である有明高専でした。序盤から相手のペースで試合を進められ、点差を詰めても再び引き離される展開が続き、最終的に46-50で惜敗しました。あと一歩



届かなかった悔しさはありますが、決勝という舞台に立ち、全員で最後まで諦めずに戦い抜けたことは、かけがえのない思い出となりました。

私はこの大会にキャプテンとして出場しました。1年間、うまくチームをまとめられないことも多く、キャプテンとして頼りない部分ばかりでしたが、最後までついてきてくれた仲間には感謝しかありません。時には意見の衝突もりましたが、全員が同じ目標に向かって切磋琢磨し合い、「この仲間と戦えて本当に良かった」と心から思える大会でした。

欲を言えば悔しさの残る結果となってしまいましたが、出来ることを精一杯やり遂げたので後悔はありません。この約4年半の部活動を通して得た経験や学びを今後の人生にも活かしていきたいです。そして、来年こそ後輩達が優勝を掴むことを願っています。



全国高専大会優勝の決意

男子バスケットボール部 機械工学科4年
深江 優良成

昨年開催された九州沖縄地区高専大会では、先輩方と共に全国高専大会への出場を目指して懸命に戦いました。結果は第三位に入賞しましたが、私にとってとても悔しい結果でした。三位では全国大会への出場という目標を達成することができなかったからです。試合後には全国の壁の高さを感じさせられると共に、チームとしての力不足や自分の課題に改めて向き合う時間になりました。

しかし、先輩方と共にプレーできた時間は本当に楽しく、先輩方の背中からは多くのことを学ぶことができました。試合中に自分が良いプレーをした時にはナイスと声をかけてくれて、ミスや悪いプレーをしてしまった時には励ましたりアドバイスをくださったりしました。他にもたくさんご飯に連れて行ってもらったり、練習後にしゃべったり、自分にとって約3年間同



じ目標に向かって先輩方と過ごした時間はとても良い思い出であり、自分自身の成長につながったと感じています。

今年は、去年の悔しさを糧に、全国高専大会に出場して優勝を手にしたと思います。

自分たちだけのためではなく、これまで関わってくださった全ての方々への感謝を形にするためにも一戦一戦全力で戦い、最後には全員が笑顔でいられるように頑張ります。

応援よろしくをお願いします。

最後の高専大会

剣道部 電子制御工学科5年 廣池 諒太

私は幼稚園の頃から剣道を続け、今年で15年目です。ここまで1つのことを長く続けられていることを誇りに思います。この15年間の集大成を九州高専大会で発揮し、日々支えてくれる両親や顧問の先生方に感謝の気持ちも込め、成績を残して全国高専大会に行きたいという思いで最後の高専大会に臨みました。

昨年度は、団体戦で全国高専大会に出場し、3位という成績を残しました。今年も再び出場し、好成績を目指し稽古に励みました。そして迎えた九州高専大会では団体戦は3位で、全国高専大会への出場は叶いませんでした。そのため、私が全国高専大会に出場するには、個人戦で勝ち上がるしかありませんでした。団体戦で負けた悔しさを堪え、目の前の試合に集中するように気持ちを切り替えました。

「相手をよく観察して攻める」という、日々の練習で先生に教わったことを実践し、相手の構えや打ち方から得意な点や弱点を冷静に見極めることに努めました。その結果、2位を勝ち取り、北海道で開催される全国高専大会への出場権を得ました。今まで個人戦で

全国大会に出場したことが無かったので、非常に嬉しかったことを今でも覚えています。

全国高専大会でも勝ち進むため、夏休みも寮で合宿をしながら、稽古に励みました。結果は1回戦負けでしたが、人生初の20分を超える試



合をし、自分らしさも発揮できました。最後の試合がこの試合で良かったとも思え、両親や先生方に集大成を見せることができたのではないかと思います。

これから私は社会人となりますが、剣道を続けたいと思います。私は今年、段位4段に合格しました。4年後に5段を目指し、さらにその先の6段、7段と挑戦し続けたいです。剣道は80歳になっても続けられる点が魅力です。健康のためにもこれからも続けていき、目標に向かって日々の練習に励みたいです。また、これからは教える側になっていきたいと思っています。

種子島でキラキラ大成功☆

機械工学科4年 前山 あかり

環境創造物理研究部物理チームは、第20回種子島ロケットコンテストにおいてロケット部門の滞空・定点部門で優勝・準優勝・3位と部門独占入賞、またCanSat部門で敢闘賞を受賞することができました。

種子島ロケットコンテストとは毎年3月に種子島にて行われる、モデルロケット部門とCanSat部門より構成されている大会です。私たち物理部にとっては一年間の集大成といえる重要な大会となっています。

今回独占入賞を果たした滞空・定点部門は、発射したロケットの滞空時間の長さ、ロケットの発射地点と落下地点との距離の短さを競います。他の部門に比べてレギュレーションが緩く自由度が高いため、ユニークな機体が多く出場します。物理部チームも例外ではなく、優勝したチームの機体は機体の胴体部分の素材に竹を用いており、準優勝したチームは機体をUVレジンで製作、3位のチームはロケットの翼を可変式翼にして翼の大きさを変えられるようにしています。

創意工夫を凝らし、完成まで何度も試作・試射を繰り返して大会に挑みますが、実は記録に一番影響する



のは大会当日の気象条件です。種子島は風がとても強いので、良い記録を出すためには発射の角度が非常に大切で、風を読み違えるとすぐに風に流され最悪の場合規定の範囲外に出て失格になってしまいます。そんな中、物理部のチームは角度の調節と発射のタイミングが良く、一番距離が短かったチームは発射地点から約5mの位置に機体を落下させることができました。

各々のチームで反省点は多々あったかと思いますが、史上初の部門独占入賞を果たすことができ、部員たちの努力が形になったことがとても嬉しいです。

今回はロケットコンテスト大賞を惜しくも逃してしまったので、次回の大会では大賞の受賞を目指し製作に取り組んでいきたいと思っています。

なお、タイトルはChatGPTに考えてもらいました。

「大好き」の魔法 ～第17回全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト特別賞～

英語部 電子制御工学科4年 大田 早記

「大好き」の気持ち。それは、いつでも私の芯にあり、やる気と希望になるものです。今回は、私を取り囲むたくさんの大好きが起こした「魔法」についてプレゼンした時のこととお話しします。

2024年1月27日。全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場し、私は“Chiffon's Magical Gift”というタイトルで発表しました。これは、シフォンというぬいぐるみを通じて私自身に起こった変化を「魔法」として描いたものです。

始まりの魔法は、私が高専に入学したことです。シフォンは電池を入れると話ができるのですが、ある日突然反応しなくなっていました。そう、私が高専に入学し、工学を学んでいるのはシフォンを自分の手で修理したからなのです。入学後の魔法は私を成長させてくれた経験や人との出会いです。ラストには、私が起こした魔法も登場させました。私の魔法とは、なんとシフォンを修理したことです。高専の先生方やシフォンを通して出会った方々の支えを受けて、修理できた時は夢がひとつ叶った喜びで、魔法



使いになったような気分になりました。

本番は、大勢の人を前にして感じた、ほどよい緊張感が心地よく、段々と気持ちに乗ってきて、多くの視線が突き刺さる感覚さえ、楽しみながら話すことができました。そして、閉会式で大会特別賞を受賞しました。名前を呼ばれた瞬間、シフォンと過ごした魔法のような時間が一気にフラッシュバックして思わず涙があふれました。そのとき、叶えたい夢やなりたいたい姿を実現するために発揮する実行力や創造力こそ、私たちがもつ「魔法」なのだと気づきました。私にとっては、そのトリガーがシフォンだったのです。

これからも、自分に対する自信とそれ以上の謙虚さをもって、大好きなことで思いっきり輝くために努力し続けたいです。



小学生に向けた 紙飛行機講座を終えて

航空技術研究部 情報工学科4年
上村 風太

誰しも一度は折り紙飛行機を作って飛ばしてみた経験があるのではないだろうか。

航空技術研究部は学生による飛行ロボットの開発を行い、毎年開催される「全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」へ出場することを目標とした部活動である。本年度も出場し、一般部門では過去最高の全30チーム中7位を獲得した。

この度航空技研は曾於市PTAからお声がけいただき、曾於市の財部小学校にて小学生に向けた折り紙飛行機講座を開催した。目標は小学生の作った折り紙飛行機でのギネス記録更新である。

10月19日に本講座は開催された。朝はあいにくの大雨ながら、我々が小学校の体育館に到着すると既に大勢の小学生と保護者の方々がいらっしやっていた。実際に講座を開始すると、生徒たちはもちろんのことながら保護者の方々も熱心に折り紙飛行機づくりに取り組まれる様子が見られ、ものづくりを通じた親子の交流の場にもなっていると感じた。このような講座を行うことは我々にとっても初めての経験だったが、生徒たちの真剣な取り組みによって、いくつかの複雑な工程を乗り越え無事全員が機体を完成させることができた。



実際の記録測定を行う前に、航空技研が製作し本年度大会に出場した機体のデモンストレーションを行わせていただいた。生徒たちが新鮮な驚きを見せてくれたことは非常にうれしかった。

記録測定では、ほとんどの生徒が2秒ほどでとどまってしまう結果であった。これは時間が限られてしまい適切な調整が施せなかったことと、当日の湿度が非常に高く条件が良い方向に向かわなかったことが主要因であると考えられる。しかしそんな中でも4秒ほどの記録が出ると歓声が上がったり、自分なりに改良を施して記録を狙おうとする生徒がいたりする様子に印象に残った。

私は今回の講座の一番のゴールは、生徒たちの将来へつながる道の経験の積み重ねのひとつとなることだったと思う。単に折り紙飛行機といえど、その先には奥の深い世界が広がっていると彼らが少しでも感じ取ってくれていれば、それで大成功といえるのではないだろうか

巡回演奏旅行

吹奏楽部 電気電子工学科4年 上窪 高人

吹奏楽部では毎年7月中旬に巡回演奏を行っています。巡回演奏とは鹿児島を訪問し演奏をさせていただく行事です。1日2校から3校ほど訪問し、2泊3日で行われます。訪問する地区を北薩・南薩・北大隅・南大隅と分けて、毎年訪問する地区を変更しています。今年は南薩摩の小学校に訪問させていただきました。

パフォーマンスとしては、「にじ」や「アンパンマンマーチ」などの子供向けの曲や、YOASOBIの「勇者」といった流行の曲も演奏しました。子供たちは知っている曲で歌ったり手拍子をしたりなどで盛り上がりしてくれました。

また、部員たちはスタンドプレイやソロパートで最前に出た演奏、例年採用しなかったアンサンブルステージなど、振付や演奏構成にも力を入れ演奏が盛り上がるように力を尽くしました。

巡回演奏において大事にしているのは、「子供たち

も巻き込む」という点です。例えば楽器紹介をクイズ方式に行ったり、吹奏楽部が子供たちの合唱の伴奏を行ったり、代表の子供に指揮者の体験をしてもらうなど、子供たちがただ聞くだけということがないようにしています。



演奏後の子供たちの反応は様々で、友達と感想を話している子供や楽器を見に近付いてきてくれる子供、楽しかったなどの感想を話しに来てくれる子供など三者三様です。ですが、どの子も演奏前よりも楽器や曲に興味を持ってもらえているのが分かり、とてもうれしく思います。

巡回演奏を通して、子供たちに音楽の楽しさを伝えられたと自負できる巡回演奏になりました。来年以降もこの活動を続け、子供たちに音楽をより好きになってもらえるように頑張りますので、引き続き応援をお願いします。

作文論文コンテストのすすめ

電気電子工学科 屋地 康平

高専生のみならず、作文や論文のコンテストに挑戦してみませんか？学協会が主催する作文論文コンテストは、皆さんの能力を伸ばし、将来のキャリアにも良い影響を与える絶好の機会です。

まず、コンテストへの参加は文章力や論理的思考力を磨く絶好のチャンスです。自分の考えを明確に表現する力は、どんな分野でも重要なスキルです。また、テーマに沿って調査・研究を行うことで、専門知識も深められ、自らの視野を広げるチャンスにもなります。

さらに、入賞すれば大きな自信につながります。コンテストでの実績は進学や就職の際にも強みとなります。自分の能力を客観的に示す良い指標となるでしょう。たとえ入賞できなくても、挑戦する過程で得られる経験や知識は必ず皆さんの糧となります。ぜひ、自

分に合ったコンテストを見つけ、積極的に挑戦してみてはいかがでしょうか！？

本校では、2023年度、電気電子工学科の学生を中心に「KPA（九州パワーアカデミー）作文論文コンテスト」に37名の作品を応募しました。KPAは電気工学分野の発展を目的として、九州域内の産学の組織が連携し、若手研究者の支援や電気工学の魅力を広く伝える活動を行っている非営利団体です。KPA作文論文コンテストは、主に九州地区の高専生・大学生が、与えられたテーマのもとに現状の社会問題の分析や解決策の提案等を技術論文にまとめて提出するコンテストです。2023年度は、審査員による厳正な審査の結果、本校電気電子工学科から1名が優秀賞に、11名が佳作に入選しました。次の寄稿では、見事「優秀賞」(!)を受賞した電気電子工学科4年（当時3年）の田上蒼大君より、論文を書く上での秘訣や、苦勞した点などについて話していただきます（田上君の作品はKPAのHPで公開されています）。

論文って何だろう

電気電子工学科4年 田上 蒼大

論文という言葉を知るとうんざりする方もいらっしゃるかと思いますが、そもそも論文とは自分の伝えたいこと（実験結果など）を論理的に裏付けし、かつ相手に伝えるための道具だと私は考えます。皆さんが小・中学校で書いてきた作文に毛が生えたようなものです。

私は今回、これからの人間とAIとの関係がどうあるべきかについて論文を書きました。現在発生しているAI関係の問題から、これから発生すると考えられる問題について書いていきました。今回この論文を書くにあたってネットで様々な記事・論文を目にし、多くのことを新たな知識として身に付けることができたため、自分にとってとても有意義な時間でした。

真面目な話はこれくらいにしておいて、ここからは論文を書く上で苦勞したこと、また論文を書いて感じたことを簡単に書き連ねていきたいと思います。まず苦勞したこと。1つはデータ収集です。これはネットに転がっている情報は全て正しいとは限らないため、情報を精査しなければなりません。特にブログ等は情報の信頼性が薄いと考えられるため、信頼に

値する記事を探すのにとっても時間がかかりました。2つ目は論文を書き始めるやる気を出すことです。こればかりはどうしようもありません。何事もそうですが、動き出す時に一番エネルギーが必要です。ただし、動き始めてしまえば後はこっちのもので、あとは比較的楽に書けると思います。

最後に、論文を書いていて私が個人的に思ったことなのですが、何か論文・レポート等をフリーテーマで書くときは、楽な内容より自分の興味のあることを優先して書くべきだと思います。これはやる気の話につながるのですが、興味のあることは自ら動きます。すると案外、論文・レポート等は進むものです。

ぜひこれらのことを実践して論文・または普段のレポート等を書いてみてはどうでしょうか？





ロゴマーク作成を通して

電気電子工学科4年 田上 蒼大

ロゴマークには様々な意味や、思いが織り込まれているのですが、皆さんはその意味などを考えてみたことはありますか？

今回、霧島市、伊佐市、始良市及び湧水町の3市1町を所管区域としている始良地域振興局の主催の、ミッドかごしま始良・伊佐ロゴマークの募集に応募させていただきました。そして大変ありがたいことに最終選考に選んでいただき、振興局の方々と、デザインをアドバイスしてくださる県技術センターの方とともにロゴマークを製作いたしました。

初めは振興局、技術センターの方とともに打ち合わせを行いました。提出した案を見ていただいた委員会の方々から様々なご意見・ご感想をいただいていたのでそれに寄り添う形でロゴマークをもう一度見直していきました。そして、2回3回とおなじ作業を繰り返していき、よりよくなるようにブラッシュアップしていきました。

私自身、高専外部の方とともに作業をするという

ことはなかったの
で、初めて体験するこ
とばかりでした。この
一連の作業の中で連絡
を行う際は基本的に
メールですることが多
かったので、この期間
中にメールの送り方が
身に付きました。この能力は今、就職活動をする中で
大いに役立っています。そのためとても貴重な経験
だったと感じています。また、今回ほかの方からいた
だいた要望に応えながら、自分で形にするというエン
지니어のような経験をすることができ、多くの苦労が
ありました。特に自分のしたいデザインと相手側との
要望との妥協点を見つけるのがとても難しく苦労しま
した。

苦労することもかなりありましたが、ロゴマーク制
作にかかわった3か月はとても貴重なものでした。こ
れらの経験を生かして就職活動等に生かしていければ
と思います。また、ロゴマークが霧島市、伊佐市、始
良市及び湧水町の発展に少しでも貢献できればと思い
ます。





頑張ってます！ 課外活動！

起業家クラブの活動を通して

都市環境デザイン工学科5年 伊瀬知 海

2023年10月から起業家クラブはスタートしました。今現在、私たちは23名で活動していて、目標の一つは2024年から始まった高専起業家サミットで入賞することです。

起業（スタートアップ）という日本では、まだまだ活発に行われていないと思いますが、近年スタートアップは大きな注目を集めています。その理由として、アメリカ経済の現在の主役として名高い「GAFAM」がそれぞれスタートアップとして登場し、経済を牽引しているからです。その為、日本はこれに習い長年のデフレ脱却と生産性の向上を目指し、大きな注目を集めているのです。

では、起業するにあたっての活動は何をするか気になる方もいると思います。正直私たちもよくわかっていません。初めての年であり、どこから何を手に付けてよいのかもわかりませんが、とりあえず行動してみ

ながら考える。それが起業における大事なマインドだと思っています。

実際に、行動して感じたことは自分たちが頭の中で考えているほど大きな壁は無いということです。

今の時代、SNS から企業の担当者に連絡することは容易ですし、人材不足となっている企業側からしても学生と知り合えるよい機会となります。その為、失礼のない態度であれば快く企業訪問の機会や現在企業が抱えている問題を教えてくれます。

始めてみる前から、いらぬ想像で断られるといった不安な気持ちが、この経験を通して、断られても誰かが受けてくれるだろうという前向きな気持ちに変わりました。未だに連絡する時は緊張しますが、昔ほどはなくなりました。

起業クラブ全員が同じようなことをしているとは限りませんが、それぞれがそれぞれの目標と解決策を行動していきながら考えるという点に関しては同様に行っており、恥ずかしくないといった環境作りはできていると思います。今後ともそのような起業家クラブをよろしく願います。

グローバルキャンプ2024に向けて

情報工学科4年 竹野 いさな

私たちグローバルクラブは、2月24～3月1日の約1週間にわたって開催される「高専グローバルキャンプ2024」に向けて活動しています。

グローバルキャンプでは、「情報工学分野とプロダクトデザインの融合により、鹿児島県の第一次産業に新しい魅力を想像するものづくりワークショップ」をテーマに掲げています。私たち高専生の強みであるものづくりの知識と、生活の基礎である鹿児島県の第一次産業に着目しました。

具体的には、グローバルキャンプの参加者に、農業、林業、漁業等を若い人たちにとってより魅力的なものにするためのアイデアを形にしてもらいます。

全国の高専から30名、スウェーデン、マレーシア、台湾の3カ国から19名の計49名が参加するととても大規模なプロジェクトです。

現在はグローバルキャンプのテーマである第一次産業の課題点や改善点の情報収集を行うため、鹿児島県庁や地元の農業、林業、漁業等に実際に携わっている方へ聞き込みを行い、解決策の考案に取り組んでいます。

今後はプロダクトデザインや生成 AI についての事前研修や、参加者との交流を図るためのアクティビティの企画立案、記念品の選定、外部への広報や参加者に向けた情報の事前共有等を中心に活動していきます。

このプロジェクトの先駆けとして、10月に行われた文化祭の露店にグローバルクラブとして出店しました。

語学研修で行かせていただいた、スウェーデン、マレーシア、台湾の食べ物をテーマに出店しました。8月頃から商品の考案や試作など、みんなで取り組んだことで絆を深めることができたと思います。

私たち学生の力でこのプロジェクトを作り上げ、成功させるために一丸となって頑張ります。





学生表彰

令和6年度 第1回学生表彰一覧

◎スポーツ賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
バドミントン部	第59回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技 兼 第48回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子団体	優勝
バレーボール部	第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バレーボール競技 男子の部	優勝
ハンドボール部	第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ハンドボール競技	優勝
バドミントン部	第59回鹿児島県高等学校バドミントン競技大会 男子団体	第3位

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
情報工学科 3年 酒匂 莉乃	第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技 兼 第59回日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会 女子 3000m	優勝
都市環境デザイン工学科 4年 板山 幸汰	第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技 兼 第59回日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会 男子 5000m	準優勝
都市環境デザイン工学科 5年 福富 将矢	第45回全国高等専門学校通信弓道大会 男子個人	優勝
電気電子工学科 2年 坂下 七隆	第59回全国高等専門学校体育大会 第30回全国高等専門学校水泳競技大会 男子200m バタフライ	準優勝
機械工学科 4年 山田 莉世	第10回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会 女子個人	優勝
機械工学科 5年 相葉 洵之介	第59回全国高等専門学校体育大会 バドミントン競技 兼 第48回全日本高等専門学校 バドミントン選手権大会 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 4年 松永 幸丸		準優勝
電子制御工学科 5年 大堂 翔太郎		準優勝
電子制御工学科 4年 酒匂 将也	第59回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技 兼 第48回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子シングルス	優勝
電子制御工学科 3年 阿比留 弘平		準優勝
電子制御工学科 1年 向原 琉晴		準優勝
電子制御工学科 3年 阿比留 弘平	第69回鹿児島県春季バドミントン選手権大会 高校男子ダブルス	第3位
機械工学科 2年 安達 琉偉		
電子制御工学科 3年 阿比留 弘平	第69回鹿児島県春季バドミントン選手権大会 高校男子シングルス	準優勝
機械工学科 5年 相葉 洵之介	第69回鹿児島県春季バドミントン選手権大会 一般男子シングルス	第3位
機械工学科 2年 安達 琉偉	第38回鹿児島県ジュニアバドミントン大会 (兼 第43回全日本ジュニアバドミントン大会選考会) 男子ダブルス	第3位
電子制御工学科 2年 永石 朔士		
電子制御工学科 1年 向原 琉晴	第38回鹿児島県ジュニアバドミントン大会 (兼 第43回全日本ジュニアバドミントン大会選考会) 男子シングルス	第3位
電子制御工学科 3年 阿比留 弘平	第59回鹿児島県高等学校バドミントン競技大会 男子ダブルス	第3位
機械工学科 2年 安達 琉偉		

◎文化賞

○団体の部

団 体	大 会 等 名	成 績
消波ブロック模型実験装置製作 チーム (安井研究室)	消波ブロックの効果が分かる模型実験装置を製作	Youtube1000万回再生 国土交通省出展
エコラン部 NOMO チーム	Honda エコマイレージチャレンジ2024第39回九州大会 CNグループⅢ (大学・短大・高専・専門学校生クラス)	優勝 アカデミー賞
エコラン部 RED チーム	Honda エコマイレージチャレンジ2024第39回九州大会 グループⅢ (大学・短大・高専・専門学校生クラス)	第3位
都市環境デザイン工学科3年生	富坂建設学生デザインコンペティション	最優秀賞
高安研究室5年生	富坂建設学生デザインコンペティション	特別賞
タマ娘 ET ダービー (情報工学科及び専攻科電気情報 システム専攻学生有志)	ET ロボコン2024九州北・九州南地区大会 プライマリークラス 総合部門	第3位 地区特別賞

○個人の部

学年・氏名	大 会 等 名	成 績
機械工学科 4年 塚原 大和	第8回いちき串木野市黎明の地ふるさと短歌大会 一般の部	教育長賞
都市環境デザイン工学科 3年 長山 楓	「健康増進」作文・標語・川柳コンクール	鹿児島県国民健康 保険団体連合会 理事長賞
都市環境デザイン工学科 3年 橋本 らら	令和6年度 第60回建築設計競技	銅賞
都市環境デザイン工学科 3年 西 裕莉愛		佳作
都市環境デザイン工学科 2年 今中 美輝		佳作
都市環境デザイン工学科 3年 西 裕莉愛	第3回 POLUS 木造住宅インターハイ 設計部門	佳作
建設工学専攻 2年 坪口 貴斗	令和4年土木学会西部支部研究発表会	優秀講演者賞
建設工学専攻 2年 山ノ内 諒	令和5年土木学会西部支部研究発表会	優秀講演者賞



令和6年度 第2回学生表彰一覧

◎スポーツ賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
テニス部	第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 テニス競技 男子団体	優勝
バレーボール部	第29回九州沖縄地区高専バレーボール新人大会 男子の部	優勝
サッカー部	第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 サッカー競技	優勝
バドミントン部	令和6年度九州沖縄地区高等専門学校バドミントン新人大会 男子団体	優勝
バドミントン部	第57回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会 男子団体	第3位

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
機械工学科 5年 北園 海十	2024 東京エネシスカップ第1回全国高専サッカー地域選抜大会	九州高専地域選抜 優勝
電気電子工学科 5年 南 尚孝		九州高専地域選抜 優勝
電子制御工学科 5年 山下 慧人		九州高専地域選抜 優勝
都市環境デザイン工学科 5年 松本 武		九州高専地域選抜 優勝
情報工学科 3年 尾辻 朱蓮	第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 柔道競技 個人戦の部 無差別級	優勝
電子制御工学科 1年 向原 琉晴	令和6年度九州沖縄地区高等専門学校バドミントン新人大会 男子シングルス	優勝
電子制御工学科 1年 向原 琉晴	第57回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会 男子シングルス	第3位
機械工学科 2年 安達 琉偉	第9回鹿児島県高等学校バドミントン一年生大会 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 2年 永石 朔士		

◎文化賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
デザコン桜島チーム	第21回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2024 空間デザイン部門	本選出場 審査員特別賞
デザコン内之浦チーム		本選出場
チームこたろう	鹿児島県コンクリートコンテスト2024 ドラコン部門	優勝
万中チーム		準優勝
ゆ	鹿児島県コンクリートコンテスト2024 ニアピン部門	準優勝

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 3年 西 裕莉愛	第15回高校生の「建築甲子園」	審査委員長特別賞 鹿児島県代表
情報工学科 5年 有蘭 諭志	ネットワークスペシャリスト試験	本科3年次に合格
電気情報システム工学専攻 2年 邪答院 優斗	情報処理安全確保支援士 (セキュリティスペシャリスト)	本科5年次に合格
情報工学科 5年 米田 歩生		本科5年次に合格

◎特別賞

○個人の部

学年・氏名	対象内容	成績
電気電子工学科5年 中島 紅	サイバーセキュリティボランティアとして、情報セキュリティの必要性等について、県内小中学校へ出向き説明を行う活動を複数年に渡って活動しており、18校（のべ2000人超え）に対して講演を行った。	感謝状
電気電子工学科5年 浜島 百代		感謝状
電子制御工学科5年 柴 あおい		感謝状



学生会だより

学生会活動を振り返って

電子制御工学科4年 松永 幸丸

学生会長の松永幸丸です。今年の学生会のテーマは「プラスワン」です。昨年の学生会のテーマは学生会活動の「見える化」であり、例年に比べて明らかに学生会としての仕事を増やし学生に仕事内容を理解してもらう狙いがありました。そして今年はさらに学校を活性化させるため、新しく企画や仕事をそれぞれの局ごとに考えて行う「プラスワン」を行っていました。

具体的な内容だと、交通局が交通安全ポスターを作成したり、風紀局がイジメ防止の論語を文化祭の際に張り出したりなど目に見えるような活動を行ったり、予算案の再構築を試みていたりクラスマッチのシステムを変えようとしたりなど現在も試行錯誤を繰り返しているものもあります。

私は学生会長に就任した時から、副会長、局長並びに学生会役員に、たとえ失敗してでも新しいことに挑戦してほしいと伝えていました。何もない状態から企画を作るというのは本当に難しいことです。実際に私自身、副会長を務めていた昨年からの野望である修学旅行、会長を務める際に全校生徒に伝えた芸能人の招集など未だ達成の目処がついていないものが多くあります。しかし挑戦を諦めているわけではありません。企画書を作成し、日々実現する未来へと一歩前進しています。僕が実際に行うことができなくても僕のこの思いと情熱、企画書などの知識を後輩に託すことによっていつか必ず新しい時代は切り開けると信じています。



体育祭を終えて

電子制御工学科4年 永谷 優人

こんにちは、今年度の体育祭実行委員長を務めさせていただいた永谷優人です。私は、2年生のころに体育祭実行委員会に入り、数多くのことを経験させていただきました。そして、昨年は副実行委員長として実行委員長をサポートすることができ、実行委員長を引き継がせていただく形になりました。

鹿児島高専の体育祭は高専生活の中で間違いなく1番大きな行事であり、学生の皆さんの思い出となるものです。そんな行事の実行委員長を務めるということはとても大きなプレッシャーでした。そんな中で、どのような体育祭を作り上げていきたいかを考えたときに、第一に思い浮かんだことがありました。

それは、学生だけでなく、当日鹿児島高専にいるすべての皆さんを巻きこみ、その一人一人の記憶に強く刻まれるそんな体育祭にしたいという思いでした。この思いを形にするために、先生方や、ご家族、ご友人の方々などが参加できるように新たな競技である「障害物リレー」を追加するなど多くの工夫をして、最高の体育祭を作り上げるために実行委員のみなんで一丸となって頑張りました。

当日は、雨予報だったにも関わらず天気にも恵まれ、最高の形で体育祭を迎えることができました。実際にこの鹿児島高専に足を運んでくださった多くの方々をみて、このすべての皆さんを笑顔にして帰したいと強く思いました。

始まってみればあっという間の1日で、気が付いたら閉会式での「実行委員長総評」になっていました。そこで、朝礼台の上に立ったその瞬間に、思わず涙が出そうになりました。それは、多くの方々を支えられてこの体育祭を運営し、成功させることができたということに改めて実感したからです。

気づけば、当日見に来てくださった皆様、自分のわがままに全力でこたえてくださった先生方、頼りない自分についてきてくれた実行委員をはじめとするすべての学生という数えきれない人たちに支えられていました。本当にありがとうございました。体育祭を終えて、多くの人に「最高の体育祭だった!」と言われて、実行委員長になって本当に良かったと心の底から感じました。この一大イベントを中心となって運営することができて誇りに思います。この鹿児島高専の体育祭

がこの先ずっと学生だけでなく、地域の皆さんの記憶に残る最高の行事であり続けることを強く願っています。改めて、この体育祭に関わっていただいたすべての皆様、ありがとうございました。



(4年実行委員集合写真)

文化祭を振り返って

機械工学科4年 外山 琉葵

今回、令和6年度第62回高専祭の文化祭実行委員長を務めさせていただきました。4年機械工学科外山琉葵です。まず、私は今まで実行委員すらも務めたことがなく未経験のまま急遽実行委員長を務めることとなり、最初は驚きや不安、自分で本当によいのかと言う心配もありました。去年の実行委員長や元々の実行委員長からの引き継ぎが不十分ということもあり、わからないことばかりで、実行委員の各局長に聞いてみたり、田中先生に相談したりなど手探りで失敗ばかりでしたが、実行委員長として自分のすべきことを全力で全うしたと思います。

私は実行委員長を務めるにあたって工夫したことがあります。それは1人で抱え込まないことです。これは当然のことですが、上に立つ者で周りに頼りづらい人は少なからずいると思います。私もその人で抱え込んでしまっていますが、文頭にあるように、文化祭の担当主事補の田中先生に何度も話をし、分からないことや不安な所などをサポートしていただきました。

他には実行委員の各局の局長達に去年はどのような感じだったのかなど聞いて、今年は去年とは違ってど

のようにしたらいいのかアイデアをもらったり考えを聞いてもらってアドバイスをもらったりなど、自分1人ではなく周りの皆にも協力してもらいました。

他には去年なかったもの、できなかったものをするということで、これは新しいことに挑戦するということです。完全に実現することはできなかったのですが、体育祭実行委員の負担を減らすことに力を入れました。その一つとして、使用したテントに新たにテープを貼り、所在を明確にすることを試しましたが、時間の都合で全てを行うことができませんでした。

私が苦勞したことは、やはり実行委員長と学生会報道局局长及び応援団の列隊長を兼任してしまったことです。責任感だけでは務まらないことがはっきりと分かり、全てに目を向けることもできず、自分のやらないといけない仕事や学校などが中途半端になってしまったことをとても後悔しており、反省しております。ですが！この文化祭実行委員長をしたことは、とても自分の為になることであつたと思ひ、やりがいを感じる事ができました。





寮生活会だより

これまでとこれからの寮

都市環境デザイン工学科4年 原永 亮瑛

今年度、寮長を務めさせていただきました原永です。寮生活を取り巻く環境では多くの課題と挑戦がありました。

寮生会は、寮生活を支えるために必要不可欠な存在です。しかし、今年度の新メンバー募集では、当初希望者が非常に少なく、このままでは次年度の活動に支障が出る可能性がありました。

この課題に対して、「寮生会の活動内容がわかりにくい」「時間的な負担が大きそう」といった声が多く挙がりました。そこで寮生会では、これらの不安を払拭するため、プレゼンテーションを実施しました。このプレゼンでは、PowerPointを用いて寮生会の具体的な活動内容や成果を視覚的に紹介しました。

過去に行った七夕パーティーや留学生との文化交流イベント、寮生会がどのように寮生活を支えているのかを写真で説明しました。また、寮生会に参加することで得られる経験や成長の機会についても詳しく述べました。例えば、企画力や調整力が身につくことや、メンバー同士の交流を通じて人脈が広がることなど、参加することで得られるメリットを強調しました。

早めに行動し、段階的に関心を高めることも大切だと実感しました。これらの経験は、次年度の引き継ぎ活動にも活かしていきたいと考えています。七夕パーティーは、寮生にとって年間最大のイベントの一つです。「参加した全員に楽しんでもらう」という目標を達成するため、寮生会では過去の形式にとらわれず、新しいアイデアを取り入れることにしました。目玉イベントとして「二人羽織の早食い競争」を初めて導入しました。ペアを組んで挑む形式は、笑いを誘い、寮生同士の絆を深める場となりました。

七夕パーティーを通じて、私たちは「柔軟に対応する力」と「創意工夫の大切さ」を学びました。この経験を活かし、今後のイベント運営でも、参加者の要望に応じた新しい試みに挑戦していきたいと考えています。

最近、補食室や自習室では、利用マナーの低下が深刻な問題となっています。特に補食室ではゴミが溢れかえる状況が見られ、清掃担当者への負担が大きくなっているのが現状です。このような問題が続けば、施設の快適さが損なわれ、寮生活全体に悪影響を及ぼ



七夕パーティーでの様子

す可能性があります。

この課題を解決するため、寮生会では新寮生会の勧誘活動で得た経験を活かし、PowerPointを使った現状説明と改善提案を行う予定です。改善策として「交代制の清掃システム」を提案し、ゴミ箱の配置や数の見直しといった物理的な対策も併せて進めていきたいと思っています。

また、まだ残っている寮生パーティーの企画でもこれまでに得た経験を活かし、参加者全員が楽しめる内容を準備中です。寮生全員が関われるイベント作りを目指し、多くの意見を集めながら進めていく予定です。

寮生会は、寮生活をより良いものにするために日々努力を続けています。皆さんの意見や協力で、この寮をさらに素晴らしいものにしていきたいです。



部活動紹介

硬式野球部

- ①主将・副主将：今釜桜乃介（高野連）、松尾洸太郎（高専）
- ②クラブ顧問：川添敦也 田中智樹 今村優希 他2名
- ③活動内容：チームの目標（県大会ベスト8）に向けて、練習、練習試合などを行っている。
- ④今年一番の思い出：今年の新チームは3年生が多かったのもあり、部員が10名とかなり少ない状態でスタートしました。欠席者が出てしまうと練習を行うのも困難な中、先輩方にサポートをして頂き、練習試合などを行うことができました。これから仲間を増やしていき活気溢れるチーム作りをすると共に、目標に向かって高専野球部全員で努力していきたい。



男子バスケットボール部

- ①部長・副部長：深江優良成 鯨坂悠真
- ②クラブ顧問・コーチ：前藪正宜 杉元良成 図師淳一
- ③活動内容：高専大会や県の大会での目標達成に向けて練習、練習試合、大会出場、合宿等
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専大会で3位入賞したことです。目標達成はできなかつたのですが、5年生最後の試合に向けて部員全員が一生懸命練習して、試合でも全力で楽しく戦えたことがとても良い思い出になりました。



女子バスケットボール部

- ①部長：田畑百夏
- ②クラブ顧問・コーチ：渡辺創 熊華磊 塩盛秀彰 吉原侑里
- ③活動内容：九州沖縄地区高専体育大会出場、各種大会参加
- ④今年一番の思い出：女子バスケットボール部は現在選手9名、マネージャー1名の計10名と多くはないものの、部員全員の仲が良く、日々楽しく活動を行っています。今年度の九州沖縄地区高専大会では創部以来初となる準優勝を達成することが出来ました。部員数が少ない為思うように練習出来ないこともありますが、人数が少なくても練習できるように工夫して来年度の九州沖縄地区高専大会で優勝することを目標に日々練習に励んでいます。年末には冬の女子全日本高専大会があるのでチーム一丸となって頑張ります。



男子バレーボール部

- ①部長・副部長：野中温紀 石原汰一
- ②クラブ顧問・コーチ：拜田稔 田畑隆英 片平智仁 池田匠児
- ③活動内容：鹿児島県高校大会での上位入賞および全国高専大会優勝を目標に練習しています。
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専大会で優勝し、3連覇を達成できたことです。下級生から上級生までチーム一丸となって日々練習に励みその成果を発揮することができました。全国高専大会では上位入賞は果たすことができませんでしたが、「来年こそ！」という思いがチームの中でより一層強まりました。今後とも向上心を常にもって練習に励み、目標達成をチーム全員で目指していきます。





剣道部

- ①部長・副部長：園田健治郎
- ②クラブ顧問・コーチ：山本聡 節政徹也 蒲生義幸 他1名
- ③活動内容：日々剣道の修練を積み、各種大会に出場する。
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専大会において3年連続での全国大会への出場権を勝ち取ったことです。また、昇段審査においては三段に3名、四段に1名が合格しました。来年はさらに上の成績を目指せるよう稽古に励んでいきたいと思えます。



柔道部

- ①部長・副部長：藺田清之介
- ②クラブ顧問・コーチ：澁田諭 奥高洋 富永太志
- ③活動内容：打ち込み、投げ込み、乱取り、筋トレ
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は大分県で行われた九州高専大会です。今年は人数が充実しておらず、団体戦は勝つことは難しい状況でしたが、入賞することができました。個人戦でも全員入賞することができ、とても良い思い出になりました。来年は団体優勝できるように頑張っていきます。



卓球部

- ①部長・副部長：東郷浩弥 堀之内大紘
- ②クラブ顧問・コーチ：入江智和 堤隆 田中郁昭 基島慎之介
- ③活動内容：練習時間 月曜日・金曜日18時半まで
火曜日・木曜日17時半まで
- ④今年一番の思い出：
 - ・高専大会に出場し、ある程度の成績を残せた。
 - ・卓球部として初めて文化祭に出店したこと。



陸上競技部

- ①部長・副部長：東正真、永田侑希
- ②クラブ顧問・コーチ：逆瀬川栄一 有菌ゆい 山内正仁 柳詰豪 内文夫
- ③部活内容：自己ベストを目指し、練習に励む！
- ④今年一番の思い出：今年28人の選手が九州高専大会（大牟田）に出場したこと。数年前まで10人前後の参加者で寂しいものだったが、過去1番に活気溢れる楽しい大会となった。そんな中、選手一人一人が自己ベスト更新に向け、競技と自分と向き合い、歯を食いしばりながら1秒あるいは1cmと一生懸命汗を流す姿を忘れない。



弓道部

- ①部長・副部長：山田莉世 片平瑠一 長瀬隆晟
- ②クラブ顧問・コーチ：吉満真一 豊平隆之 古川翔大 森浩美
- ③活動内容：1) 的前練習 2) 基礎練習：体配、ゴム弓、素引き、巻藁など
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専弓道大会では女子団体準優勝・女子個人優勝・男子団体3位という結果に加え、男女共に全国大会に出場することが出来ました。全国大会は台風の影響で通信大会に変更されたため残念でしたが、来年度も、男女共に全国大会に出場できるようにチーム一丸となって頑張っていきます。



サッカー部

- ①部長・副部長：高司康平 北蘭海十 外原陽
- ②クラブ顧問・コーチ：北蘭裕一 山田真義 國谷徹 千頭一郎 池田昭大 竹下淳哉 木原正人
- ③活動内容：約60名の部員で全国高専優勝奪還を目指し、日々の練習に取り組んでいます。また、学生リーグ（大学年代）やトップリーグ（高校年代）への参加、合宿、遠征、地域貢献など幅広く活動をしています。
- ④今年一番の思い出：3年ぶりの九州高専大会優勝を掴み取り、全国大会優勝奪還へ向けよりいっそう奮闘した一年でした。全国大会では悔しくも1回戦敗退という結果でしたが、沢山の方々からの応援・サポートを忘れることなく来年は30回目の全国制覇を目指します。



水泳部

- ①部長・副部長：柴垣滯 井ノ上橙和
- ②クラブ顧問・コーチ：鎌田清孝 安井賢太郎 精松祐介 小吹智恵美
- ③活動内容：スイム、筋トレ、夏合宿、ランニング等
- ④今年一番の思い出：今年度は、コーチ、顧問の先生も新しい方々となり、新体制でのスタートでした。九州高専大会では全国高専大会への切符をつかみ取った選手もあり、素晴らしい結果を残してくれました。また、夏合宿の最終日にはバーベキューを行い、部員同士の仲をより深めることが出来ました。部活動以外でも、勉強会などを行い勉強がおろそかにならないようにしてきました。学年を問わず、とても良い雰囲気です。部活動が出来ていると思います！！



ソフトテニス部

- ①部長・副部長：藤田聖良 村上大心 坂元円造
- ②クラブ顧問・コーチ：安楽四郎 東雄一 今村成明 島名賢児 有村峻
- ③活動内容：放課後・休日の練習、大会出場
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、九州高専大会に出場したことです。4年生のときに出場できず、3年生以来の出場となりました。男子団体の結果は、九州高専大会敗退で全国大会に出場できない悔しいものでした。部長として申し訳ない気持ちが大きいですが、この結果を糧に来年は九州高専大会で優勝することを期待しています。





硬式テニス部

- ①部長・副部長：山崎英司 吉田光
- ②クラブ顧問・コーチ：屋地康平 井手輝二 松浦将国 岸田一也
- ③活動内容：硬式テニス部は先輩後輩の仲がとても良いです。また、練習を学生が主体となって行っているため、したい練習を自由に行うことができ、初心者から経験者まで楽しむことができます。
- ④今年一番の思い出：今年は2年連続の団体戦での全国高専大会への出場ができ、様々な経験をすることができました。また、練習では選手同士が意識し合うことで目標に対する認識が高められていたと感じました。



バドミントン部

- ①部長・副部長：相葉洵之介 北迫生海
- ②クラブ顧問・コーチ：堂園一 新田敦司 佐藤正知 小原裕也
- ③活動内容：バドミントンを通して応援して下さるファンや関係者に結果で恩返しができるよう日々、バドミントンに励み楽しんでいます。
- ④今年一番の思い出：北海道で開催された全国高専大会においてで全国制覇を達成し、創部初の連覇を達成しました。また、男子シングルス、ダブルス共に優勝、準優勝を果たし、完全優勝という結果を残すことができました。日頃から応援して下さるファンや関係者に最高の形で恩返しできたと思います。



ハンドボール部

- ①部長・副部長：石神凜太郎 岡本悠誠
- ②クラブ顧問・コーチ：白石貴行 谷口康太郎 新徳健
- ③活動内容：ハンドボール競技を通じた体力増進と精神鍛錬
- ④今年一番の思い出：全国高専大会で3位入賞したことです。昨年度3位入賞し、今年度は、優勝を目標に一年間練習に取り組みました。迎えた予選リーグを1勝1分けで突破し、翌日の準決勝に進みました。昨年度と同じ対戦相手で、リベンジしようと意気込んでいました。前半は競った試合展開になりましたが、後半じわじわ離されていき、敗れて2年連続で3位に終わりました。リベンジ出来ず悔しかったですが、2年連続で3位入賞できたので嬉しかったです。



極真空手部

- ①部長・副部長：本高德郁 秋元秀介
- ②クラブ顧問・コーチ：瀬戸山康之 竹覚照
- ③活動内容：スパーリングや基本稽古、補強など
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、極真空手部のメンバーが大会で好成績を残したことです。練習を共に行っている仲間が勝利していったことに感動し、誇らしかったです。これからも良い成績を残せるように稽古に励みたいです。



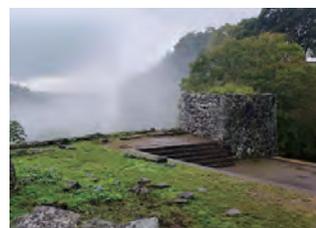
ラグビー部

- ①部長・副部長：吉田昊太
- ②クラブ顧問・コーチ：熊谷博 岩田富雄 柳原哲夫
- ③活動内容：タッチフット タックル練 合同練習 試合
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は春に久留米高専で行われた高専大会です。チーム一丸となって戦い予選パートでは順調に勝ち進み、全勝で決勝パートに駒を進めることができました。決勝パートでは強豪チームと激しい戦いを繰り広げましたが、惜しくも準優勝という結果に終わりました。悔しさもありますが、仲間とともに成長を感じられる大会となりました。また、次回への大きな自身と課題を得ることができました。



写真部

- ①部長・副部長：鮫島琉生 市園莉那
- ②クラブ顧問・コーチ：三原めぐみ 保坂直之
- ③活動内容：個人での写真撮影、写真コンテストの運営、校外への撮影会、学外写真コンテストへの応募
- ④今年一番の思い出：今までは、スマートフォンや個人で持つカメラで写真撮影を行っていました。しかし、昨年度末に初めて部活に一眼レフカメラが導入されました。外出時に携帯よりも良い写真が撮れるようになり、嬉しく思いました。今後、一眼レフの導入をきっかけに、部活動がさらに活発になることを期待しています。写真の質が向上することで、部員たちのモチベーションも上がり、コンテストへの応募や、写真撮影を行う機会が増えてくれれば嬉しいなと思います。



吹奏楽部

- ①部長・副部長：本村遼太 坂元こよ莉
- ②クラブ顧問・コーチ：町泰樹
- ③活動内容：定期演奏会、巡回演奏旅行、高専祭での演奏 など
- ④今年一番の思い出：今年度の定期演奏会では、子供から年配の方々まで、様々な世代の観客の方々に喜んでいただけるような選曲を心掛けました。また、少人数でのアンサンブルや部員による歌唱などにより、観客を飽きさせないステージにすることができたと感じています。これは、上級生をはじめとする部員の協力があって初めて成し得た成功だと思えます。部員のみならず協力して作り上げた舞台はかけがえのない思い出です。



英語部

- ①部長・副部長：山下未誉 留盛凜香
- ②クラブ顧問・コーチ：逆瀬川栄一 曾山夏菜 嵯峨原昭次
- ③活動内容：英文法や発音などの学習・資格対策・文化祭での英語劇・高専英語プレゼンテーションコンテストへの出場
- ④今年一番の思い出：英語部では、毎年文化祭で英語劇を披露しています。今年は「賢者の贈り物」を上演し、先輩・後輩が協力して一つの作品を作り上げました。この活動を通じて絆が深まり、大きな思い出となりました。また、地域の方々や保護者、先生方にも発表する機会となり、大変好評でした。さらに、夏には九州沖縄プレゼンコンテストに出場し、最後まで全力を尽くしました。英語を通じて仲間と共に取り組んだ経験は、私たちにとってかけがえのない思い出です。





軽音楽部

- ①部長・副部長：前田涼磨 山本悠暉
- ②クラブ顧問・コーチ：南金山裕弘
- ③活動内容：校内、校外でのライブ活動
- ④今年一番の思い出：軽音楽部の今年一番の思い出は、文化祭で行ったステージライブです。文化祭を盛り上げてくれる素晴らしい演奏、パフォーマンスをしてくれた出演者の皆さん、ととてもかっこよかったです。また、ライブをする上でのステージ設営や音響関係の仕事を部員、業者さん、文化祭実行委員の方々の協力もと行うことができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！



エコラン部

- ①部長・副部長：是枝昇太 外山琉葵
- ②クラブ顧問・コーチ：嶋根紀仁 江崎秀司 他1名
- ③活動内容：エコラン大会出場、機体製作・整備
- ④今年一番の思い出：エコランとはガソリン1Lで走れる距離を競う競技です。エコラン部では毎年、九州大会と全国大会に出場しています。九州大会では、一日体験入学と日程が重なり、引率者が見つからないというハプニングもありました（引率して下さった北菌先生、ありがとうございました）。九州大会では新たに追加されたカーボンニュートラル燃料部門において、初の走者として入賞できました。また、2つの大会で去年より良い記録を出せました。日々の活動の成果を残すことができ、良い思い出と自信になりました。



メカトロニクス研究部

- ①部長・副部長：加納龍弥 丸野広幸
- ②顧問：渡辺創 上野孝行 上沖司
- ③活動内容：NHK 高専ロボコンへ出場するためのロボット製作
- ④今年一番の思い出：全員で協力して共通の課題を達成するロボットを作るそのすべての過程が思い出です。ロボコンの課題は簡単そうに見えて複雑なもの、その逆もまた然りと多種多様です。しかし、すべての課題において一人の力ではクリアすることはできず、意見を出し合い意見がぶつかり合うことで初めてプロジェクトとして動かします。そのプロセスにおいてすべての部員が必要不可欠で、意見をもみ合う中でぶつかり合うこともありますが、それも含め皆でひた走った全ての日々がかけがえのないものです。



電子・情報システム研究部

- ①部長・副部長：柿木瑞貴
- ②顧問・コーチ：武田和大 原崇
- ③活動内容：各種大会に向けてのアプリ開発など
- ④今年一番の思い出：今年の高専プログラミングコンテスト競技部門はランダムに数字が並んでいる盤面と正解の盤面が渡されてそれをもとにして正解の盤面にプログラムを使用して近付けていくということをしました。少し進めばすぐ問題にぶつかってたくさん解決すべき問題があって混乱しましたが、いい経験になりました。文化祭では例年部内で開発したゲームの展示をしていて、徹夜して必死にプログラム書いたのもいい思い出です。笑



将棋・囲碁部

- ①部長・副部長：大久保郷平 久保凛竜
- ②クラブ顧問：栢健一
- ③活動内容：将棋の対局、感想戦、勉強会、全国高専大会など
- ④今年一番の思い出：今年度の夏は福島県いわき市で行われた全国高専将棋大会に部員三名での参加になりました。部長の私を除く1、2年生の二名は高専大会への出場は初めてだったので、たくさんの人と将棋を指せる良い機会になったと思います。あまり良い成績は残せませんでした。個人ごとに勝利を取めた対局もあったので成長につながる三日間でした。来年の高専大会ではもっと練習の成果を発揮できるようにしたいです。



環境創造物理研究部 物理チーム

- ①部長・副部長：前山あかり 湯場崎啓心
- ②クラブ顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：モデルロケット・CanSatの製作、物理実験
- ④今年一番の思い出：種子島ロケットコンテストの2024年大会のロケット部門の滞空・定点回収部門にて優勝・準優勝・3位に入賞し、史上初の部門独占入賞を果たすことができました。加えてCanSatチームが敢闘賞を受賞し、ロケット・CanSat共に去年よりも更に大きな成果を残すことができたことが一番の思い出です。また、文化祭では製作物の展示や物理実験に加えモデルロケット計9機の打ち上げを行い、多くのご来場の皆様楽しんでいただくことができました。



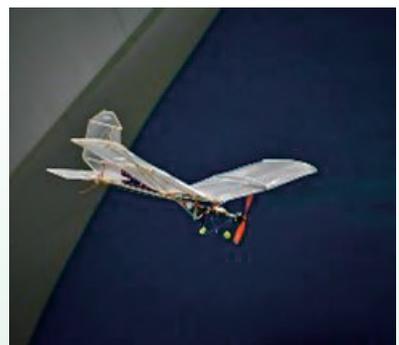
環境創造物理研究部 天文チーム

- ①部長・副部長：矢野煌波 藤崎煌司郎
- ②クラブ顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：プラネタリウムの解説の練習、またはプラネタリウムで使うドームの改良と製作をしています。
- ④今年一番の思い出：夏休みに行った合宿が今年一番の思い出です。みんなとバンガローにてカレーを作って食べたり、雄大な自然の中でアスレチックをしたりなど、普段の生活で過ごすことのない生活を楽しみました。そして、日本一星空がきれいに見えると言われていた通り輝北天球館の星空はとても綺麗でした。壮大な星空の下で部員同士で他愛もない会話をしながらの観測はとても楽しかったです。



航空技術研究部

- ①部長・副部長：久保大馳 久保小羽柁
- ②クラブ顧問・コーチ：福添孝明 橋口正平
- ③活動内容：模型飛行機の製作・操縦、その他航空関係全般
- ④今年一番の思い出：9月に開催された、全日本学生室内飛行ロボットコンテストです。今年は新部門の開設や、新入部員の多数出場など、例年と大きく異なる状況で、大変なことも多かったですが、貴重な経験を積むことができました。来年度の大会にも活かしていこうと思います。





創造設計部（建築部門）

- ①部長・副部長：比良香蓮 水流瑞樹
- ②クラブ顧問・コーチ：高安重一 内田一平
- ③活動内容：建築物のスケッチ・建築見学・建築関連の映画鑑賞等
- ④今年一番の思い出：建築部門の今年一番の思い出は、建築見学で熊本に行ったことです。ほとんどの人が初めての建築見学でした。数週間前から行く場所をリストアップしたり、旅のしおりに作ったりと行くまでの作業もとても楽しかったです。写真でしか見たことのない建物を実際に見て歩くことができ貴重な体験となりました。また、普段の部活の時とは違い、他学年の人たちとの仲を深める良いきっかけともなりました。また行きたいとの声もあり、現在二度目の建築見学を計画中です。



創造設計部（模型部門）

- ①部長・副部長：福永泰誠 谷口令欧
- ②クラブ顧問・コーチ：高安重一 内田一平
- ③活動内容：ジオラマ作成、各種模型作成・コンテスト参加
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、鉄道模型コンテストに参加したことです。このコンテストに参加するのは初めてだったため、わからないことが多かったり、締切に追われたり大変でした。しかし、ベストクリエイティブ賞と、ベストムービー賞というふたつの賞を取ることができとても良かったです。苦労が多くありましたが、自分たちの頑張りを評価してもらったため、頑張った甲斐がありました。来年は、締切に追われることが無いように早めに作品を作り始め、最優秀賞が取れるように頑張りたいです。



創造設計部（美術・イラスト部門）

- ①部長・副部長：甲斐光 濱砂奏太
- ②クラブ顧問・コーチ：高安重一 内田一平
- ③活動内容：絵画・イラストの創作、展示会の開催
- ④今年一番の思い出：今年の思い出としては、創造設計部の一員として活動を始めることができたことがとても嬉しかったです。僕自身が勧誘しなかったせいでもあるのですが、部活動でなかったために新入部員とかが全然入ってきませんでしたので…。今年は普段の活動に力を入れ始めました。後輩とも仲良くなることができ、さらに活動の幅が少し広がったかなと思います。また、文化祭での思い出は例年通り缶バッチを発注したのですが、後輩に任せたら発注をミスっていて焦りました。今年一番ヒヤッとさせられました。





旅立ちに寄せて ～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～

高専生活を経て

機械工学科5年 犬童 悠李

入学から早いもので、5年の月日が経ちました。高専生活も終わりに差し掛かった今、入学した時のことが昨日のことにように思い出されます。

入学前の私は高専に対して「難しい勉強と大量の課題のあるとても大変な学校」というイメージを抱いていました。そんなイメージを持っていた私は、これから始まるであろう過酷な毎日に、戦々恐々としながら高専の門を叩きます。しかし蓋を開けてみると、想像していたものとは180度違う毎日でした。

周りを見ると、頼れる先輩や優秀な同級生に優しい後輩達。前を見ると、熱意をもって私達を導いて下さる先生方。ふと後ろを振り向くと、両親や寮務係の方や清掃員の方々など、あらゆる形で私を支えてくれる人達がありました。そして空を見上げれば、まだ見ぬ未来への大きな希望が広がっていたのです。それは端的に言って「最高の毎日」でした。

もちろん困難も数多くあり、私は沢山の壁にぶつかって来ました。機械の扱いを中々覚えられない工作実習に、終わりの見えない製図の課題。そして山のように積み重なるレポートの数々。これらは私一人の力だけでは、到底乗り越えられるものではありませんでした。

しかし私の隣には、いつも同じ道を共に歩む仲間がいます。だからこそ一人では太刀打ちできない困難

も、知恵を出し合い協力することで乗り越えることが出来ました。

以前の私は、自分の力のみで思考し課題を解決していくという過程に、大きな意味や美学を見出していました。ですが、そんな私も他人の力を借りて困難を乗り越えていく中で、人と人の繋がりの大切さを知ることが出来たのです。これは私が高専で得た中で、最も大きな学びであったと思っています。

また高専で学ぶことで、学問の奥深さに触れることが出来ました。高専では、高校生の時期から大学レベルの内容を扱います。それらは本当に難解で、試験で良い点を取ったり人に教えたりしても、完全に理解した気にはなれませんでした。むしろ学べば学ぶほど、疑問が次々と浮かんでくるのです。

学問の奥深さに果てはなく、それはきっとどこまでも突き詰めていけるものなのだと思います。高専で学んでいく中で育った好奇心は最早留まることを知りません。卒業した後もこの好奇心を枯らせることなく、学び続けていきたいと思っています。

結論です。私は高専への進学という選択に、悔いはありません。もし人生をやり直せるとしても、私はまた鹿児島高専の機械工学科を選ぶと断言出来ます。そう思えるほどこの鹿児島高専で、大きく成長することが出来ました。

最後に5年間、未熟な私を支えて下さった先生方、先輩、同級生、後輩の皆様、そして陰ながら支えて下さった全ての方々から感謝します。本当に有難う御座いました。

贈る言葉

機械工学科 5年担任 小田原 悟

私は4年生からの2年間担任を務めています。この機械工学科5年生は多様性溢れる人材が多く集まった感じでした。中でも、クラブ活動に積極的に励む学生が何人もいて高専全国大会でも大いに活躍したようです。就職進学活動についても紆余曲折がありましたが、12月のこの時点ではほぼ全員の進路が決定しました。進学が12名、就職が28名です。県内企業が京セラを含め割と多かったです。

卒業して数年したら、また気軽に本校に立ち寄って現状報告をして下さい。その時の君達の笑顔を見るのが、担任としてこの上ない喜びです。





挑戦の五年間

電気電子工学科5年 酒井 大空

夢と希望を胸に抱き、鹿児島高専に入学してから早五年。すっかり隼人町が第二の故郷となった。今回は社会に挑戦する前に、自分が体験した高専生活における「挑戦」について二つ振り返っていこうと思う。

私の一つ目の挑戦は「数学の苦手克服」だった。私は中学生の頃数学がとても苦手で、高専の合格通知が届いたときは嬉しさよりも不安な気持ちが大きかった。入学式の日に周りの同級生みな、私よりも遙かに優秀に見えた事を今でも覚えている。焦った私は、その日から寮の自習時間に数学の予習をすることにしました。しかし、私にとって数学の教科書を読み進めることは、知らない言語を翻訳しろと言われていたようなものだった。そんな私にとって幸いだったことが、寮の同室の先輩がとても優しく親切であったことだ。分からない問題があれば先輩が丁寧に教えてくれ、数学以外にも高専生活の過ごし方や将来についてなど様々なことを教わった。そして、毎日数学の予習を続けた結果、私は数学のテストで高得点を得ることが出来た。初めての高専のテストで不安だった私にとって、この経験は今後の自信に繋がった。

私の二つ目の挑戦は「応援団」である。私は一年生から四年生まで応援団に参加し、四年生の時に応援団長を任された。しかしここから苦悩する毎日を送ることになる。優勝を目指す中で同級生と衝突する毎日、

団員を集めるため勧誘をするもの思うように人数は集まらず、本番踊る型作りも難航するなど出てくる問題は尽きなかった。そんな中、支えて



(写真中央が酒井大空です)

くれたのはクラスメイトだった。同じ応援団の仲間として、一人で抱え込もうとする私を助けてくれた仲間には本当に感謝している。この時私は五年間共に過ごした仲間はかけがえのないものだと感じた。

これら二つの挑戦を通して、私は壁にぶつかったときに必要なものは仲間からの支えだと感じた。そしてこれは社会に出てからも同じだと思う。会社で壁にぶつかったときに、職場の上司や同期の支えが必ず必要になる。そんなとき手を差し伸べてもらえるような人になれるよう、私も周りを見て困っている人がいれば手を差し伸べようと思う。

在校生の方々へ。私は高専生活で沢山のことに挑戦した。それでも、私には高専生の間に取り組みたかったこと、知りたかったことが山ほどある。私は来年から社会に挑戦するため、まとまった時間をとって何かに挑戦することが難しくなる。是非、時間のある学生のうちに何か一つでも「挑戦」してほしいと思う。

贈る言葉

電気電子工学科 5年担任 栢 健一

特に私が担任をした5年電気電子工学科の卒業生の皆様、2024（R6）年度鹿児島工業高等専門学校卒業生の皆様、卒業おめでとうございます。そして、関係する保護者の皆様、これまで卒業生を温かく見守り支え続けて、晴れてご卒業の日を迎えましたこと、心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆様が鹿児島高専に入学した2020年度はパンデミックの真ただ中で、授業がオンラインになったり対面になったりで大変でしたね。本当によく頑張りました。同時に世の中はインターネットの普及やオンライン会議が進歩するきっかけになりました。しかし、画面越しでの対面が増えたため、皆さんのコミュニケーション能力が低下したように感じます。また、スマホの使用時間が多くなったため失敗から学ぶことや正解を導き出す過程を省略して答えだけをすぐ

に求める傾向にあるように感じます。今は、世界に目を向けると世の中の情勢が悪化して様々な問題があふれています。本当に生きていくのに難しい時代です。

社会にはばたく皆様、バランスの取れた見方ができる大人になってください。直面する問題に対して楽観視しすぎるのも、過敏に反応することも危険です。目の前に起きている問題にしっかり向き合い、かつやれることを十分に行ったら、家族・友人・新たな上司・先輩に頼りましょう。自分の力ではどうしようもない問題には一人で抱え込むことがないようにしましょう。もしかしたら、たまには時の流れに任せることも必要かもしれません。

鹿児島高専での生活では楽しいことも、つらかったことも含めて、いろいろな経験をしてきたはずですよ。卒業で終わりではありません。これから社会人として大学生として新たな人生のスタートです。今までの経験を応用して様々な問題に取り組み、乗り切ってください。一生懸命頑張っただけで疲れた時は、休んでください。その時はぜひ、鹿児島高専にも遊びに来てください。皆さんの成長を楽しみにしています！

鹿児島高専 TANO*C

電子制御工学科5年 中畑 智晴

鹿児島高専、良い学校ですね。「学生」というこの時にしか出来ない事を提案したら手を差し伸べてくれる、素晴らしい学校です。

高専の推薦入試面接時に「中学生生活を振り返るとまだ自分にできることがあったのではないかと後悔していた。だから御校に入学した暁には勉学にも学生生活にも励みたい。」と提言しました。

入学できました。良かったです。おかげさまで応援団団長やSSDのeスポーツ団体設立、文化祭露店、クラスマッチ大会運営、太鼓の達人公式大会九州第5位…悔いが無いほどにこの長くて短いような5年間を過ごしました。ここだけの話、自慢ですが3年生の2月に漢検準一級を合格したところ、某国語教員から大変温かい握手をいただきました。こんなナンボあってもいいですからね。

eスポーツ団体は2年生の時に英語教員の坂元先生が顧問のもと設立しました。1年生の時に坂元先生の授業を鬼滅の刃の富岡義勇コスプレで参加したのは良い思い出です。初期は4名で運営していましたが有り難いことに現在は40名と大所帯となりました。上田校長にも大変お世話になっており、クラスマッチの企画動画にご参加して下さったり、文化祭露店にて一緒にDJをして下さったり…

坂元先生や上田校長、ついてきてくださるメンバーには頭が上がりません。ありがとうございます。

文化祭では1年生から5年生まで女装、仮装に力を

注ぎました。5年の努力を経て今年の仮装コンテストでは優勝することができました。

応援団では1年生の時に「4年生になったら太鼓をしよう」と志し入団した結果、団長になっていました。平成25年度から令和6年までの電子制御工学科応援団の演舞名を言われたら全て型の流れが想像出来たり他学科の幹部型ができたりするくらいには応援団が好きです。大人数の統制方法やアプローチ、フォローの仕方を学ぶことができました。何しろ15歳から19歳までの大人数で「優勝」を目指すことが大変魅力です。応援団を教えてください、熱く指導して下さった先輩やついてきて下さった応援団メンバーのおかげで良い思い出となりました。ありがとうございました。

勉学面では高専に入学してから数学が好きになりました。中学時代は40~50点台だった私が1年生の11月に1年生の数学範囲を全て習得し、微分積分を予習するほど数学に魅了されました。

ロジックって面白い。知る喜びを知りました。

5年間付き合い続けた電子制御工学科とはお別れとなりますが、来年度から私は機械・電子システム工学専攻と幸せになります。

皆様が幸せになりますように。さようなら。



たとえば三十路会とか

電子制御工学科 5年担任 島名 賢児

卒業おめでとうございます。本校教員に着任して23年目になりますが、5年生担任として学生を見送るのは3回目になります。4年生の担任の時に、自己紹介と一緒にクラスの目標! ?の一つとして「卒業してからも付き合いが続き、たまにはみんなで集まれるクラスにしましょう!」と言ったことを覚えている人は何人いるでしょうか? 以前担任したあるクラスは、コロナ前に30歳を迎えたタイミングで「三十路会」を開きましたが、30名ほど集まりました。子供を二人連れてきた卒業生もいて、中学校を卒業して高専に入学してきた頃のまだ幼さも残る制服や私服姿を思い出しながら、その時に月日の経つ早さを感じたことを

記憶してします。何が言いたいかというと、社会に出ると出世や損得勘定で物事を考えがちになりますが、学生時代はそういうことを考えることなく、クラスメートや同じ部活の部員と付き合い、時にはロボコンや高専祭などにおいて同じ目標に向かって頑張った人も多と思います。そういう時間を共有した友人たちは、卒業して10年、20年が過ぎても、もしかしたら一生付き合える、かけがえのない存在になり得ると思います。卒業してから、それぞれの道で成功したり、失敗したりすることもあるかと思いますが、高専で出会った友人とは、たまに連絡を取り合い、互いの近況を報告し合うなど、できるだけ長い付き合いを続けてほしいと思っています。担任は呼ばなくてもいいので、是非、まずは三十路会を開いて、多くの元クラスメートたちが集まり、自身の卒業してからの10年について語り合ってください。そういう付き合いが続くことを担任として期待しています。



高専での学びと経験

情報工学科5年 平 奈都

コロナ禍から始まり、長いようで短い高専生活も終わりを告げようとしています。今回、このような形で高専生活を振り返る機会を頂いたことに感謝いたします。この5年間で数多くの成長と思い出を得ることができ、特に、コロナが明けてからの2年間はあっという間で、私にとってかけがえのない思い出で溢れています。その中でも応援団、スウェーデン留学は未熟な私を一段と成長させてくれる出来事となりました。

2年生から応援団に参加し、4年生の体育祭で副団長を務めさせていただきました。当時は上に立つ存在として右も左もわからず、不甲斐ない自分が情けなくもありました。しかし、活動を重ねていく上で少しずつ自分がどう在るべきなのかを考えられるようになり、自信を持てるようになりました。また、友人や先輩後輩に支えてもらった部分も多く、周りの支えの有難さを身に染みて実感することができました。

また、5年生の夏休みにはスウェーデンへ短期留学を行いました。知り合いもいない中、初めての海外は緊張と不安だらけで、前日の夜は眠れないほどでした。しかし、実際に経験してみて、初めての景色に食事、日常が非日常となり、毎日が新鮮でとても充実していました。最初は詰まっていた英語も最終日には自分から話に行ける程度まで自信がつき、同行した日本人学生も、スウェーデンでも沢山の友達ができました。今では留学に参加してよかったと心から思っています。

ます。

私は、今まで新しい一歩を踏み出す際に、失敗することが怖くて周りに合わせ、周囲の意見を聞いてから動き出す癖がありました。しかし、応援団もスウェーデン留学も自分の意志で一歩を踏み出したからこそ貴重な経験を得ることができ、私自身の大きな成長に繋がったのだと実感しています。そして、これらの経験はこれからの人生の糧となり、迷ったときや壁に当たった時、新しい活動を始めるときにそれらを乗り越えられる支えになると思っています。

高専での5年間は、多くの方に支えていただき、恵まれた環境で勉学や学校行事に励むことができました。高専で得た知識や技術、交友関係は私の一生モノの財産であり、今後の私の人生の指針になると確信しています。また、これまで関わってくださった先生方や友人、家族にこの場を借りて感謝申し上げます。高専生活で培った経験を編入先やこれからの人生に精一杯生かせるよう尽力いたします。



旅立ちに寄せて～贈る言葉～

情報工学科 5年担任 古川 翔大

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。この高専で過ごした年月を振り返り、皆さん一人ひとりの成長を見守ることができたことを誇りに思います。入学当初はまだ多くのことを学び始めたばかりでしたが、今では立派な技術者としての第一歩を踏み出す準備が整いました。

近年、テクノロジーの進化により、私たちの生活や仕事の支援方法も多様化しています。例えば、言葉を届ける手段として生成系 AI などが登場し、表現方法も多岐にわたるようになりました。しかし、どんな形であれ、皆さんに対する思いは変わることはありません。皆さん一人ひとりの未来に向け、心からのメッ

セージを送ります。

高専での学びは、知識だけでなく、実践を通じて技術を磨き、仲間と共に問題解決能力を身につける場でもありました。その過程で、多くの困難を乗り越えた経験は、これからの人生において大きな財産となるでしょう。

社会に出ると新しい挑戦が待っていますが、高専で培った技術と考える力を信じて、どんな環境でも自信を持って進んでください。皆さんの可能性は無限大です。自分の力を信じ、歩んでいってください。

皆さんのこれからの活躍を心より楽しみにしています。いつか再び会えることを願い、私たち学科の教員一同、ずっと応援しています。卒業おめでとう！



5年間の思い出

都市環境デザイン工学科5年 永田 侑希

5年間の高専生活が終わります。入学してから始めの1年間はコロナの影響でほぼオンライン学習、部活動やその他の活動が制限されていました。学年が上がるにつれて制限が緩和され、4年次には入学してから初めて制限なしでの高専祭開催となりました。様々な制限があった高専生活ですが、私は高専に入学して良かったと言い切れるほど、楽しく過ごすことができ、数え切れないほどの思い出ができました。

高専と言えば、まず勉強です。数学や物理の授業の進みが速く、復習を毎回しないと付いていけませんでした。また専門の授業は本当に未知の世界で、授業中に理解できない時もありました。友達に聞いたり、先生に直接聞いたりすることも多々ありましたが、それでも新しいことを学ぶことができるため楽しかったです。また、実験では見たこともない器具を使うため、毎実験ワクワクしていました。特に測量学は私にとって魅力満点でした。他にもコンクリートを練ったり、製図をしたり、本当に沢山の知識と技術を身に付けることができました。

高専生活を語るには欠かすことのできないのは寮生活です。優しい先輩方に恵まれ、すぐ近くには友達がいって、とても楽しい寮生活を過ごすことができました。友達と一緒にご飯を食べたり、勉強を教えあったり、誕生日会をしたりできたのはいい思い出です。ま

た寮生会に入り、棟長を務めさせていただきました。寮生会では、掃除当番表の作製から、茶話会・寮生パーティーのようにイベントの企画・買い出しなど幅広い仕事があり、様々な経験をさせていただきました。

5年間で1番の思い出はやはり体育祭の応援団です。1年生の時から応援団に参加し、4年生の時にはずっと憧れていた幹部になりました。1年生の頃、型を覚えられず寮で泣きながら友達と練習していたのを今でも覚えています(笑)幹部になり一から型を作る難しさ、もっと良くしたいのに自分の考えを上手く伝えられないもどかしさなどいろんな感情がありました。そんな中、話をたくさん聞いてくれた仲間に出逢い、後輩たちに恵まれ、2位という結果を残すことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、5年間指導して下さった先生方、沢山の思い出を共有できる友人たちに感謝申し上げます。



さらなる高みへ

都市環境デザイン工学科 5年担任 池田 匠児

都市環境デザイン工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの担任を3年間務められたことを非常にうれしく思っております。私自身このクラスが初めての担任ということで、皆さんにとっては至らない部分が多いと感じたかもしれません。それでもいろいろ教えてもらいながら、一緒に歩み楽しく務めることができました。年々成長していく様子を間近で見ることができ本当に良かったです。

最後に皆さんに伝えたいことは、皆さんは一人ではないということです。今後、仕事や研究で悩むことや困難に直面することがあります。そのようなとき、必

ず支えてくれる人がいます。また、大きな成果をあげたとき、それは自分一人で得たものでなく多くの人に支えられて得たものであると常に周り人に感謝する心を持っていてください。そして、自分も他の誰かを支えることのできる人間になってください。さらに成長した姿でまたお会いできることを楽しみにしています。皆さんのご活躍をお祈り申し上げます。





感謝を胸に、新たな一歩を

機械・電子システム工学専攻2年 富田 翔也

7年前、私が高専に入学したとき、何もかもが新鮮なスタート地点に立っていました。それが今、専攻科を終了し、新たな未来へ向かおうとしています。この7年間の道のりを振り返ると、私がここまで進むことができたのは、周りの人、特に親の支えがあったからだと改めて実感します。寮生活を始めた当初は、何もかもが初めてで、不安と期待が入り混じった毎日でした。親から離れて暮らすことの自由さに少し吹かれていた私ですが、同時に洗濯や掃除といった日常の中で、親のありがたさを感じる瞬間が何度もありました。自分で全てをやるのは決して簡単ではなく、親がどれだけの手間と時間をかけて私を支えてくれたのかが、ようやく分かりました。さらに、専攻科に進学して一人暮らしを始めた時には、その感謝の思いがさらに深まりました。離れて暮らす中でも、親はメッセージで温かい言葉をかけてくれ、私が困っているときにはどんなに忙しくても力を貸してくれました。ま

た、高専生活では多くの素晴らしい人々との出会いがありました。クラスメイトや寮の仲間たちは、日々の生活や勉強の中で支え合う大切な存在でした。難しい課題に取り組むときも失敗して落ち込んだ時も、仲間の存在があったからこそ、頑張ることができました。そして、先生方には多大な感謝を申し上げます。熱心に指導してくださったおかげで、知識だけでなく考える力や問題を解決する力を養うことができました。特に、進路で悩んでいた時には相談に乗ってくださり、新たな目標に向かう勇気をいただきました。7年間の高専生活を通じて、私は多くの人の支えに恵まれていたのだと強く感じています。この感謝の気持ちを胸に、これからは私自身が誰かを支えられる存在になりたいと思います。そして、家族や先生方、仲間たちに胸を張れるよう、新たな一歩を踏み出します。最後に、この文章を読んでもくださった皆様に感謝の気持ちを込めて、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



学問・研究の楽しさを知る

電気情報システム工学専攻2年 邪答院 優斗

7年間続いた、鹿児島高専での生活がいよいよ終わります。高専での生活を通して得られたものは多くありますが、特筆すべきは学問や研究の楽しさを知ったことです。本科3年生の頃は、「勉強したくないから就職しよう」と考えていましたが、4年生になり専門科目が増えると、勉強して新しい知識を得ることの楽しさを感じ、専攻科に進学することを決めました。しかし、当時はまだ学ぶことに対し受け身で、自分から積極的に知識を身に付けることはありませんでした。

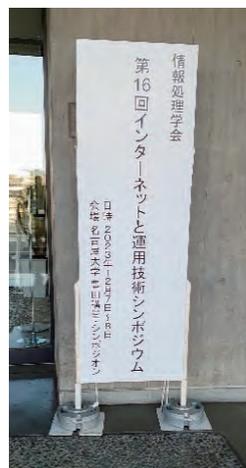
5年生から本格的に始まった研究活動は、私の学問へ向き合う態度を大きく変えました。研究は、指導教員の先生の手を借りながらも、主体的に進める必要があります。論文を一本読むときでも、最初のうちは、自身の知識不足を痛感することの連続でした。しかし、慣れてくると、「なるほど、このタイプの研究か」という風に、バラバラだった自分の知識を体系立てて捉えられるようになっていきました。このような瞬間に、自身の成長を実感でき、嬉しかったのを覚えています。

ます。

斯くして、5年生になって漸く、主体的に見識を深めることの楽しさを知りました。

専攻科での研究活動では、様々なことに挑戦しました。専攻科1年次には、名古屋大学で開催されたシンポジウムに参加させていただき、初めての外部発表を経験しました。質疑応答の際、聴講の方に鋭い指摘をいただき、感動したのを覚えています。また、専攻科2年次には、電気・情報関係学会の九州支部大会に参加し奨励賞をいただいたほか、論文誌ジャーナルへの投稿にも挑戦し、採択を得ることができました。私は大学院に進学するため、このような高専での経験は、今後の研究活動でも大いに活かされることと思います。

専攻科進学を悩んでいる方へ、本科5年次から起算して3年間も研究が継続できる専攻科は、研究活動という点で、強くおすすめできます！ぜひ進学を検討してみてください。



修了にあたって

建設工学専攻2年 内園 翔太

私は、工業高校から鹿児島高専へ編入し、本科と専攻科の4年間を鹿児島高専で過ごしました。高校までは、建設技術系という学科に在籍しており、土木技術を中心に学んでいました。鹿児島高専に編入してからは、都市環境デザイン工学科ということで、新たに建築や環境についても深く学ぶことができました。その中でも環境の分野についてもっと学びたいと思い、資源循環のための技術開発に取り組む研究室を選択し、専攻科へ進学しました。

専攻科では、「慢性腎臓病患者のための低カリウムきのこの栽培技術開発」の研究を中心に、多様なバイオマスを利用した食用きのこの栽培や下水汚泥肥料を利用した茶栽培など様々な研究に取り組みました。研究活動では、うまくいかないことがあったり、生き物を扱っているため、毎日観察することが必要だったり大変なことがたくさんありました。また、学会発表にも積極的に取り組んだため、とても慌ただしい日々でした。大変なことが多い中でも、学会発表の練習を通じて、よりよい発表資料の作り方や発表の仕方などを学ぶことができたことは自分自身にとって大きな財産となりました。

専攻科へ進学することの利点は、学ぶ環境が変わらないことでゆとりをもって自分のやりたいことをできること、本科で取り組んできた研究を継続できること

があると思います。私は専攻科へ進学し、空いた時間を利用して英語の学習に努めました。専攻科に入るまで1度も海外に行ったことはありませんでしたが、この2年間で海外研修や海外インターンシップ、国際学会などに参加させていただき、非常に貴重な経験をすることができました。また、研究を継続して行うこと、様々な学会発表に参加することで幅広く深く知識を広げることができました。

私は高専に入って、たくさんの素晴らしい仲間たち、先生方、よりよい環境に巡り合うことができました。高校生の時の自分では、きのこやお茶をつくられていること、大学院へ進学することなど想像できなかったことばかりだと思います。私は他の学校から入ってきたからこそ、より鹿児島高専が恵まれた環境であったと感じました。在校生の皆さん、高専での生活は5年や7年と長いと忘れてしまいがちですが、今この環境で学べることに感謝し、これからも頑張ってください。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方、仲間たち、そして家族に感謝したいと思います。今後も鹿児島高専で学んだことや培った経験を活かして頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。



未来を拓く知の翼 —専攻科修了生への祝福の言葉—

専攻科長 新田 敦司

専攻科修了生の皆さんへ、心からお祝い申し上げます。この特別な瞬間を迎えた皆様に、誠実な祝辞をお届けします。鹿児島高専の専攻科での2年間は、数々の挑戦と成長に満ちた貴重な日々だったことでしょうか。皆様が身につけた実践的なスキルや先端技術は、これからの技術者としての大きな武器となると確信しています。特に、専攻科での特別研究や学会での発表など、皆様が達成された成果は本当に素晴らしいものです。特別研究進捗状況報告会では、英語によるプレゼンテーションやポスター発表が高く評価され、多くの人々に感動を与えました。また、国際会議で表彰された仲間もあり、これは皆様の努力と情熱の証です。おめでとうございます。

さらに、本年度から始まった九州大学との連携教育プログラムは、皆様の学びをさらに豊かにし、新しい視点を提供する素晴らしい機会となっています。このプログラムを通じて最先端の研究に挑むことで、さらなる成長が期待できるでしょう。また、半導体人材育成プログラムもスタートしており、その最前線に立っているのが専攻科生の皆様です。最後になりますが、これまでの専攻科修了生は大学や産業界で高い評価を受けています。その先輩たちの足跡を辿りつつ、更なる高みを目指すことが皆さんの使命です。どんな困難にも果敢に立ち向かい、自らの可能性を広げ続けてください。心よりのお祝いと共に、これからの未来に向けて更なる飛躍を期待しています。





卒業生及び修了生の就職・進学先一覧

《機械工学科》

ANA エンジンテクノクス株式会社
株式会社 A・R・P
JASM 株式会社
JR 西日本株式会社
JT 株式会社
株式会社 IHI プラント
旭化成株式会社
オークマ株式会社
カンセツ株式会社
京セラ株式会社国分工場（4名）
京セラコミュニケーションシステム株式会社
株式会社ジェイテック
タマディック株式会社
株式会社ドーガン・ベータ
トーテックアメニティ株式会社（2名）
東レ株式会社
トヨタ自動車九州株式会社
南国殖産株式会社
株式会社日立産業制御ソリューションズ
平田機工株式会社
富士電機株式会社
本田技研工業株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
ユーエムアイ株式会社
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 機械・電子システム工学専攻（3名）
(進学) 鹿児島大学 工学部先進工学科機械工学プログラム（3名）
(進学) 鹿屋体育大学 体育学部
(進学) 大分大学 理工学部理工学科
(進学) 熊本大学 工学部機械数理工学科（2名）
(進学) 豊橋技術科学大学 工学部機械工学課程
(進学) 福井大学 工学部機械システム工学科ロボ ティクスコース

《電気電子工学科》

Daigas グループ
JFE プラントエンジニア株式会社
株式会社 MBM
株式会社 USEN
アイリスオーヤマ株式会社
アプライド_マテリアルズ_ジャパン株式会社
九州電力株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場
京セラ株式会社鹿児島川内工場
株式会社ザイマックスグループ
全農サイロ株式会社
株式会社東京エネシス
東京ガスネットワーク株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
株式会社日立ハイシステム21
株式会社日立ハイテク
株式会社日立ビルシステム
本田技研工業株式会社
三菱重工業株式会社
三菱電機ソフトウェア株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
三菱電機株式会社名古屋製作所
株式会社コピテル
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 電気情報システム工学専攻（2名）
(進学) 鹿児島大学 電気電子工学プログラム（3名）
(進学) 九州工業大学 電気電子工学科
(進学) 九州工業大学 情報・通信工学科
(進学) 宇都宮大学 工学部情報電子オプティクス コース電気電子分野
(進学) 熊本大学 情報電気工学科（2名）
(進学) 東海大学 熊本キャンパス人間情報工学科
(進学) 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学課程

《電子制御工学科》

Daigas グループ
DMG 森精機株式会社 (3名)
株式会社 JAL エンジニアリング
旭化成株式会社
株式会社インテリジェントウェイブ
キヤノン株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場 (4名)
セイコーエプソン株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
田中貴金属株式会社
東海旅客鉄道株式会社
独立行政法人国立印刷局
株式会社トヨタ車体研究所 (2名)
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
パナソニックコネクト株式会社
富士電機株式会社
本田技研工業株式会社
株式会社牧野フライス製作所
株式会社コピテル
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 機械・電子システム工学専攻 (9名)
(進学) 熊本大学 工学部情報電気工学科
(進学) 熊本大学 工学部半導体デバイス課程
(進学) 豊橋技術科学大学 情報・知能工学課程
(進学) 長岡技術科学大学 (2名)

《情報工学科》

株式会社 F I X E R
NEC ネットエスアイ株式会社
株式会社 RKKCS (2名)
株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS
株式会社 アイ・エス・ビー
株式会社 ヴィッツ
株式会社 エヌ・ティ・ティ エムイー
九電産業株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
株式会社 大気社
株式会社 デザインネットワーク
トーテックアメニティ株式会社
株式会社 ニコン
西日本旅客鉄道株式会社
パナソニック EW エンジニアリング株式会社
株式会社 半導体エネルギー研究所
株式会社 日立ハイシステム21 (2名)
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社
株式会社 中セキ九州
株式会社 コピテル (2名)
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 電気情報工学専攻 (6名)
(進学) 鹿児島大学 (3名)
(進学) 九州工業大学
(進学) 熊本大学 (2名)
(進学) 東京農工大学
(進学) 豊橋技術科学大学 (2名)
(進学) 長岡技術科学大学 (3名)



《都市環境デザイン工学科》

株式会社 CTI グランドプランニング (2名)
Daigas グループ
JFE シビル株式会社 (2名)
JR 九州コンサルタンツ株式会社
NTT インフラネット株式会社
インフラテック株式会社
エム・エムブリッジ株式会社
株式会社大阪防水建設社 (2名)
鹿児島県庁 (2名)
国土交通省九州地方整備局
五洋建設株式会社
大成建設株式会社
東京水道株式会社
株式会社ナカノフドー建設
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
日鉄パイプライン & エンジニアリング株式会社
日本製鉄株式会社
日本都市技術株式会社
日本ヒューム株式会社
パソコン技術管理株式会社
ピーエス・コンストラクション株式会社
日置市役所
福岡国際空港株式会社
みらい建設工業株式会社
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 建設工学専攻 (5名)
(進学) 鹿児島大学 工学部建築学科
(進学) 熊本大学 工学部土木建築学科
(進学) 豊橋技術科学大学 工学部建築・都市システム学課程
(進学) 長岡技術科学大学環境社会基盤工学課程 (2名)

《機械・電子システム工学専攻》

株式会社アイ・エス・ビー
いすゞエンジニアリング株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
東京エレクトロン株式会社
株式会社トヨタ車体研究所
ファナック株式会社
株式会社牧野フライス製作所
三菱重工業株式会社
(進学) 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻
(進学) 九州大学大学院 総合理工学府Ⅱ類

《電気情報システム工学専攻》

アイ・システム株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社
パナソニック株式会社
パナソニックコネクト株式会社
株式会社日立ハイシステム21
株式会社ファインディックス
(進学) 奈良先端科学技術大学院大学

《建設工学専攻》

株式会社 NJS
住友重機械エンバイロメント株式会社
(進学) 鹿児島大学大学院 博士前期課程 工学専攻海洋土木工学プログラム
(進学) 熊本大学大学院 自然科学教育部土木建築学専攻
(進学) 東北大学大学院 環境科学研究科先端環境創成学専攻

令和7年1月31日現在



卒業生の現在

在校生のみなさんへ

令和4年度 機械・電子システム工学専攻修了
(機械工学科出身) 新富 洋平

私は機械工学科を卒業して専攻科を修了した後に、パナソニック株式会社に就職しました。現在は、CADを使って工場家電を生産する設備の設計やラインの自動化検討を行っています。具体的には、ラインの更新や新ライン設立に伴って、今までで行っていた作業を自動化させるための自動化技術開発や、今まで使っていた設備よりも品質や生産効率の良い設備にするための設備設計などを行っています。担当商品を持たないので、色々な家電に携わることが出来、それらが店頭で並んでいるのを見ることでやりがいを感じる事が出来ます。仕事を進める上で、設計時の基本的なCADの操作方法や加工図面への寸法の入れ方等は、高専時代に学んだ設計知識が活かされており、また、自動化検討する際には構想した方法の実現可能性を検証する必要があるのですが、試行錯誤を繰り返して進めていく点は高専時代の研究に似た部分を感じます。学生時代は大変できつかった勉強や研究ですが、社会人になってからしっかりと役に立っているのを実感し、あの頃頑張ったよかったと今では思っています。

さて、社会人2年目のまだまだ未熟者の私ですが皆さんの少し先輩として1つ皆さんへアドバイスがあります。それは、「自分の将来について自分自身と向き合ってしっかりと考える時間を早めにとっておくべき」ということです。私は就活時、やりたい仕事、就職したい会社が中々決めきれず、とても苦労しました。そこで、自分が働く上で大切にしたいことは何か、自分の興味を持てるものは何か、と小さく分解して1つ1つ時間をかけて考えることで自分自身と向き合い、自分の考えを整理した結果、決めることが出来ました。就職か進学か、どこの会社、学校にするのか、自分の将来を決める選択は今後沢山あります。私の様に苦労しないためにも、是非皆さんは早いうちから、自分の将来について自分自身と向き合い、じっくりと時間をかけて考えるようにしてください。好きなことは何か、得意なことは何かなど簡単なことから整理するだけでも自分を理解することは出来ます。

最後になりますが、高専では色々なことに挑戦できる環境が整っているため、充実した高専生活を悔いのないように楽しんで送ってください。

高専と原子力発電

令和元年度 電気電子工学科卒 遠矢 青志

私は、鹿児島高専の電気電子工学科を卒業し、2020年に日本原子力発電(株)に入社しました。私が入社した会社はその名の通り、原子力発電専門の会社です。日頃のニュース等でご存知の方もおられるかもしれませんが。

私はこの会社で、圧力・温度・核燃料の出力等を計測する計器や原子炉を制御・保護するシステム、放射線量を測定する装置などを保守する部署で仕事をしています。

私がこの会社で働いていて思うことは、高専で学んだことが大いに活かしているということです。

原子力発電所は、核燃料物質のエネルギーを電気エネルギーに安全・安定的に変換する必要があるため、建物や配管、送電線、制御システムなどを常に良好な状態で保つ必要があります。そのために、高専のすべて学科の技術が応用されています。

私は、働いてから高専での知識や経験が活かしていると思っています。私の場合は計測、論理回路、通信、半導体の知識が、仕事の要領を掴むことに応用できた実感がありました。いま、勉強することを難しいと思っている、無意味と感じている学生さんもおられると思います。

私も、優秀ではなかったのでそう感じていました。しかし、社会に出た私は、高専で学んでいれば活かす機会はどこかに必ず転がっていると確信しています。優秀である必要はありません。腐らず、諦めず、たまに遊びつつ、勉学に励まれてください。

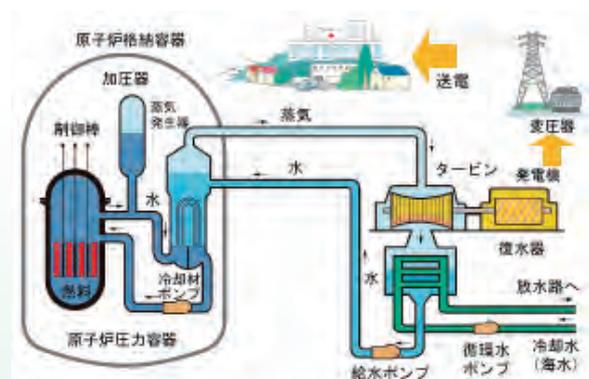


図1 原子力発電の概要



悲願の三連覇

令和4年度 電子制御工学科卒 石原 綾真

「豊橋技術科学大
学、3連覇!!!」

大きな歓声とともに金の紙テープが宙を舞いました。全国の大学生が毎年異なる課題に挑み、ロボットを製作してその成果を競う、学生ロボコン。優勝した



チームはABUアジア・太平洋ロボットコンテストへの切符を手にしします。私は、「とよはし☆ロボコンズ」からピットクルーとして、学生ロボコン2024に出場、学生ロボコン史上初の3連覇を成し遂げました。

とよはし☆ロボコンズは高専ロボコン経験者が多く、そのメンバーと一年間ともに試行錯誤を繰り返し、世界大会出場、そして優勝することを目標としてロボット開発を行っています。優勝までの道のりは簡単なものではなく、何度もロボットを作り直しては何度も心が折れそうになりました。学生ロボコンの一月前には、前代未聞のロボット全改修が行われ、ハードスケジュールの中、何とか戦略を形にすることができ、優勝までこぎつけることができました。

そしてベトナムでの世界大会、慣れない地でのロボコンはチームメンバー誰しもが経験したことがなく、現地のスタッフとは英語での会話がほとんどでした。不測の事態が起こっても日本国内と同様というわけにはいきません。もしものことを考慮し、我々選手団は、現地の食事を大会終了まで食べることはなく、日本から持ってきたレトルト食品でリスク対策を行いました。大会中は、選手以外から送られてくる現地食の写真を見て羨ましがっていました。

大会当日、私たちは予選ラウンドを勝ち抜き、決勝ラウンドまで駒を進めました。決勝ラウンド1戦目、相手は強豪中国、白熱した試合となり僅差での勝利となりました。このままの勢いで優勝するぞ、と再度円陣を組みなおし迎えた準決勝、相手は去年の準優勝であり豊橋のライバルチームである香港でした。結果は、私たちのチームのミスにより相手にリードを握られてしまい、Best 4での敗北となりました。

ロボコンに一年間全力で挑んできた分、悔しさが大きかったです。しかし、この一年間自分としてはかなり大きく成長できた年でした。チームの一員として優勝という大きな目標に向かっていく、このような経験はなかなかできないと感じています。この経験を生かしてこれからもロボット研究を行っていきます。

社会人になってみて

令和4年度 情報工学科卒 水口 ひまり

鹿児島高専を卒業して、瞬く間に2年が経ちました。

卒業後は、ソフトマックス株式会社に就職しました。ソフトマックスは、電子カルテや、医事会計システム等の病院様向けのソフトウェアの開発を行っています。



今回は、社会人になって2年目の私が感じた事をお伝えできればと思います。

社会人になると、学生の時とは異なり、自分が書いたプログラムが、お客様の手に渡って 実際に使われることになるので、1つ1つの開発への責任が生まれます。ただ、自分が書いたプログラムが、お客様の元に渡って、使われるんだ！使ってもらえたら嬉しい！楽しい！という感情が芽生え、プログラミングに対する楽しさを社会人になって初めて感じる事が出来ました。学生時代は、あまりプログラムが得意ではなくても、会社に入ってみると意外と出来るものだし、学生の時とは違って達成感があるので、きっと開発が楽しくなると思います。さらに、5年間専門知識を勉強してきた（叩き込まれた）事もあり、他の同期社員よりも、業務の理解速度が速いなど自分では感じました。

また、勉強以外にも、社会人になると、アルバイトで稼ぐお金よりもはるかに高いお給料がもらえます。自分は、お給料がもらえるのが嬉しくて、毎月貰ったら貰った分だけ使う生活をこの2年間してきました（笑）今年に入ってからは、もう少し貯金しておけば良かったな〜と後悔しています。皆さんも社会人になったら、毎月いくらは貯金する！というように決めて、

定額貯金をするようにしましょう！金欠の先輩からのアドバイスです。

プライベートな部分の話をする、学生時代はとてゲームが好きでずっとゲームをしていました。社会人になると、ゲームをする時間が、平日は1～2時間、休日は、予定が無ければ好きなだけ、予定があれば空いた時間、というかたちになります。最近は、いかに仕事を早くこなして、ゲームをする時間を増やすか、しか考えていません（笑）

ここからは、少し自分の会社の話を見せてください。冒頭に記載しているように、ソフトマックスという会社は、電子カルテや、医事会計システム等の開発を行っています。自分が配属されている部署は、病院の受付や会計の方（医療事務の方）が触る会計システムの開発を行っています。興味がある方は是非ソフトマックスの仕事体験にお越しください！！

1～3年生の皆さんは、これから体育祭や文化祭等楽しい行事がたくさんあると思うので、好きなだけ遊びつつ、勉強を頑張ってください。

4～5年生の皆さんは、残り少ない高専生活を謳歌してください！

技術士になって良かったこと

平成25年度 土木工学科卒 金尾 建志
(現：都市環境デザイン工学科)

私は、平成26年に鹿児島高専の土木工学科（現：都市環境デザイン工学科）を卒業して県内の建設コンサルタントへ就職しました。建設コンサルタントは、ざっくり言うと社会インフラ（皆さんが普段利用している道路や橋、食料生産を担う農地の整備など）の計画・設計を担っている業界です。

皆さんは「技術士」という国家資格をご存知でしょうか。技術士は、技術者にとって最も権威のある最高の資格と位置付けられています。私の勤めている建設コンサルタントは、業務の対象が社会インフラという公共性から、必然的に国や県・市などの地方公共団体が顧客となります。私が勤める業界では、仕事の受注要件や業務遂行上この資格が非常に重要です。私は入社してから10年目（令和5年）、30歳の時に農業部門（農業農村工学）の技術士となりました。まだ技術士を取ってから1年程度なので偉そうなことは言えま

せんが、合格して良かったことを皆さんに伝えたいと思います。

1つ目は、自分が専門としている技術分野について、幅広い視野・知識を手にすることができたことです。私は、農業土木という少しマイナーな分野のコンサルタント業務を行っています。皆さんが田舎でよく見るきれいに区画割された畑や田んぼ、その水源となるダムやため池、水路の整備に向けた事業計画策定や設計業務を行っています。技術士の合格には、業務の遂行上必要な知識だけではなく、業界全体が抱えている問題点や動向などの幅広い知識が必要です。私の場合、農林水産省が策定している食料・農業・農村白書や土地改良長期計画を何度も読み返していました。これにより、業界全体の動向から、「今後はこういう提案をしていった方がいいのではないか」、「こういう仕事が増えてくるのではないかなど、知識が付くだけではなく幅広い視野を持って業務を遂行するようになりました。

2つ目は、技術者として求められる資質能力について改めて学べたことです。日本技術士会では、技術士としての資質能力（コンピテンシー）を定義しています。それは、「問題解決」や「マネジメント」、「リーダーシップ」、「技術者倫理」などの8項目に分かれます。技術士の論文試験や口頭試験ではここを徹底的に採点されます。ここでは詳しく書きませんが、このコンピテンシーを学ぶことで、自分が目標とする技術者像を具体化することができました。

3つ目は、勉強する習慣ができたことです。正直な話をする、最初に技術士を目指した動機は、給料を上げるためでした。しかし、勉強を続けていく中で、先ほどの1つ目・2つ目の「良かったこと」を実感することで、継続して何かしら勉強するようになり、学ぶ楽しさを知ることができました。これにより仕事により一層楽しくなったことは間違いありません。

鹿児島高専生の多くは、卒業後、技術者となられる方が多いと思います。技術者として「技術士」は必須ではありません。しかし、新技術がどんどん開発されていく昨今、技術者はより広い視野を持ち、継続して勉強することが大切になっていきます。皆さんはどのような技術者になりたいでしょうか？勉強をするなかで、最初はよくわからないけれども、学んでみれば楽しいものがたくさんあります。そしてそれは一生懸命にならないと見つけることができません。その一つの手段として、技術士を目指してみるのはいかがでしょうか？



学生から社会人へ

令和3年度 機械・電子システム工学専攻修了
(電子制御工学科出身) 宮元 勇輔

私は電子制御工学科を卒業後、専攻科を修了した後に、トヨタ車体研究所に入社しました。

現在の主な業務としては、車両の機能部品と呼ばれる部品の設計、配置を行っています。機能部品と言われてもあまりピンとこない方も多いと思いますが、ドアの部分に設置されているドアが走行中に開かないようにするドアロックや、ドアの回転の軸となるドアヒンジ、車両の中・後続車を確認する際に見るミラー等の動く部品全般のことを指します。

なかなか説明をされても分からないと思いますが、会社でもこのようなことは頻繁にあります。社会人になって3年目になりますが分からないことだらけでつらい日々もありますが、必ず職場には頼れる先輩方・同じくつらい日々を送っている同僚等、一種の支えになってくれる人たちがたくさんいます。分からなければ分からない、できなければできない、そういった声をあげるのには難しいことですが、社会人になってこそ、その大切さを感じています。学校生活の中でも同じような状況は必ずあると思います。その時には迷わず人に頼ってください。必ず力になってくれます。

勉強や研究で大変な日々もあると思いますが、やっていてよかったと思えるタイミングが必ず訪れるのでその時までぜひ頑張ってみてください。

かく言う自分もそれを実感できたのは最近になってからです。実のところ社会人2年目までは同じ会社でIT部門に所属し、プログラムを書いていた。高専時代に習ったプログラムの知識を生かして仕事もそつなくこなしていましたが、3年目で設計部門に異動になりなんの知識もないなか業務に追われる日々になりました。自動車の設計となると難しいイメージがあるかと思いますが、意外と簡単なもので、高専で習う梁の釣り合いから荷重を算出したり、簡略化した部材の断面二次モーメントを式から導き出したりと学校で習った知識を思いもよらなかったところで使うことが多々あります。

こんな勉強役に立つのかなと漠然とした不安に襲われている方もいるかと思いますが。そんな方に一言『役に立つ!』と言わせてください。先行していた分野でなくとも身に付けた知識はどこかで思わぬ形で役に立

つものです。自分だけではできないときには身近な人に頼ってください。必ず力になってくれます。

ぜひ不安に襲われながら将来を考えるのではなく、自分の身に付けた知識ならきっとどこかで役に立つ、そういった希望を持って将来を考え、就職や進学してください。

最後に高専では高専でしかできない経験がたくさんあります。悔いのないようやりたいことを思う存分やって何年後かに高専に入って良かったと思える高専生活を送ってください。皆さんが社会で活躍されることを願っております。

高専生は日本の宝

平成30年度 電気・情報システム工学専攻修了
(電気電子工学科出身) 藤井 勝秀

私は電気電子工学科を卒業後、電気・情報システム工学専攻を修了し、京セラ株式会社に就職した藤井と申します。「高専生は日本の宝である」これは決して私の感想ではなく、東大特任准教授・松尾豊氏の言葉です。(日本経済新聞より_2018年)私も高専を卒業した身ですが、最近そう思えるようになってきました。高専出身者は、とにかく手が動きます。有名大学を卒業した同僚も数多くいますが、彼らは口はうまいが、やらないことが多い印象です。高専出身者はとにかくやってみて、結果の良し悪しにかかわらず自分で考えたり、予測したりする力が備わっているというのが私の肌感覚です。ただ残念ながら、その価値に高専生自身が気づいていないとも思っています。社会人6年目となり、やっと高専生の価値に気づいた私から皆様に2つほどメッセージを送らせてください。

1つ目は、報・連・相の大切さです。私は幼少期から夏休みの宿題を最終日に溜め込むような計画性のない人間で、高専時代もレポートや研究など苦い思い出があります。そのまま社会に出てしまったため、最初は打ちのめされました。世の中の大人、技術者はプライドやこだわりを持っていて、いい加減な仕事はしていません。ごまかしたり、自分を良く見せようとその場をやりきるために、いい加減な約束をしたりすると痛い目を見るので教訓として伝えておきたいです。おすすめては6割完成した段階で上司に確認してもらうことです。社会人3年目頃に社内での大きい技術発表会で

自分の成果を発表する機会があったのですが、発表資料を提出したとき「何が言いたいのか分からない。スライドの構成からやり直した方が良い。」と言われたことがあります。その時、既に最終締め切りの2週間前で必死に修正した覚えがあります。6割完成した段階で提出し、その時は突っ込まれるかもしれませんが軌道修正してもらった方がはるかに効率的です。私が挙げたのは一例ですが、こういった報・連・相スキルは高専生の弱い部分かなと個人的に思っています。高専生は高い技術力を持っています。それを生かすためにも皆様も報・連・相を大切にしていって欲しいです。

2つ目は、技術力は社会に出てからも伸びるということです。同窓会などで久しぶりに同級生に会ってみると、意外と高専時代に苦手で分からなかった分野の仕事をしている人も多いです。むしろ高専時代には分からなかったことが実務を通して分かるようになり、毎日楽しんで知識を蓄えているという友人もいました。私もその一人です。専門性を高めて、物事の原理・原則が分かったり、苦手を克服したりすることは意外と楽しいものです。高専時代に学んだことの何が生きるか分からないですが、意外なところで役に立ったりするものですので、皆さんも日々の勉学に励んでみてください。

さて、長々と書いてしまいましたが、最後にひとつ。高専生の技術力は日本の宝だと思っています。好きこそものの上手なれで精神で専門性を高めていって欲しいです。そうすれば、自信を持って社会でも活躍できると私は確信しています。悔いのないように学生生活を楽しんでください。



建設コンサルタントって？

令和5年度 建設工学専攻修了 須崎 広大

私は、令和5年度に建設工学専攻を修了し、現在は(株)長大という建設コンサルタントで働いています。



橋梁設計に憧れを持って入社した私が、実際に働いてみて感じたことなどについてお話しさせていただきます。

・建設コンサルタントとは

皆さんは、「コンサルタント」とは何かご存知でしょうか。コンサルタントとは、クライアントが抱える課題や事業に対して、入念な調査を行い専門知識や経験を武器に課題解決に向けた提案・助言等をする仕事です。私は入社するまで、建設コンサルタントとは設計を行う業種であると思っていました。しかし、入社してみてわかったのは、設計だけではなく、客先のニーズに応えるための提案や管理、地域創生をテーマとした新事業の展開など非常に多岐にわたる職種であるということです。即ち、建設コンサルタントとは、専門知識や経験をもとに様々な課題を抽出し、クライアントと協議を重ねていながら、設計という技術を駆使して良いモノを作っていくという仕事になります。

・実際に働いてみて

私は現在、複数の橋梁設計業務を担当しています。経験値が少ないため、先輩や上司、協力会社など、様々な人に聞きながら、知識の習得や業務の遂行に努めています。私は、コンサルタントとは、客先の期待を常に越える存在でなければならないと考えます。そのため、現状に満足してはならず、常に最善を尽くすことを考えなければならない大変な職種です。ですが、初めて自分が設計した橋梁の成果を収めたとき、客先から感謝され、全ての案件をお願いしたいぐらいだと言われた時は、とても嬉しく、達成感を感じました。こうしたやりがいを感じることができる魅力ある職種だと思います。高専生は、建設コンサルタントへの就職の割合が少ないですが、少しでも興味を持ってもらい、同じ業界で働くことができれば嬉しいです。

皆さんの今後の活躍を応援しています。



教務だより

DP、CP、APそしてMCC

教務主事 玉利 陽三

本校の教育理念は、「未来の技術を創る人を育てる」である。この理念は、学生便覧を始め、本校のホームページや刊行物に掲載しております。学生の皆さんも見たことはあるかと思います。本校が育てる人材像は、未来の技術を創る人であり、学習・教育到達目標にも示してある通り、将来的に

1. 人類と未来と自然との共存をデザインする技術者
2. グローバルに活躍する技術者
3. 創造力豊かな開発型技術者
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

になることが目標です。また、教育理念を基にディプロマポリシー（DP）が定められております。DPとは、本校の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものであり、卒業時に身につけている能力です。さらにDPを達成するために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針を示したカリキュラムポリシー（CP）を定めております。DP、CPに基づく教育内容等を踏まえ、どのような入学者を受け入れるかを定める基本的な方針で、受け入れる学生に求める学習成果を示すものがアドミッションポリシー（AP）です。これらの3ポリシーについても学生便覧を始め、本校のホームページや刊行物に掲載しておりますので、これを機会に確認してみてください。

本校におけるDP（卒業時に学生が身に付けるべき資質・能力）を達成する方法について説明します。本校のカリキュラムは、A群科目（自動的に履修する科目）とB群科目（選択科目）に分けられておりますが、自動的に履修する科目であるA群科目と一定の選択科目の履修によって、DPを達成できるように設計されております。また、APは、本校の教育における入学者に求める能力を示しております。つまり、CPで示されている教育課程に取り組み、DPを達成させるための入学者に求める能力を示しており、学生は入試の際、面接や試験等で確認されて入学しております。そのためDPを達成する能力は十分に持っております。

ところで、卒業認定のための単位数を知っているでしょうか。一般科目75単位、専門科目82単位を含んで167単位以上の修得が卒業の要件です。各学年の進級のための修得単位数を気にするように5年生はこの数値を気にしていたのではないのでしょうか。確かにこの数値を達成し、卒業研究などの必修科目の修得ならびに出席日数が3分の2以上の出席で卒業が認められます。この卒業に必要な単位数については、ある程度の学生は5年生の前期ぐらいで達成できることが見込まれますので、B群科目だけでなくA群科目を履修しない学生が見られております。そのためDPを達成するために編成された大事な科目を修得せずに卒業してしまう学生がでる可能性を危惧しております。

さらに、高専機構が定めているモデルコアカリキュラム（MCC）があります。MCCとは、国立高専全ての学生が卒業までに身に付けるべき知識や能力の具体的な到達目標を明示したものです。当然、本校の学生もこのMCCで示されている到達目標の項目を達成して卒業する必要があります。MCCは「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」、「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」、「技術者が備えるべき分野横断的能力」の3つに大別され、さらに各能力を9能力分野に細分化、それぞれの分野における学習内容、到達目標が示されております。本校では、MCCの到達目標の項目とA群科目を紐づけております。到達目標に紐づけられたA群科目を修得することによって、到達目標を達成するように設計されております。卒業に必要な単位数を計算してB群科目だけでなく5年生の履修すべきA群科目を履修しない学生が見られております。履修しなかったA群科目に紐づけられているMCCの目標があった場合、高専機構が定めているMCCのすべての到達目標を達成せずに卒業してしまう学生が出る可能性を危惧しております。

本校が定めるDPならびに高専機構が定めるMCCの到達目標を達成するため少なくともA群科目は必ず履修してください。本校が提供している科目の中で、修得しなくても良い科目は一つもありません。本校が定める履修すべき教育課程を修了し、卒業後、未来の技術を創る人材になって社会のWell-beingに貢献することを期待しております。



総務企画だより

総務企画委員会

総務企画主事 岸田 一也

(1) キャリア支援

① KTC インターン

キャリア支援室(支援室長 白石貴行准教授)では、令和4年度より、主に低学年の学生を対象として、KTC(鹿児島高専テクノクラブ)会員企業でのインターンを企画し、実施しています。夏季休業中に実施されたKTCインターンには、28名(1年生6、2年生8、3年生14)の学生が参加しています。KTCインターンは有償の活動となりますので、企業での活動を学びながら、賃金をいただくことができるといった有意義なものとなっています。ぜひ、今後も多くの学生に参加してほしいと考えています。

② 合同企業セミナー

11月9日に、4年生、専攻科1年生向けに本校第一体育館で合同企業セミナーが実施されました。84社の企業が参加し、午前、午後と学生の皆さんは企業の方の話を真剣に聞いていました。

ここ1、2年企業の採用活動が早まってきております。夏季休業中に実施されるインターンシップを通じての採用も実施されており、インターンシップ後に早期採用試験を11月に受験する学生もおります。インターンシップに応募する際にも就職試験と同様のエントリーシートを作成などが必要となっています。九州内の高専生を対象とした合同会社説明会(参加企業200社)は令和7年1月12日に開催されます。この会社説明会への参加の旅費、宿泊費は無料となります。また、それ以外にも大阪、その他の地域で、旅費、宿泊費無料での会社説明会が多数実施されるようになり、学生



の皆さんの就職活動に良好な環境となっています。そのため、本校独自で開催していた合同企業セミナーは、次年度は開催しないことになりました。企業説明会については、学生の皆さんに随時案内をしていますので、そういった活動に積極的に参加していただき、行きたい企業を見出していただければと思います。

(2) 広報センター

① 鹿児島市市電広告

広報センターでは、鹿児島高専の広報を行うために、鹿児島市の市電の窓吊り広告を年に2回出しています。1回目は8月の一日体験入学に合わせたもので、2回目は受験の出願時期に合わせたものとなります。鹿児島高専は60年を超える歴史を持っていますが、高専自体が15歳人口の1%の中学生しか入学できないため、多くの方々に高専を認知いただいているとは言えないのが現状だと思います。一方、高専を知っていただいている方々の中では、兄弟が入学していたり、親子が高専で学んだといったケースは珍しくありません。高専の最大の応援団は保護者の皆様方とっておりますので、ぜひ高専のPRにご協力いただければと考えています。よろしくお願いたします。



② 学生の皆さんのメディア出演に関すること

学生の皆さんが、ラジオ、テレビなどメディアに出演し、鹿児島高専の活動をPRしていただいていることに大変感謝しています。メディアにする際は、広報センター(図書情報係)への事前連絡をお願いします。係から、出演に際しての注意事項をまとめた資料を提供しますので、それを確認し、担当教員と打ち合わせをした上で、出演をお願いします。



学生だより

学生会の充実

学生主事 北蘭 裕一



『Smile OK!』学生の個性がキラキラと輝き、若者らしいエネルギーが溢れ、学内に明るい笑顔の花が咲き誇ることを願ってのキャッチフレーズです。ポスターも2024バージョンを作成していましたが学生の皆さん2024年度はいかがでしたか？

私としては、学生主事として4年目を迎え、これまで以上に学生の活躍に歓喜した1年となりました。部活動の大会や各種コンテスト等において素晴らしい結果を残すだけでなく、新しい分野へのチャレンジも多く見られ、学業と課外活動を両立している学生の多さに喜びを感じております。

課外活動の目的や意義については改めて言うまでもありませんが、日常の学業だけでは経験できない様々な活動を通して学生の皆さんに『豊かな心』を育てたいという願いがあります。興味関心や、得手不得手の違いなど、それぞれ個性の異なる学生が、自主性を存分に発揮してこそ、皆さんの創造力は益々広がっていきます。学生のお陰で、今年もそのわくわくした期待感を持ちながら過ごすことが出来ました。

私は学校の主役は『学生』だと常に思っております。学生が安全・安心をベースに、いかに楽しく充実した学校生活を送ることが出来るかは非常に重要です。



そして学生の充実した学校生活作りの中心が『学生会』です。嬉しい事の1つに学生会役員が増えてきております。何か物事を進める(始める)にはマンパワーは必要です。『数は力なり』という言葉もありますが、学生会にはマンパワーが集結してきております。そしてただのマンパワーでは無く、1人ひとりの意欲が高く、明るさをもった素晴らしい学生が集結してきている所に今の活気があります。つまり、学生会の活気が学校の活力にも繋がっていると言っても良いでしょう。

嬉しい事の2つ目に、学生会各局がプラス1にトライしてくれていることがあります。風紀局のいじめ防止スローガンの決定だったり、交通局のポスター作製であったり、環境局の学外ボランティア清掃だったり、新しい取り組みが具体的に進んでおり、素晴らしいメンバーだなと感心しております。

そこにはこれまで学生会担当として中心的に指導して下さっていた機械工学科の東先生が存在があります。今の学生会の活気があるのは、学生の意志を尊重しながら、学生が個性を存分に発揮できるような東先生の働きかけのおかげです。併せてその他の学生委員会の各先生方、そして学生係職員の方々のサポートのおかげで、活力ある学校づくりへ向けた『学生会の見える化』が進んできております。東先生をはじめとする学生委員会の先生方、池田係長を中心とする学生係職員の皆様、本当にありがとうございます。

2025新学生会メンバーも新しい学生会長のリーダーシップのもと、新メンバーも増え、それぞれ各局プラス1を企画・実行し(ミスしてもOK)、よりブラッシュアップされた素晴らしい組織になります。

2025年も『Smile OK!』明るいあいさつ、元気な笑い声、そして笑顔の花が咲き誇る鹿児島高専を共に創っていきましょう！





志学寮だより

今年一年を振り返って

寮務主事 椎 保幸

○寮生の動向

令和6年度4月当初の入寮者数は、男子357名、女子73名の計430名（内4名が留学生）でした。4月、5月は体調不良者もさほど多くありませんでしたが、6月中旬から7月にかけて新型コロナウイルスの罹患者が増えた時期がありました。ただし、8月以降は感染状況も落ち着き、後期に入って12月に至るまで、インフルエンザおよび新型コロナウイルスどちらも罹患者は出ておりません。今年はずいぶん暑い夏が続き、秋を通り越して急に冬になった印象ですが、寮生には引き続き体調管理に気を付けてもらいたと思います。

○今年度の主な出来事

・第6志学寮改修

7棟ある志学寮のうち、収容人数が最も多い第6志学寮（定員168名）の改修工事が令和6年8月から令和7年3月にかけて行われます。この改修に先立ち、約100名の寮生には自宅通学をお願いすることになりましたが、その節は当該寮生および保護者の方々にはご理解とご協力を賜り、あらためてお礼申し上げます。第6志学寮の居室はこれまで二人部屋がほとんどでしたが、改修後は個室の割合が増え、収容人数の約8割（128名分）が個室になります。高専の志学寮は、集団生活を通して協調性やコミュニケーション力、また、人間関係の作り方を学ぶといった教育寮としての役割がありますが、時代の移り変わりと共に個人のプライバシーを保護することも大変重要となり、この度、改修工事に合わせ個室を増やすことといたしました。



(第6志学寮改修工事の様子)

・学寮相談室の設置

学生何でも相談室の学寮版である“学寮相談室”を令和6年11月に設置しました。これは、寮生活で困っていることや悩みがある寮生に対し、その問題の軽減や解決の手助けを行うことを目的としています。寮生の日常は、放課後に寮に戻り、入浴、食事を済ませ、その後自室で勉強というルーティンになりますが、自由に過ごす時間も多くあり、その時間を有効活用するという意味でも学寮相談室は有意義であると考えます。インターネットやSNS等の普及により、日々様々な情報が身の周りに溢れ、ともすると事件や犯罪に巻き込まれる可能性もあります。親元を離れ心細くなった学生の相談相手になればと考えています。寮生で何か困ったことがあれば小さなことでも結構ですので気軽に利用してください。

○今年度の学寮行事

- ・4月6日（土）寮生会リーダー研修
- ・4月9日（火）～4月24日（水）1年生集合自習
- ・4月11日（木）学寮避難訓練
- ・4月25日（木）寮生総会
- ・6月12日（水）留学生パーティ
- ・7月4日（木）七夕パーティ
- ・9月30日（月）寮生マッチ
- ・1月6日（月）寮生パーティ
- ・試験前学寮チュートリアル（年4回）

最後に、最近、寮全体的に補食室や自習室の利用状況が良くなく、ゴミの放置や後片付けが出来ていないことが多々見られます。整理・整頓・清掃は寮生活の基本ですので、今後より細かく指導していく予定です。



(留学生パーティの様子)



専攻科だより

IPC 海外スタディツアー

機械・電子システム工学専攻
専攻長 小原 裕也

令和6年8月19日～8月30日にIHIプラント（IPC）海外スタディツアーが実施されました。このスタディツアーはIHIプラント株式会社の海外グループ会社であるシンガポールのJurong Engineering Limited（JEL）のインターンシップで以前は毎年開催していましたがコロナ禍もあり、令和元年度以来、5年ぶりの開催となり、今年度は機械・電子システム工学専攻1年の遠藤辰徳さんと原口健心さんの2名が参加しました。JELの主な事業内容は、発電所や産業施設の設計、調達、建設、メンテナンスであり、特に火力発電所や再生可能エネルギープラントの建設に豊富な経験があります。

実習期間中のうち、前半は講義が中心で安全管理や図面の読み取り、配管設計、プロジェクトプランニング、入札・見積作成について学び、後半にはマレーシア、シンガポールでの実際のプラント建設現場を見学しました。このインターンシップを通じて、英語学習に対する考え方や異文化理解、世界で活躍するエンジニアとはどのようなものなのか等、様々なことを学んだかと思えます。これらの経験を活かして、今後益々の活躍に期待します。



図1 現地技術者による英語での講義



図2 プラント建設現場見学

特別研究進捗状況報告会

電気情報システム工学専攻
専攻長 今村 成明

令和6年9月26日に特別研究Ⅱ（専攻科2年生）、9月27日に特別研究Ⅰ（専攻科1年生）の進捗状況発表会が実施されました。機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻の3専攻合同で実施され、1年生27名、2年生22名が、これまでの成果について発表を行いました。

10:00より3分間のショートプレゼンを行いました。2年生は英語にてショートプレゼンを行っており、それぞれ、緊張した面持ちでプレゼンを行っていました。また、13:00から15:00でポスター発表を行いました。教職員だけでなく、専攻科進学予定の本科5年生も参加しており、9月26日が61名、9月27日が68名の参加があり、ポスター発表会場では活発な議論が繰り広げられました。

ポスター発表では、全参加者が最も良いと思うポスター発表に対し投票を行い、1年生3名、2年生3名がポスター賞として選出されました。12月17日に校長室にて表彰され、賞状と副賞が授与されました。専攻科生の今後の益々の活躍に期待いたします。



図3 活発な議論風景



国際交流だより

国際交流だより

国際交流センター長 徳永 仁夫

皆さまご存じの通り、鹿児島高専の学習・到達目標の一つに、「グローバルに活躍する能力の育成」が掲げられています。国際交流センターでは、この目標の実現に向けた教育、研究、その他の活動を積極的に支援しています。

2024年度、新型コロナという全世界を変えた出来事が少しずつですが過去のものとなりつつある中、鹿児島高専の国際交流も新たなフェーズへと進む必要があります。ここでは、高専機構のグローバルな取り組みを中心に、鹿児島高専の状況について書かせて頂きます。

高専機構のグローバルな取り組み

まず、高専機構が進める2つのグローバル施策をご紹介します。

1. グローバルエンジニア育成事業（第2期）

2024年度より、第2期の「グローバルエンジニア育成事業」が開始されました。この事業では、「高専生のコミュニケーション能力を高め、グローバル環境下で専門知識やスキルを活用し、協働して課題解決に取り組む人材（グローバルエンジニア）を育成し、産業界のニーズに応え、社会に貢献する」ことを目指しています。

2019年度から2023年度にかけて実施された第1期は公募型で、鹿児島高専も採択され、さまざまな活動を展開しました。第2期では対象を全51高専に拡大し、第1期の基本方針を引き継ぎつつ、新たに「教員の英語力（TOEICスコア）」が成果指標に加えられています。

グローバルに活躍する学生を育てるには、教職員自身のグローバルな素養も不可欠とされる中、私自身、英語での研究発表に苦勞するたびに自らの課題を痛感します。しかし、日常の業務に追われるうちに改善への行動が後回しになることもしばしばです。この機会に改めて自己研鑽に取り組み、教育・研究活動へ還元したいと考えています。

2. Kosen Global Camp

もう一つの取り組みが、「Kosen Global Camp」です。この事業は、「高専の国際化を促進し、外国人留学生の受け入れを拡大することで、日本人学生と留学生が切磋琢磨できる教育環境を整備する」ことを目的としています。将来的には、現在の日本語での高等教育履修に加え、英語だけで高専教育を履修できる仕組みの構築を目指しています。

2024年度、鹿児島高専は九州地区高専を代表してGlobal Campを開催します。開催期間は2025年2月24日から3月1日を予定し、現在準備を進めています。本事業の特徴の一つは、「学生ファシリテーターの募集と主体的な参加環境の整備」、および「事前研修の実施」です。ファシリテーターの役割は、グループ活動において中立的な立場から議論を促進し、グループをゴールに導くこと、という極めて重要なものです。今回は、この役割に“英語”という難しさが加わります。準備当初は、「英語を使ったファシリテーション」という高いハードルから、本校学生の参加意欲を懸念しておりました。しかしながら実際には40名を超える希望者が集まり、学生たちの高い関心と意欲に驚かされました。手を挙げた学生各位は、原稿執筆現在、Global Campの成功に向けて日々準備を進めておられます。学生たちの前向きな姿勢を目の当たりにし、自らの意識の低さを反省するとともに、学生の熱意を支える責任を改めて感じています。

なお、Global Camp 2024には国内外から多くの参加希望がありました。国内の高専から90名を超える申し込みがあった中、抽選で23名に絞らざるを得なかったことが心苦しく感じられます。また、海外の4つの教育機関からは19名の学生が参加予定です。

さらなる国際交流活動への期待

上記の「グローバルエンジニア育成事業」や「Kosen Global Camp」は、国際交流センターの主要な取り組みですが、これ以外にも海外研修や留学支援など、さまざまな活動を行っています。

これらの活動が、一人でも多くの学生の将来の活躍につながることを心から願っています。



地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター長 武田 和大

地域共同テクノセンターは鹿児島の企業や自治体と連携して、共同研究の推進、地方創生、知的財産に関するマネジメント等を業務としています。また、STEAM教育支援室では、鹿児島高専での公開講座の開講と県内小中学校への出前講座の開講をしています。運営はセンター長の武田、副センター長の前菌・瀬戸山、各科からの運営委員、総務課企画係で行われています。

地域企業との連携

鹿児島高専には鹿児島高専テクノクラブ（KTC）という産学官連携組織があります。会員は、鹿児島に拠点を持つ企業111社と自治体などの19の公的団体であり、教育・研究活動をはじめ、様々な分野で協力関係のもと鹿児島高専とともに活動しています。この規模の企業の集まりは県内にはなかなか見られません。常に100を超える地域企業が鹿児島高専を支え、また期待を寄せているこの状況は大変ありがたいことです。

学生さんは鹿児島を飛び出して活躍したいと思っている方が多いと思います。これまでと大きく異なる世界に飛び出して挑戦するのは素晴らしいことです。そして外に出ようと思ったとしても是非、地元鹿児島の企業・自治体のことを知ってから飛び立ってほしいと思います。

県外企業にも劣らない優良企業は県内にもあります。本校を卒業後に新卒で就職して活躍できる場もあります。また県外に就職した後にUターンで鹿児島に戻って働いているOB/OGもたくさんいます。KTC会員企業をはじめとする地域の企業・自治体は、ずっと皆さんの「味方」になってくれる存在です。たとえ県外に出ようと思っても地域のいろいろな企業やそこで働く人たちのことを知っておくことは地域だけでなく、やがて自分のためにもなります。

地域共同テクノセンターでは、地域の企業・自治体の存在を知ってもらうこと、鹿児島で働くということ、地域の現状のこと、を学生が知る・体験する機会を数多く設けています。自分の中で地域を捉え、県外・県内就職の良し悪しを理解し、将来まで見据えた行動ができるようになることを希望します。

STEAM教育

STEAM教育とは、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Arts）、数学（Mathematics）を主な領域として理数教育と創造性教育を行うことです。STEAM教育支援室では驚きや発見、ワクワクする心で特に理系分野への興味や親しみを持ってもらいたいと考えています。県内小・中学生が「来校」する公開講座は、これまでの公開講座を確認し、STEAM教育を謳えるものとして実施しています。小・中学校にこちらから出向く「出前型」講座については、支援室開始時はゼロからのスタートでしたが、この2年間で17種類の講座を設置することができています。また、はじめは教員だけが小・中学校に出向いていましたが、今年度は本校学生も現地に行き、教室で児童・生徒らに直接教える講座増え、STEAM教育講座の内容も確実に育ってきています。

また今年度は鹿児島県始良・伊佐地域振興局と共催でロボットコンテストを開催して大変盛況でした。

鹿児島高専の講座を受講した生徒がSTEAM分野に興味を持ち、さらには将来、鹿児島高専へ進学してくれるとうれしいですね。

地域とともに

私たちは、地域企業と、鹿児島高専の研究者・職員、そして学生との距離を縮め、身近に感じる仲にしたいと思っています。そしてその先には良い連携や協働は自然と発生すると考えます。

研究会に参加したり、耳にしたりして気になった企業があって、もっと知りたいことがあれば、ぜひ近くの教職員に相談してください。地域共同テクノセンターに繋いでくれます。



地域企業研究会の様子



退職の挨拶

退職にあたり、回想

機械工学科 南金山 裕弘

平成元年3月、博士課程を修了して学位を取得したものの就職先はなく、取り敢えず、依頼のあった熊本県立熊本工業高校機械科で講師として1年間、教鞭をとることになり、私の教員人生が始まりました。

大学4年間、修士2年間、博士3年間の計9年間、家庭教師という形で、高校生や大学受験生のサポートをしてきましたが、バイト代収入という直接的・世俗的な目的に対して、マン・ツー・マンという集中できる環境でした。

一方、熊本工業高校での授業は、40名余を平等に、かつ公平に扱い、それでいて順位を付けなければならないものでした。成績不審者に対しては、別途、個別の対応が必要で、時間も気持ちも分散して集中の度合いはかなり減りました。元来、優秀な学校でしたので、留年する学生は皆無でしたが、科目別にみれば赤点（当時、50点？）の学生は居るので、再度、試験を行ったこともありました。

その後、半年間、縁あって母校の、ある研究室に出

入りする中、当時、共同研究や人事交流で来られていた鹿児島高専機械工学科の先生方を紹介され、教員公募を知り、公募書類も見ないまま、研究室の教授から交通費をもらって、鹿児島までドライブすることとなりました。今とは異なり、面接は機械工学科教授5名と応接椅子に座って、20分ほどの質疑応答（歓談に近いもの）だけでした。帰り際に、「では、10月1日から・・・」という感じで、かなり簡便だった記憶です。

以来、35年余、鹿児島高専機械工学科（一時期、電子制御工学科に配置換え有り）の教員として、何とかやってきました。若い頃は、女子バスケットボール部を立ち上げたり、九州大会女子バスケットボール競技を正式認可活動に参加したり、学生との交流の方に時間を割いていました。その他、志学寮に関わる仕事と比較的多く、数回の主事補を経験した後、寮務主事も経験させてもらいました。任期中、多くの寮生や寮生会役員と、様々な行事を通じて交流できたことは良い思い出です。

令和7年3月、私の教員人生が終わります。

〈追記〉研究者としては、ダメダメでした。（笑）

退職にあたり

情報工学科 古川 翔大

こんにちは。古川です。2024年の夏ぐらいまでは、まさか私がこのような文章を書くとは夢にも思いませんでした。

私が鹿児島高専に赴任して8年が経ちました。長かったように思いますが、専攻科生と比べると1年しか違わなかったのだとも思います。赴任してからの最も大きな変化として、子供が生まれた事があります。まだ子供は1歳ぐらいですが、日々の成長を実感でき、大変ですが楽しい毎日を過ごす事ができています。

さていきなりですが、私のもう一つの原稿である贈る言葉については読んでいただけましたか？私の事を知っている人であれば、文章やその内容に違和感を覚えた事だと思います。察しの良い方はお分かりでしょうが、あちらの文章は、ほぼ生成系AIによって作成されました。一読しただけでは違和感の無い文章が作成されていますよね。私が学生だった頃と比較すると、

随分技術も進歩したものだと感じました。一方で、書き手の事が分かっていると、やはり違いを感じてしまいます。

今回のような原稿執筆でもそうですが、今後、生成系AIやその他の技術が進歩に伴い、人間に求められる技術やその内容も変化します。今後は、より一層、そのような変化に柔軟に対応できるように心がける必要があると私は考えています。

私自身も自分の状況や環境に柔軟に対応すべく、この鹿児島高専を離れる事になりました。次のポジションでも、卒業するみなさんに負けないようにしますので、お互い場所などは違いますが、頑張りましょう！



葉っぱのフレディ

都市環境デザイン工学科 堤 隆

みなさんはこの本を読んだことがあるだろうか？長女が小6の時に福島県の小学校の学芸会で演じた題目が、この物語との出会いだった。

春に大木の葉っぱとして生まれたフレディは夏には人々に木陰を作り、秋には紅葉となって人々の目を楽しませる。やがて、冬に散っていくが、そこで初めて大木の姿を見ることができ、そして地面にしみこみ次の葉っぱを生み出す栄養となる。こうして命は受け継がれていく…。

近年、退職された先生方の訃報を目にする機会が多くなった。この先生には色々なことを教えていただいた、この先生にはずいぶんと励ましていただいた、そしてこの先生とは頑張っって一緒に仕事をやり抜いた…。お世話になった先生方と過ごした日々を通して本校でのバトンを受け継がせていただいたことにあらためて気付かされ、この物語が思い出された。

荒れる学校で教員としてのキャリアが始まり、「聞く授業」よりも「聞かせる授業」を心掛け授業や教材

を工夫した。その甲斐あって高専への異動後は複数の卒業生から「卒業後に先生の授業ノートを使って勉強し直した」との言葉をもらい、執筆した教科書は日本工学教育協会から著作賞もいただいた。

そんな私も定年を迎え、次の葉っぱを生み出す栄養となる時が来た。しかしながら、インターネットや人工知能の普及、さらにパンデミックへの対応のためのリモート機器の活用など教育と研究の手段は一変した。はたして培ってきた経験と実績がいま目の前にいる学生たちに通用するのか、そしてお世話になった先生方のように次の世代に渡すに値するバトンを自分は持っているのか自問自答を繰り返した。幸い、卒研生や顧問を務める卓球部の部員たちと一緒に今年初めての参加にも拘らず最終選考会に進んだ高専防災減災コンテストへ来年度のエントリーの機運が高まってきたこと、そしてパンデミックのために頓挫していた台北科技大学との交流事業が軌道に乗ってきたことが目下のささやかなバトンと考えている。

このような私が、次代を担うみなさんにとってわずかでも栄養になれば存外の喜びである。

退職のご挨拶

総務課 松尾 謙二

この度、令和7年3月末日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。皆様からいただいたご厚情に、心より感謝申し上げます。

昭和62年12月1日に鹿児島大学に採用されて以来、37年余りの日々を振り返ると、感慨深いものがあります。鹿児島高専との縁は深く、平成7年から3年間、そして平成30年からは再び人事交流でお世話になり、最終的に籍を移すこととなりました。2度の人事交流は、まさに高専との強い縁を感じずにはられません。（ここだけの話ですが、2度目の人事交流は高専行きをドタキャンした人がいて、再度私に声がかかった次第です）

鹿児島高専では、寮務係、図書情報係、企画係を経て、令和4年7月からは企画室長を務めさせていただきました。中でも、鹿児島高専創立60周年の記念式典に関わったことは、私の心に深く刻まれる思い出となりました。正門前に植樹した記念樹の選定や、ふさわ

しい枝ぶりの木を探したことを、今でも鮮明に覚えています。

また、国立ガーナ大学との国際学術交流協定の締結も忘れがたい思い出です。ガーナからの視察団7名を受け入れた際には、調印式の準備が手探りで進められましたが、その中で国際的な儀礼を踏まえた準備が求められることを実感しました。

来年4月1日からは再雇用という形で引き続きお世話になります。これまでの経験を活かしつつ、新たな立場で鹿児島高専のお役に立てればと考えております。

最後になりましたが、鹿児島高専のさらなる飛躍と、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。



新任教員の紹介

お世話になっております

電子制御工学科 今村 優希

- ①出身地は？ 鹿児島です。The 高専育ちです！
鹿児島高専(電子制御工学科)→専攻科→長岡技科大
(技術科学イノベーション専攻)→鹿児島高専教員
- ②好きな食べ物 甘いもの、日本酒、わさび
苦手な食べ物 シナモン、ビール、パクチー
- ③趣味は？
●ドライブです。ジムニーで道の駅やアトリエ巡り。
●苔テラリウム。苔は涼しく陽の当たる場所を好みます。手がかかるとたくましく成長し、キレイな緑を見せてくれる姿に癒されます。登山に行ってもつついづい足元の苔を見てしまいます。苔の中でも特に・・・
●石ころ集め。糸魚川でヒスイ探しするのが好きです。
- ④どんな科目を担当されていますか？
コンピュータリテラシー、情報処理Ⅰ、電磁気学Ⅰ、リベラルアーツⅡ(Well-being)、など担当しています。
- ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。
専門は電気化学と表面科学です。ノーベル賞を受賞したリチウムイオン電池ではなく鉛蓄電池の研究をし

ています。なぜか・・・。鉛蓄電池は発明されてから160年以上経った今でも自動車や農業機械、大型の補助電源に用いられる身近な電池だからです。鉛は資源が少ない日本で採れます。日本は自動車産業も盛んです。リサイクル率は100%です。この電池には、可能性があります。しかし、歴史ある鉛蓄電池にも課題があります。なぜ寿命が来るのか？なぜ充電が遅いのか？どうすれば放電性能が上がるのか？これらの課題を解決すべく、電極表面を原子スケールで観察し電気化学反応を可視化する研究を行っています。

⑥学生たちへのメッセージ

学生の時に遊びも勉強もできることは思う存分取り組んでください。アドバイスもサポートもします。そして自分なりの価値観、強み、幸せを見つけて是非社会で大活躍してくれることを願っています。皆さんの興味の引き出しを探す手伝いができれば幸いです。



新任教員の紹介

情報工学科 津野 総司

- ①出身地は？ 大阪市
- ②好きな食べ物・苦手な食べ物 ワイン好き
- ③趣味は？ ジョギング、ロードバイク
- ④どんな科目を担当されていますか？ 電子回路
- ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。
前職では、素粒子を研究していました。宇宙の始まりのビッグバン初期に起きた真空の相転移を司る粒子の研究をスイス・ジュネーブにある加速器を使って実験を行っていました。本校では、素粒子実験の経験を活かして、宇宙から降り注ぐミュオン粒子を利用して、桜島火山内部のマグマ動態を透視するミュオグラフィ実験を行っています。ミュオグラフィ技術は、物質の内部構造を非破壊で見る新たな目(情報)として、遺跡発掘や水質環境保全など応用展開できる可能性を秘めた技術です。その技術分野の裾野を広げるために、安価な装置開発も目指しています。
- ⑥学生たちへのメッセージ
「常識を疑え!!」というメッセージを贈りたいです。常識を破れ、とまでは言いませんが、何気ない空気感

のような常識は、自分の頭で考えて納得した上で行動することを勧めたいです。最近ではテレビなどのマス・メディアの偏向報道が話題になっています。しかし、一方でネットニュースなどでは、偽の情報で溢れています。何が本当なのか分からないまま、流されるままに情報を鵜呑みにはできない状況になってきました。



このような情報が混迷するような時代において、自分自身の頭で考えることは益々重要になっていると思います。また、産業界においても、技術革新とは、今まで当たり前とされていた常識を打ち破ることから始まります。常日頃から、何気ないモノやコトに「不思議」と思える訓練を身に付けて欲しいと思います。また、将来に対しても、自分自身にリミットを設けずに、何にでもなれる精神で挑んでいただきたいと思います。何も考えずに常識に流されるのは楽ですが、常識を超えた先に大きな展望が待っていることを意識してチャレンジして欲しいと思います。



自己紹介

一般教育科 千頭 一郎

①出身地は？

大阪市で生まれ、小学校1年生から鹿児島県に住んでいます。南さつま市で育ちましたが、現在は鹿児島市に住んでいます。また、県立高校の教員として、沖永良部島、鹿屋市にも住んでいました。

②好きな食べ物・苦手な食べ物

特に好き嫌いはありません。コーヒーが好きなので、3年ほど前から自宅で焙煎するようになりました。

③趣味は？

チェロは大学入学時から始め、現在でも演奏活動を行っており、年に数回オーケストラやチェロアンサンブルに出演しています。また、クラシック音楽に限らず幅広く音楽は聴いています。

④どんな科目を担当されていますか？



主に1・2年先生の物理を担当しています。

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

現在の研究分野は、物理教育や科学教育、天文教育、環境教育です。専門分野は物理ですが、県立学校の教員として、初めて勤務した加治木養護学校（現加治木特別支援学校、1997～2001）在籍時から天文教育に関わっており、筋ジストロフィーの高校生と、当時普及しはじめたインターネットを用いて天体観測を行いました。沖永良部高校（2001～2007）在籍時は、水深10m程のサンゴ礁に水中カメラを設置して、ウミガメのライブ中継を行いました。モノトーンになりがちな病棟で生活する人々がいきいきと活動したり、引きこもりのような生活をしていた人がアウトドアライフを楽しむようになったりする様子を目の当たりにして、知的好奇心は人を元気にすることが分かりました。というわけで、私の教育活動と研究の裏テーマは、知的好奇心によりいかに人々を元気にできるかです。

⑥学生たちへのメッセージ

県立高校で長く受験指導をしてきましたが、担当した多くの高校生が、3年生の夏休み以降、物理の勉強を楽しむようになります。きちんと勉強すると、物理は意外と面白いので、ぜひ取り組んでみてください。

新任のご挨拶

一般教育科 山本 康平

①出身地は？

高知県です。大学が熊本で、赴任するまでは熊本に住んでいました。

②好きな食べ物

柑橘系全般好きです。

柑橘系の中でも特に文旦が好きです。熊本の晩白柚を一回り小さくしたような感じの高知の特産品です。

苦手な食べ物 特にありません。

③趣味は？

サイクリングです。熊本にいたときには阿蘇山など



にも登りましたし、大分からフェリーで高知に渡って実家に

帰ることもありました。鹿児島にも山がたくさんあるので行ってみたいですし、いろんな離島1周してみたいです。たくさん行きたいところがあるのでこれからが楽しみです。写真は去年いった菊池渓谷です。

④どんな科目を担当されていますか？

1年生の数学基礎A、2年生の線形代数、3年生の解析です。

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

専門分野は数学じゃなくて物理の素粒子物理学です。理論系なので実験はせずに紙とペンで計算をしていて、物理の中ではかなり数学に近いことをしています。研究テーマは電子やニュートリノなどのフェルミオンに関係する高次元のアノマリーを計算しています。

⑥学生たちへのメッセージ

数学は自然科学や工学を勉強するのに必要不可欠なもので、分野を問わず大切です。高専の数学はコマ数も多く、進度が早いのでとても大変だと思いますがしっかりと頑張ってください。数学だけでなく物理の質問でも受け付けているので研究室にぜひ来てください。

みんな楽しい体育を目指します

一般教育科 有蘭 ゆい

①出身地は？

出身は鹿児島県始良市で、生まれも育ちも鹿児島県です。高校卒業後、短大、大学、大学院修士課程まで修了しましたが、全て県内の学校で修めています。ちなみに修士課程は、今年の3月に鹿屋体育大学大学院にて修了しました（写真）。

②好きな食べ物・苦手な食べ物

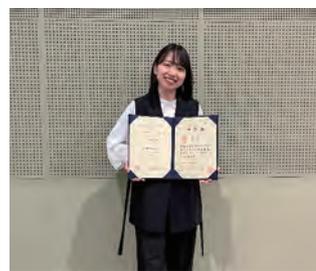
好きな食べ物はご飯系でいくとホットドックで、お菓子系ではバームクーヘンが大好きです。旅行に行った際はその地域のおいしいバームクーヘンを買って帰ることをいつも楽しみにしています。苦手な食べ物はほとんどないのですが、唯一「そば」が苦手です。でも、そば茶屋は大好きで、全てうどんに変更してもらって食べています。

③趣味は？

趣味はアニメを見ること、漫画を読むこと、ゲーム実況を見ること、そして料理です。あと最近では、自分でおいしいコーヒーを淹れることにもハマっていて、いろんなお店で豆を買うのも楽しいです。

④どんな科目を担当されていますか？

担当科目は保健体育です。主に球技を中心とした種目を学生に教えたり、学生と一緒に楽しんだりしています。



⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

専門分野は保健体育科教育学になります。授業改善はもちろん、新たな教材や評価の方法を考案するなどしています。特にわたしは、性別や障害の有無にかかわらず多様な生徒たちが一緒に楽しめる体育授業を目指し、「共生の視点」を踏まえた体育実技授業について研究を進めています。

⑥学生たちへのメッセージ

年齢はかなり皆さんと近いと思いますので、気軽に話しかけてもらえると嬉しいです。学生の皆さんと一緒にスポーツの楽しさを共有していきたいので、今体育授業で一緒になっているクラスの皆さんはもちろん、今後担当するクラスの皆さんも、いろんな種目でたくさんゲームしましょう！そして、わたしの専門種目であるダンスも皆さんと一緒に楽しめたらいいなと思っていますので、機会があれば皆さんぜひ一緒に踊りましょうね！！





後援会だより

一年を振り返って

後援会会長 白鳥 竜也

4月から後援会会長を務めている。副会長の頃と異なり、色々な役を依頼されることが増え、より深く高専の教育活動等について知ることができた1年間だった。特に高専祭の2日間は感動の連続であった。

文化祭では2年生のリベラルアーツの授業の成果発表の場として、「プレゼン大会」が開催され、私は審査員として招かれた。これまで多くの学生の発表を見てきた私としては、高校2年生のプレゼンが大体どの程度かという予想があった。しかし、全組が見事にそれを裏切る素晴らしい発表を披露し、本当に驚いた。ここまで素晴らしいプレゼンが出来る高校2年生がいるとは思わなかった。来年はぜひとも多くの保護者にも観覧してほしいと強く思った。

体育祭では来賓として櫓絵と応援団演武の審査を任されたが、これも大変難しい仕事だった。どの櫓絵もどの演武も素晴らしく、夏休み中から、いや、もっと前から膨大な時間を費やして、全身全霊を注ぎ込んだ

完成品に優劣を付けるのは、失礼ではないかと感じた。そうはいつでも与えられた役割を全うしなければならない。何とか点数をつけたものの、他の競技を楽しむ余裕が無くなってしまった。来年からは採点をAIにお願いできないものだろうか。

それにしても、子どもたちの持つ無限の能力を目の当たりにし、もっともっと応援したくなった1年であった。皆さんもぜひ学校に足を運んで、子どもたちの学校生活に触れてみてはいかがだろうか。

後援会活動に参加して

後援会副会長 喜聞 幸一郎

入学前のある日のこと。先輩理事さんから一本の電話。後援会の理事をしてほしいとの相談の連絡でした。最初は迷いましたが、子供達が小さい頃から学校行事などを一緒にしてきたお父さんも一緒とのことでしたので引き受けることにしました。それから1年間は理事として後援会活動に参加しましたが、2年目に入ろうとしていた時、副会長へのお話をいただき、大変迷ったのですが引き受けることにしました。

副会長となり三役会など定期的な会議に参加することも増えてきましたが、校長先生をはじめ各主事の先生方の話も聞くことができるようになり、KTC インターンシップや企業研究会のこと。地域、県内外企業との連携のことなどいろいろな情報を得ることができるようになりました。

後援会では体育・文化・検定など様々な活動へ助成を行っております。高専生は部活動をはじめ、それぞれの活動で活躍され毎年すばらしい結果を取っております。

本大会を見に行くことはできませんでしたが、ロボコンの中間報告会に初めて参加させていただき、実際にロボットの動きを見せてもらいました。学年を超えて編成された2チームの作ったロボットを見て大変感動しました。次回は必ず本大会に応援に行きたいと思いました。

また後援会の大きな一つの行事として情報交換会があります。昨年度まで支部会だった情報交換会は今回から名称を変えて企画し、各主事の話や卒業生、専攻科の生徒など先輩達の話聞くことができます。先輩達の話は「とりあえず入学した」「目標をもって入学した」。昨年度の発表では「留年も経験した」など、いろいろな経験話から現在活躍している様子まで大変貴重な話を聞くことができ、毎年楽しみにしている行事の一つです。高専祭など他にもまだまだたくさんの行事がありますので、少しでも多く参加したいと思っております。

最後になりますが、高専生がそれぞれ充実した学校生活を送れるよう応援していきたいと思っておりますので、保護者の皆さんの後援会活動への積極的なご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

高専の魅力を教えてくれた 息子に感謝

監査役 松下 俊一

「高専ってどんなところですか」と聞かれた時「工業系、ロボコン、5年制、応援団が凄い、就職率が高い等」皆さんがイメージしている高専は色々だと思う。

進路を決める時期に「普通科のK高校に進学しようかな」と息子に言われ、私自身、高専のことをあまり知らない状態で「高専もあるけどどうかな」と伝えたことが入学するきっかけとなったことを今でも鮮明に覚えている。そこから「高専合格」を目標に努力する日々が始まり、その後、無事合格し入学することができた。

入学してからの5年間は一貫教育で主体性を尊重する自由な雰囲気の中で勉強やクラブ活動（陸上、野球）、体育祭での応援団など、充実した楽しい高専生活を送っていた。その後、専攻科へ進学し、より高度な技術教育やインターンシップを通じて企業等の理解を深めていた。そして何より、高専最大の魅力である

社会で活躍するための必要な力を身につけることができ無事、希望していた企業から内定を獲得していた。

そんな息子を身近で見ていることは「自分のやりたいことに出会える場所」であり「(やりたいことに)出会うきっかけをつくる場所」まさに高専という場所を息子に勧めることができたことは、親としての役割を少しは果たせたのではないかと思う。

私自身も2年間、後援会の監査役を務める中で、高専教育や課外活動等について詳しく知ることができた。また、保護者同士で親睦を図ることができ、いろいろなことを教わることができた。

今後、息子には7年間で学ぶことができた「高専ブランド」を身にまとい自信を持って社会の中で活躍してほしい。そして、活躍することで「高専ブランド」を広めてほしい。私も息子を通じて知ることができた高専の魅力を1人でも多くの人に伝えていきたい。

「高専ブランド」を身にまとい社会の中で活躍できる人材が増えることを願っている。

自由 = 主体性 (可能性)

電気電子工学科1年 理事 米丸 誠

今年4月に入学し、8カ月が経過しました。「高専はどう？」息子に尋ねると、「自分には合っていると思う、良くも悪くも自由だからね」との返答。自分には合っているという言葉に安堵しました。そして、良くも悪くも自由。これが高専の最大の特徴だと感じているようでした。

私自身も高専の行事に参加する中で、自由 = 主体性というのを感じています。高専祭や体育祭を一緒に楽しまれた保護者の方は、学生たちの自立した姿に胸を打たれたのでは、ないでしょうか。自由だからこそ自己管理。この事を念頭に置き、高専5年間を過ごしてほしいと思います。

先日、後援会情報交流会に参加し、色々な情報を得る事が出来ました。1つ例に挙げると、専門科を卒業後、どういった進路に進むのか、という事。企業に就職するのか、それとも専門知識をより深める為に専攻科に進むのか、大学編入を選択するのか。卒業生や在

校生のお話を聞いて、非常に参考になりました。高専では専門分野について深い知識を得られる場所、その道のスペシャリストを育てるというイメージがありましたが、1人の女性が、幅広いスキルを持つジェネラリストを目指すとお話して下さったのが、とても印象に残っています。海外拠点やグローバルプロジェクトで働く機会が増加していますので、英語力や異文化理解があると大きなアドバンテージになると思いました。今年参加できなかった保護者の方もおられると思います。宜しければ、来年は是非、ご参加頂ければと思います。

最後に子供たちへのメッセージとしては、これからもさまざまな課題に挑戦しながら自分の可能性を広げていってほしいと思います。高専での5年間で、子供たちにとって人生の大切な土台となる事を願っています。



令和6年度 主な学校行事

日付	行事等
4月3日(水)	入学式／入寮式
4月4日(木)	始業式／LHR
4月6日(土)	寮生会リーダー研修
5月18日(土)	学生会リーダー研修
5月25日(土)	保護者懇談会
6月6日(木) ～6月10日(月)	前学期中間試験
7月26日(金) ～8月1日(月)	前学期末試験
8月15日(木) ～9月30日(月)	夏季休業
10月1日(火)	後学期開始
10月26日(土) 27日(日)	高専祭(文化祭) 高専祭(体育祭)
11月29日(金) ～12月3日(火)	後学期中間試験
12月23日(月) ～1月6日(月)	冬季休業
2月3日(月) ～2月7日(金)	後学期末試験
2月19日(水)	卒業研究発表
2月21日(金)	終業式／LHR
2月25日(火)	学年末休業
3月14日(金)	卒業式

7月 九州沖縄地区高専体育大会

8月 全国高専体育大会

9月 ロボコン九州大会

10月 全国高専プログラミングコンテスト

11月 全国高専デザインコンペティション

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第79号をお届けいたします。

さて、私事で恐縮ですが、私は本誌の令和3年度第76号より本号まで4年間の間、本誌の編集を担当して参りましたが、校内の委員会編成の都合により、今号を持って編集担当の任を終えることとなりました。

担当期間中には、令和3年度第76号からフルカラーに変え、学校側からの報告が中心となっていた誌面を、学生の執筆記事を中心にするなどの取り組みをしてきました。まだまだフルカラーの良さを活かしきれていなかったり、学生に執筆を依頼する分教職員の負担が増えたりなどの問題はありますが、「学生の活躍や学校の取り組みを伝えること」を念頭に微力を尽くして参りました。この目的が少しでも達成されていれば、と願うばかりです。至らない点多々あったかと存じますが、それらは次の編集担当者へ引き継ぎ、本誌をさらに発展させていければと考えております。

最後になりますが、「高専だより」の発行にあたり、ご寄稿いただきました執筆者の皆様には厚く御礼申し上げます。また、岸田広報センター長をはじめとする広報センター委員の皆様方には、様々な面でご協力・ご高配をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「高専だより」主担当：町 泰樹

「高専だより」編集委員会（広報センター）

広報センター長	岸田 一也（電子制御工学科）
広報副センター長	町 泰樹（一般教育科）
委員	白石 貴行（機械工学科）
	佐藤 正知（電気電子工学科）
	谷口康太郎（電子制御工学科）
	新徳 健（情報工学科）
	堤 隆（都市環境デザイン工学科）

担当事務 学生課図書情報係

「鹿児島高専だより」第79号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報センター
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

